

群馬縣ニ於ケル生糸販賣組合ノ組織及ビ活動ハ右述ブル所ノ如シ。余ハ茲ニ最大ノ組合ト稱セラル、碓氷社ニ就キ明治四二年ニ於ケル統計ヲ按スルニ、組合員數三〇、六七三ニシテ販賣金額四、五八六、〇九一圓ニ達セリ亦盛ナリト云フベシ。群馬ノ坐繰生糸業者カ器械生糸ノ進歩セル今日ニ於テ依然トシテ其地位ヲ維持セルノミナラズ、漸次發達ノ傾向ヲ示セルハ主トシテ是等販賣組合ノ力ニ依ルモノト云ハザル可ラズ。今若シ此種ノ組合ニシテ他種ノ工業ニ及ヒ由ツテ以テ小工業者ノ團結ヲ圖ルコト、ナラバ、小工業者ノ前途未タ憂フルニ足ラザルベシ。

#### 器械使用組合

#### 第四 器械使用組合

器械ノ應用ハ生産費ト密接ノ關係ヲ有シ大工業ガ小工業ヲ壓倒スル一原因タルコト固ヨリ言フ俟タズ。然リト雖モ器械ノ應用ヲ以テ大工業ノ獨占ト認ムルハ非ナリ。近時技術ノ進歩ニ伴ツテ各種ノ器械發明セラル、ヤ。其多數ハ只大工業ニ於テ利用セラルベキモノタリ去レド小工業ニ

於テモ亦之ヲ利用シ得ベキモノ少ナシトセズ。例ヘバ石油發動機、瓦斯發動機等ノ小規模ノ原動力機ノ如シ。或ハ電氣其他ノ原動力發動處ヲ設ケ其原力ヲ小工業者ニ分配スルノ方法アリ殊ニ水力電氣ニ於テ此事實ヲ見ルナリ。是等器械ノ買入、原力ノ裝置等ニ就キ之ヲ組合ノ事業トナシ、組合員ヲシテ低廉ナル費用ヲ以テ各種ノ器械ヲ使用シ原力ノ分配ヲ受クルコトヲ得セシムルコト、セバ、小工業者ト雖モ器械ノ利益ヲ享受スルヲ得ベク、特定ノ範圍ニ於テ器械應用ニ關シテ大工業ニ對シ小工業ノ競争ヲ助成シ其地位ヲ鞏固ニスルコト敢テ難キニ非ラズ。歐洲各國ニ於テ器械使用組合ハ寧ろ農業ニ於テ發展ノ傾向アリ工業ニ於テハ未ダ廣ク行ハレザルモ其事例少ナシトセズ余ハ此種ノ組合ガ小工業ノ前途ニ就キ至大ノ關係ヲ有セルコトヲ疑ハズ。

余ハ茲ニ我國産業組合ニ關スル統計ヲ掲ゲテ參考ニ資セン。

信用組合

其他ノ組合

合計



明治三三年	一三	八	二一	一八〇
同 三四年	一二三	四四	一六七	
同 三五年	三三一	一八一	五二二	
同 三六年	五四九	三二一	八七〇	
同 三七年	七五一	四八一	一、三三二	
同 三八年	九八六	六八五	一、六七一	
同 三九年	一、二九二	一、一七八	二、四七〇	
同 四〇年	一、五四三	一、八二〇	三、三六三	
同 四一年	一、七三四	二、六五七	四、三九一	
同 四二年	一、九六六	三、七二四	五、六九〇	
同 四三年	二、〇九九	四、六六八	六、七六七	

### 第九章 同業組合及ヒ工業會議所

同業組合ノ性質

同業組合トハ同種ノ工業ニ於テ營業ニ關係セル共同ノ利益ヲ保護進捗スルノ目的ヲ以テ組織セラレタル工業主ノ組合ナリ。願フニ現時ノ生産組織ノ基礎ハ自由競争ニ在リ。然レドモ此範圍内ニ於テ各生産者ノ間ニ自ラ利害ノ共通ナル場合少ナシトセズ。而シテ此事實タル同種ノ工業者相互ノ關係ニ於テ殊ニ顯著ナルモノアリ。例ヘバ技術ノ獎勵及ビ製品ノ改良等ニ關スル場合ノ如シ。今若シ若干ノ工業主ニシテ粗製濫造ヲナシ延イテ同種製品ノ聲價ヲ損スルコトアラシカ。其弊害ノ及ブ所ハ只若干ノ工業主ニ止ラズ、同業者全體ノ被ル損害ハ實ニ大ナルモノアルベシ。此時ニ當ツテ同業組合ノ存スルアラバ製品ノ検査ヲ勵行シ此弊害ヲ矯正スルコト敢テ難シトセズ。且夫レ同業組合ハ嘗ニ同業者相互ノ關係ニ於テ其必要ヲ見ルノミナラズ、他業者ニ對シテ同業者ノ利益ヲ保護スルニ



於テ其効力ノ大ナルモノアリトス。蓋シ同業者共通ノ利益ハ往々他業者ノ爲メニ侵害セラル、コトアリ。今特種ノ工業ニ於テ其原料トシテハ内地産出品ヨリハ寧ロ輸入品ヲ用ユルヲ以テ利トスル事實アリト假定セヨ。此場合ニ於テ若シ政府ガ内地産出品ヲ保護スル爲メニ輸入品ニ對シテ輸入税ヲ課スルコトアラバ工業者ハ原料ニ對シテ一層ノ高價ヲ拂ハザル可ラズ。從ツテ工業者ト原料生産者トノ間ニ利害ノ衝突ヲ惹起スヲ免レズ。是レ我國ニ於テ精糖業及石油業ニ於テ見ル所ノ事實ナリ。此時ニ當ツテ同業組合ハ工業者ノ利益ヲ代表スルノ機關トナリ、立法ニ行政ニ之ヲ阻止スルコトヲ得ン。又現時ノ生産組織ニ於テハ利益ノ分配ニ關シテ資本家ト労働者トノ衝突ハ到底之ヲ避クルコトヲ得ズ。之ヲ解決スルノ方法トシテ労働者ハ職工組合ヲ組織シ工業主ニ當ルコトハ必然ノコトナリトス。此場合ニ於テ大工業主ニ在ツテハ獨力之ニ對抗スルハ容易ノ業ナルモ、多數ノ小工業者ニ在ツテハ其勢力ノ微弱ナルガ爲メニ職

工組合ノ提出スル不當ノ要求モ、暴戾ナル措置モ之ヲ防グニ由ナカラシムラズ。同業組合ノ勢力ヲ藉ラザル可ラズ。之ヲ要スルニ同業組合ハ同種工業者ノ共同ノ利益ヲ保護進捗スルガ爲メニ必須欠ク可ラザルノ組織ナリト云フベシ。

同業組合ノ性質ヲ按スルニ先キニ列舉シタル會社及「トラスト」ノ營業組織ト全タク其趣ヲ異ニセルモノタリ。奈何ントナレバ同業組合ハ共同ノ營業ヲ目的トスルニ非ラズ、各工業者ガ營業ノ主體タル資格ヲ傷クルコトナケレバナリ。只「カルテル」ハ其性質稍同業組合ニ似タリト雖モ、此種ノ團體ハ「トラスト」ノ階梯ヲナセルモノニシテ其目的トスル所ハ營業方法ノ幾部ニ就キ共同ノ經營ヲナスモノタリ。同業組合ノ如クニ營業方法以外ニ同業關係ヨリ起ル所ノ各種ノ利益ヲ企圖スルモノニ非ラズ。同業組合ハ又産業組合ト異ナレリ。顧フニ産業組合ハ主トシテ小工業者ノ爲メニ存在セル組合ナルモ同業組合ハ強チ小工業者ニ限ルニ非ラズ、



大工業者ノ組合モ多々之アリ、且又各種ノ産業組合中同業ノ關係ニ基ケルモノアリ、例ヘバ販賣組合及ビ原料購買組合ノ如シ。然レドモ其他ノ産業組合ニ在テハ同業ノ關係ヲ以テ組織ノ要件トナスコトナク、異種ノ工業者ヲモ網羅セルモノ甚ダ多シ。是故ニ同業ノ關係ハ産業組合ノ要素ニ非ラズト斷言スルヲ得ベシ。加之ノミナラズ産業組合ハ特定ノ目的ヲ有セル營利事業ノ組合ナルモ同業組合ノ目的ハ其範圍極メテ廣大ニシテ同業關係ヨリ生ズル所ノ各種ノ利益ヲ企圖スルニ在リ而シテ自ラ營利事業ヲナスコトナシ。是等ノ事實ニ基キ二者ヲ區別スルコトヲ得ベシ。

同業組合ハ組織ノ方法ニ基キ之ヲ二種ニ分類スルコトヲ得ベシ。一ハ任意的組合ニシテ一ハ強制的組合トス。任意的組合トハ法令ノ結果ニ依ラズ同業者ノ自由意志ニ基キテ設立セラレタル組合ヲ指シ、強制的組合トハ政府ノ命令ニ依ツテ強制的ニ設立セラレタル組合ヲ指セリ。各國ノ實例ヲ按ズルニ多數ノ同業組合ハ任意的組合ニシテ、強制的組合ハ甚ダ寥

同業組合ノ分類

々タリ。埃太利ニ於ケル同業組合及ビ獨逸ニ於テ労働者災厄保險法ノ結果トシテ組織セラレタル同業組合ハ純然タル強制的組合ニ屬セリ。又近時強制的組合ト任意的組合トノ折衷ニ成ル所ノ一種ノ同業組合ハ各國ニ起レリ。此組合タル同業者ノ若干員數ニシテ組合設立ノ意志ヲ發表シ而シテ政府之ヲ承認スルトキハ他ノ同業者ハ之ヲ拒絶スルノ權利ナク必ラズ組合ヲ組織セザル可カラザルモノタリ。我國重要物産同業組合法ハ此主義ヲ採レリ。又獨逸ニ於テ工業法ニ基キ設立セラレタル手工業組合ハ之ガ實例ヲ示セルモノトス。

同業組合ハ更ラニ組合員ノ經濟的地位ニ基キテ之ヲ二種ニ區別スルコトヲ得ベシ。即チ大工業者ノ組合及ビ小工業者ノ組合是ナリ。英佛兩國ニテハ此區別ヲナサズ。均シク「アツソシエーション、ヲフ、エンプロイヤース」(association of employers)「サンデツカー、プロフェツションネル」(syndicat Professionnelle)ナル名稱ヲ用キルヲ常トスルモ、獨逸ニ於テハ二者ノ間ニ明瞭ナル



區別ヲナシ、大工業者ノ組合ニ對シテハ「ウンターネーマース、フェルバン  
ト」[Unternehmers Verband] 或「ベルーフ、ゲノツセンシャット」[Berufsgenossenschaft]  
ナル語ヲ用ヒ小工業者ノ組合ニ對シテ「ゲウエルベ、フェライン」[Gewerbe  
Verein] 殊ニ手工業組合ニ對シテ「インヌング」[Innung] ナル語ヲ用ヒタ  
リ。

同業組合ハ其ノ由ツテ來ルヤ遠シ、其淵源ハ中古時代歐洲諸國ニ存在セ  
ル手工業組合ニ在リトス。今此手工業組合ノ性質ヲ按ズルニ、當時營業自  
由ノ主義ハ未ダ國法ノ認ムル所タラザリシカ爲メニ手工業組合ハ工業  
經營ニ關スル獨占ノ權力ヲ有シ組合ニ加入セザル者ハ工業ヲ營ムコト  
ヲ得ズ、而シテ組合員トナルニハ規定ノ手續ヲ經ザル可ラズ、先ヅ徒弟ト  
ナリテ若干ノ年期ノ間師匠ニ就キテ技術ノ教習ヲ受ケ、試験ヲ經テ準師  
匠トナリ修業ノ爲メ各地ヲ周遊シ更ニ一定ノ年限ヲ經タル後、名作ヲ提  
出シ、組合ノ檢定ヲ受ケ始メテ師匠トナルコトヲ得、師匠ノ資格ヲ得タル

同業組合ノ  
起原

者ハ一定ノ加入金ヲ納メ、組合員トナリタル後、始メテ獨立ノ營業ヲナス  
コトヲ得ルナリ。之ヲ要スルニ當時ノ手工業組合ハ獨占ノ性質ヲ有セル  
特種ノ團體タリ、只同業ノ關係ニ基ケル共同ノ利益ヲ保護スルヲ以テ目  
的トセル現時ノ同業組合ト同一視スベキニ非ラズ。

手工業組合ノ行フ所ノ事業ハ國ニ依ツテ異ナリ又組合ノ種類ニ依ツテ  
異ナルモ茲ニ其要領ヲ述ベシ。

(1) 技術ニ關スル監督ヲ施スコト。即チ技術ニ關シ精細ナル規定ヲ設ケ  
テ組合員ヲシテ之ニ基キテ製作ヲナサシムルナリ。例ヘバ織物組合ニ於  
テ羊毛ヲ原料ニ使用スルモノハ他ノ原料ヲ混用ス可ラズ、又織物ノ長サ  
及ビ幅ハ若干タルベシト定ムルガ如シ、或ハ組合ニ依ツテハ製品ニ對シ  
検査ヲ行ヒ之ニ證明ヲ與フルモノアリ、而シテ此検査ニ不合格トナリタ  
ル物品ハ之ヲ販賣スルコトヲ禁止セリ、英國ニテハ或種類ノ組合ハ夜業  
ヲ禁止セリ、是レ夜業ハ製品ノ疎惡ヲ來タス一原因ト認メタルニ依ルナ



- リ。
  - (2) 原料ノ共同購入ヲ行フコト。例ヘバ織物組合ニ於テ羊毛ノ共同購入ヲナシ鍛冶組合ニ於テ鋼鐵ノ共同購入ヲ行フガ如シ。
  - (3) 製造方法ノ幾部ヲ共同ニ行フコト。例ヘバ織物組合ニ於テ織物ノ仕上ヲ共同ニセルガ如シ。
  - (4) 製品ノ價格ヲ一定スルコト。
  - (5) 組合員ノ生産額ヲ制限スルコト。此方法トシテ組合員ノ使用スル器械ノ數、徒弟ノ數等ヲ制限セリ。
  - (6) 勞働者、徒弟ノ教育ノ設備ヲナシ。又其賃銀ヲ一定スルコト。
  - (7) 組合員ニ對シ共濟制度ヲ設ケ組合員ノ災厄、老廢及ビ孤兒寡婦等ニ適當ナル救濟ヲ施スコト。
- 是等ノ事業ニ就キ製品價格ノ一定及ビ生産額ノ制限ノ如キハ現時ノ「カルテル」ニ似タリ。又原料ノ共同購入及ビ製造方法ノ幾部ヲ共同ニ行フコト

同業事業ノ組合

トノ如キハ産業組合ノ特質ヲ帶ビタリ。然レドモ「カルテル」及ビ産業組合ハ近世ノ產物ニシテ手工業組合ト何等ノ歴史的關係ヲ有セルニ非ラズ。只夫ノ獨逸現時ノ小工業組合ニ於テ盛ンニ行ハル、徒弟教育ノ設備ノ如キ或ハ共濟慈善ノ制度ノ如キ悉ク中古ノ手工業組合ノ系統ヲ襲ヒタルモノニ非ルハナシ。殊ニ一派ノ論者ガ唱フル所ノ小工業組合ヲ以テ強制的組合トナシ嚴密ナル徒弟制度ヲ實行セシメントスルノ議ノ如キハ中古ノ手工業組合ノ制ヲ復活セシメントスルモノニ外ナラズ。

歐洲各國ニ於ケル同業組合ノ經營セル事業ヲ按ズルニ、大工業組合ト小工業組合トノ間ニ多少ノ差違アリテ之ヲ概論スルコト能ハザルヲ以テ今此區別ニ基キ順次之ヲ述ブベシ。

大工業組合ノ事業ハ組合ノ種類ニ依ツテ其趣ヲ異ニセル所アルモ其大要左ノ如シ。

- (1) 工業ニ關スル立法行政ニ就キ或ハ工業ノ經營方法ニ就キ同業者ノ



利益ヲ保護スルコト、即チ工業法、專賣特許法、交通機關、金融機關、通商貿易、租稅等ノ事項ニ關シテ同業者ノ意見ヲ發表シ公私ノ當局者ヲシテ之ヲ實行セシムルコト。

- (2) 事業ノ關係ニ基キ同業者間ニ起レル紛議ノ調停ヲナスコト。
- (3) 勞働者ノ運動ニ對抗シ工業主ノ利益ヲ主張スルコト。例ヘバ勞働者ニシテ勞働條件ニ關シ工業主ニ要求スルコトアラバ、同業組合ハ之ヲ以テ組合ノ問題トナシ、組合員共同ニ之ヲ處分シ若シ勞働者ニシテ同盟罷工ヲナスノ計畫アラバ之ニ先ツテ組合員申合セ同盟解雇ヲナシ、或ハ既ニ同盟罷工ニ罹リタルトキハ罷工中組合員ハ醜金ヲナシ以テ微力ナル工業者ヲ補助スルコト等ナリ。近時大工業ノ同業組合ハ此目的ノ爲メニ設立セラレタルモノ多シ。此種ノ組合ノ多數ハ職工ノ同盟罷工ノ際ニ臨時組織セラレ漸次常設ノ機關タルニ至リタルノ事實ヲ見テ之ヲ知ルベシ。近時獨佛兩國ニ於テハ同業組合ニシテ組合員ノ爲メニ同盟罷工ニ對

スル保險ノ設備ヲナセルモノアリト云フ

- (4) 同業者ノ間ニ勞働紹介ノ業ヲ營ムコト。此事業ハ各國同業組合ニ於テ其事例甚ダ少ナシ。只獨逸ニ於テ近時稍々盛ナルヲ見ルノミ。一八九八年同業組合ニ附屬セル勞働紹介所聯合會ノ決議ニ曰ク、勞働紹介ハ大小工業ノ利益ノ爲メニ資本家之ヲ經營セザル可ラズト。亦以テ其趨勢ノ一斑ヲ知ルニ足ランカ。

- (5) 勞働保險ヲ營ムコト。此事實ヤ獨逸災厄保險法ニ依ツテ組織セラレタル同業組合ニ於テ之ヲ見ル。即チ組合員ノ傭使セル勞働者ガ業務上ノ災厄ノ爲メニ負傷シ若シクハ死亡シタルトキハ、組合ハ之ニ對シテ一定ノ救濟ヲナスノ制ナリ。近時英佛兩國ニ於テ勞働者賠償法ノ制定セラルハ、之ニ則ツテ勞働保險ヲ營メル同業組合少ナシトセズ。然レドモ獨逸ニ於テハ此種ノ事業ヲ營メルハ強制的組合ナルニ反シテ英佛兩國ノ組合ハ悉ク任意的組合ナリトス。



小工業者ノ組合、殊ニ手工業者組合ノ經營セル事業ハ大工業者ノ組合ニ比スレバ稍々其性質ヲ異ニセリ茲ニ其主要ナルモノヲ掲ゲン。

- (1) 徒弟ノ養成ヲナスコト。此方法トシテハ徒弟學校ノ設備ヲナセルモノ多シ。其他徒弟ノ紹介ヲナシ或ハ徒弟契約ノ立案ヲナシ或ハ習業證書ヲ製シテ一定ノ年期ヲ終了セル徒弟ニ之ヲ交付セリ。
- (2) 試験處ヲ設ケ組合員ノ爲メニ原料器械等ノ試験ヲナスコト。或ハ検査處ヲ設ケ製品ノ検査ヲナシ之ニ對シテ特定ノ證明書ヲ與フルコト。
- (3) 技術練習ノ爲メニ巡回教師ヲ置キ或ハ講演會、講習會ヲ開クコト。
- (4) 意匠模型等ニ關スル陳列館ヲ設ケ或ハ書籍館ヲ備へ或ハ工業學校ヲ設クルコト。
- (5) 調停局ヲ設ケ營業ニ關シテ組合員相互ノ間ニ起レル紛議ヲ調停シ、或ハ修業契約等ノ事項ニ關シテ組合員ト徒弟ノ間ニ起レル紛議ヲ調停スルコト。

(6) 共濟制度ヲ設ケ組合員ヲシテ定期ニ特定ノ金額ヲ釀出セシメ之ヲ以テ組合員ノ疾病災厄等ノ場合ニ定規ノ救濟ヲナシ、或ハ組合員ノ死亡セルトキニ祭料ヲ給シ又ハ孤兒寡婦アルトキハ之ニ對シテ扶養ノ資ヲ與フルコト。此制度タル先キニ述ベタル如ク中古ノ手工業組合ヨリ因襲セルモノニシテ、獨逸ニ於テハ今尙ホ盛ンニ行ハレタリ。勞働保險法ノ内容ニハ之ニ則ツテ制定セラレタル事項少ナシトセズ。此法律ニ於テ政府ハ新タニ各種ノ保險組合ヲ強制的ニ設立セシムルヲ原則トセルモ、共濟ノ制度ヲ設ケタル既存ノ同業組合ニ對シテハ之ト同一ノ效力ヲ有セシムル規定ヲ存セリ。

本邦同業組合ノ沿革ヲ按ズルニ、幕政時代ニ於テ稍々其萌芽ヲ發セリ。其組織ハ歐洲中古時代ノ手工業組合ニ似タル所アリ。例ヘバ組合ニ加入セザル者ハ營業ノ權利ヲ有セザルコトノ如シ。維新以後各種ノ工業ニ行ハレタル同業組合ハ歐洲ニ於ケル現時ノ同業組合ト其性質ヲ同フシ、營業



自由ノ主義ニ依リ設立セラレタルモノナリ。歐洲中古時代ノ手工業組合及ビ本邦幕政時代ノ同業組合ノ如クニ營業ニ關スル獨占ノ目的ノ爲メニセルニ非ラズ。此種組合ノ發達ヲ扶助スルノ目的ヲ以テ、農商務省ハ明治十七年省令ヲ以テ同業組合準則ヲ發布セリ。其序言ニ曰ク同業者組合ヲ結ビ規約ヲ定メ、營業上福利ヲ増進シ濫惡ノ弊害ヲ矯正スルヲ圖ル者不尠候處、往々其目的ヲ達スルコト能ハザル趣ニ付、今般同業組合準則相定候條向後組合ヲ設ケ規約ヲ作り認可ヲ請フ者アルトキハ、此準則ニ基ヅキ可取扱此旨相達候事。

政府ハ明治三十一年重要輸出品同業組合法ヲ制定セリ。其要項ヲ掲ゲン。  
 第一條 重要輸出品ノ生産、製造又ハ販賣ニ關スル營業ヲ爲ス者ハ同業者又ハ密接ノ關係ヲ有スル營業者相集リテ本法ニ依リ同業組合ヲ設置スルコトヲ得。

第二條 同業組合ハ組合員協同一致シテ營業上ノ弊害ヲ矯正シ信用ヲ

保持スルヲ以テ目的トナスベシ。

第三條 同業組合ヲ設置セムトスルトキハ豫メ地區ヲ定メ其ノ地區内ノ同業者五分ノ四以上ノ同意ヲ得テ創立總會ヲ開キ定款ヲ議定シ農商務大臣ノ認可ヲ受クベシ。

第四條 同業組合設置ノ地域内ニ於テ組合員ト同一ノ業ヲ營ム者ハ其ノ組合ニ加入スベシ。但シ營業上特別ノ狀況ニ依リ農商務大臣ニ於テ加入ノ必要ナシト認ムル者ハ此ノ限ニ非ラズ。

第五條 同業組合ハ營利事業ヲナスコトヲ得ズ。

第六條 同業組合ハ組合相互ノ氣脈ヲ通ジ其ノ目的ヲ達スル爲同業組合聯合會ヲ設置スルコトヲ得。

重要輸出品同業組合法ノ目的トスル所ハ同業關係ヨリ生ズル共同ノ利益ヲ保護スルニ在ルハ言フ俟タザルモ、特ニ製品ノ粗製濫造ヲ防止スルヲ以テ主眼トナセルコトハ第二條ノ規定ヲ見テ之ヲ知ルベシ。而シテ本



法ノ特色ハ幾分カ強制的組合ノ主義ヲ採リタルニ在リ。即チ第三條第四條ノ規定ニ依レバ同一地區内ノ同業者五分ノ四以上ノ同意アルトキハ組合ヲ設立スルコトヲ得ベク、其他ノ同業者ハ假令ヒ之ニ賛成セザルモ加入ノ義務ヲ帶ブルコト、ナセリ。

本法ハ明治三十三年重要物産同業組合法トナレリ其規定ニ就テハ大差ナシ只其適用ノ範圍ヲ廣クセルノミ。

本法制定以後本法ニ依リ設立セラレタル同業組合ノ總數ハ明治四十三年十二月商務省調査ニ依レバ左ノ如シ。

業務ノ種類	組合數
蠶種蠶糸	一六九
織物	一二八
米穀	六一
木材	二八
肥料	二五

陶磁器	二四
紙	二三
醬油味噌等	二二
金屬製品及加工品	一五
木炭	一五
眞田	一三
漆器	一四
藥品	一三
砂糖	一一
砂	一一
木竹製品	一一
麵類	一〇
度量衡器	一〇
鹽	九
花	九
雜	一八三



是等同業組合ノ經營セル事業ヲ見ルニ、組合員ニ對シテ製品ノ検査ヲ行フモノアリ。例ヘバ羽二重同業組合、花筵同業組合等ノ如シ或ハ職工徒弟ノ監督ヲナシ、之ガ爭奪ヲ豫防スルノ方法ヲ設ケタルアリ例ヘバ生糸同業組合等ノ如シ或ハ工業主ト賃業者トノ關係ヲ檢束スルノ制ヲ立テタルアリ西陣織物同業組合ニ於テ此實例ヲ見ルナリ。是等ノ事項ハ多數ノ組合ニ行ハレ稍々効ヲ奏シタルガ如シ。往々商品陳列館、試験場講習所等ヲ設クルモノアルモ其數ヤ甚ダ少ナク、成績ノ見ルニ足ルベキモノナシ。之ヲ要スルニ我國同業組合ハ其發達ヤ幼稚ニシテ其事業ヤ萎靡振ハズト云フノ外ナシ。

工業會議所  
ノ組織

同業組合ナルモノハ工業者ガ同業ノ關係ニ基ケル共同ノ利益ヲ期圖スルガ爲メニ起リタルコトハ先キニ述ブル所ノ如シ。是故ニ各種ノ工業ニ關聯セル共同ノ利益ヲ圖ルハ同業組合ノ力ノ能ク及ブベキニ非ラズ。此

目的ノ爲メニハ更ニ各種ノ工業者ヲ包括セル所ノ團體ナカル可ラス。工業會議所ノ必要於是乎起レリ。

歐洲各國ニ於ケル工業會議所ハ其組織ニ基キテ之ヲ二種ニ大別スルコトヲ得ベシ。即チ一ハ商工會議所ナル名稱ヲ以テ商業會議所ト併置セラレタルモノニシテ、一ハ商業會議所ト分離シテ獨立セル工業會議所ナリ。第一種ノ實例ハ獨逸ニ在ツテハ普魯西「バイエルン」<sup>ザクセン</sup>「ウエルテムブルグ」州及ビ以太利、白耳義、和蘭ノ諸國ニ於テ之ヲ見ル。第二種ノ實例ハ獨逸ニ於ケル帝國都府、即チ「ハムブルグ」<sup>ルユベック</sup>「ブレーメン」ノ都市及ビ佛國ニ存セリ。白耳義ニハ曾ツテ之アリシモ近時廢止セラレタリ。奧太利ニテハ此種ノ工業會議所ヲ設クルコトハ屢々議會ノ議ニ上リタルガ未ダ實行ノ緒ニ就カズ。此種ノ工業會議所ハ獨逸ニテハ「ゲウエルベ、カマ」<sup>ト稱シ佛國ニテハ「シヤムブル、コンシユルタチーブ、ヂ、ザー、エ、マニユフ</sup>「ト稱シ佛國ニテハ「シヤムブル、コンシユルタチーブ、ヂ、ザー、エ、マニユフ」<sup>ト稱セリ</sup>



現今歐洲各國ニ於ケル工業會議所ノ多數ハ第一種ニ屬シ即チ商業會議所ト合同セラレタルモノニシテ、第二種ノ組織ニ依リ獨立ノ團體タルモノ甚ダ少ナシ。然レドモ第二種ノ工業會議所ノ必要ハ夙ニ識者ノ承認スル所トナリ、漸次其數ヲ増加セルモノ、如シ。顧フニ商工會議所ニ在ツテハ大工業者ノ勢力強大ニシテ小工業者ノ意志ハ之ニ依ツテ代表セラル、コトヲ得ザルノ憂アリ。今若シ特ニ工業會議所ヲ設クルトキハ小工業者ノ利益ヲ期圖スルニ就キ其便ヤ少シトセズ、是レ工業會議所ヲ以テ獨立ノ團體トナスノ必要ナル所以ナリ。佛國ニ於テ此制度ノ實行セラル、ハ固ヨリ此理由ニ外ナラズ、蓋シ佛國ハ歐洲ニ於ケル精巧工業ノ根據地ナリ。而シテ精巧工業ハ普通工業ニ反シテ其工業組織ハ小規模ナルヲ常トスルガ故ニ、佛國ノ工業者中ニハ小工業者尙ホ多數ヲ占メタリ。去レバ該國ニ於テ小工業者ノ意志ヲ發表スルノ機關トシテ、必ラズヤ工業會議所ヲ設ケザル可ラザルナリ。

茲ニ佛國工業會議所ノ組織ヲ按スルニ工業會議所ハ自治體ノ要求ニ基キ縣會及ビ縣知事ノ承認ヲ經テ、政府ノ命令ニ依リ之ヲ設立スルモノトス。其地域ハ政府之ヲ定メ、或ハ一自治區ニ止マルアリ。或ハ數郡ニ跨ルモノアリ。或ハ一縣ニ涉レルモノアリ。會員ノ數ハ十二名ト定メ復撰法ヲ以テ之ヲ撰出ス。之ガ撰舉人ハ商事裁判官ノ撰舉人ヲ以テ之ニ充テタリ。商事裁判官ナキ所ノ地域ニ在ツテハ之ト同一ノ方法ヲ以テ撰舉人ヲ定ムルナリ。即チ該地域内ニ於テ營業稅ヲ納ムル者ヨリ撰出セラレタル委員會之ヲ撰舉スルモノトス。此撰舉委員會ハ該地域内ニ五ヶ年以上住居シテ商工業ヲ營ミ、年齢三十歳以上ノ者ニ就キ議員ヲ撰出スルナリ。撰舉ノ結果ハ絶對多數ニ依ツテ之ヲ決定シ、決撰投票ニ於テハ比較多數ヲ以テ之ヲ決定セリ。議員ノ任期ハ六年トシ二ヶ年毎ニ三分ノ一ノ改撰ヲ行フ。會議所ノ經費ハ該地域内ノ自治體之ヲ負擔スルモノトス。監督ハ商工大後之ヲ行ヘリ。工業會議所ノ事務ハ工業ノ利害ニ關シ調査ヲナシ意見ヲ



發表スルコト、當局者ノ諮問ニ應ジ、意見ヲ開陳スルコト、工業裁判局ノ設置ノ可否、及び其地域ノ關係ニ就キ意志ヲ具陳スルコト等ハ其重要ナルモノトス。

## 第十章 工業教育

工業教育ノ普及ガ工業進歩ノ一大要件ナルコトハ固ヨリ説明ヲ要セザルナリ。顧フニ獨逸ガ近時最新ノ工業國トシテ世界ニ雄視セルハ種々ノ事情ニ基ケルモ、工業教育ノ普及ハ之ガ一原因タルヲ失ハジ、佛人「ブロンデル」氏ハ「獨逸商工業ノ勃興」ト題スル著書ニ於テ之ヲ明言セリ。又佛國ガ精巧工業ノ根據地トシテ歐洲各國ニ於テ之ト比肩スルモノナキハ國民ノ氣質自ラ之ニ適合セルニ依ルコト言フ俟タザル所ナルモ夫ノ「コルベア」以來工業教育ノ發達モ亦與ツテ力アリト云フ。是レ獨逸工業教育ノ泰斗タル「アイテルベルガー」氏ノ説明セル所ナリ。英國ハ歐洲第一流ノ工業國タルニ拘ラズ、工業教育ノ設備ハ甚ダ不完全ニシテ而モ朝野ノ識者之ヲ輕視セルモノ、如シ、是レ理論ヨリモ寧ロ事實ヲ尙ビ教育ヨリモ寧ロ經驗ヲ重ンズル英國人固有ノ氣風ニ基クモノニシテ、嘗ニ工業教育ニ於



テノミ然ルニ非ラズ、一般ノ教育制度ニ於テ常ニ見ル所ノ事實ナリトス。然リト雖モ此國ニ於テモ列國ノ競争ニ促サレ自然ノ大勢ニ抵抗スル能ハズ輿論ハ漸次工業教育ノ必要ヲ認ムルコト、ナリ、一八八二年議會ハ終ニ工業教育調査會ヲ設置シ、大陸諸國ニ於ケル工業教育ノ現狀ヲ調査シ由ツテ以テ之ニ關スル將來ノ方針ヲ立ルコトヲ圖レリ。次イテ一八八九年及ビ一八九〇年ノ工業教育法制定セラレ、地方團體ニ與フルニ地方税ノ幾部分ヲ割キ工業教育費ニ充ツルノ權能ヲ以テスルニ至リタリ。是等ノ事實ニ徴スレバ、工業教育ノ普及ハ工業ノ進歩ト密接ノ關係ヲ有セルコト固ヨリ疑ヲ容レズ。

工業教育ノ目的タル其種類一ニシテ足ラズ其範圍ヤ甚ダ廣シ、或ハ工業教育ヲ以テ單ニ精巧ナル技師、工學者ヲ養成スルノ方法トナス者アラン、余ノ見ル所ハ乃チ然ラズ、技師、工學者ヲ養成スルハ工業教育ノ一部ナリ、今若シ、完全ナル工業教育ノ組織ヲ立ツルトセハ只之ヲ以テ足レリトセ

工業教育目  
的

ズ、更ニ進ンデ職工教育ノ制度ヲ設ケザル可ラズ。蓋シ工業ノ進歩ハ必ラズヤ精巧ナル技師ト與ニ精巧ナル職工ヲ俟タザル可ラズ。奈何ニ精巧ナル技師アルモ職工ノ技術之ニ伴フコトナクンバ、工業ノ進歩ハ得テ之ヲ期ス可ラズ。是レ猶ホ軍隊ニ於テ士官兵卒共ニ精銳ナルニ非ンバ勇壯ナル行動ヲナス能ハザルガ如シ。今歐洲各國ニ於ケル工業教育ノ沿革ヲ按スルニ、其起原ハ技師教育ニ在リシモ、漸次職工教育ヲ以テ其中心トナセルノ看ナキニ非ラズ。殊ニ近時工業教育ノ局ニ當ル者ハ技師、工學者ノ養成ヨリモ寧ロ重キヲ職工ノ養成ニ置ケルモノ、如シ、顧フニ歐洲各國ニ於テ各種ノ工業ガ尙ホ自家製造ノ時期ニ在リシトキニ當ツテ職工教育ノ方法トシテハ徒弟制度ナルモノアリ、同業組合ハ之ニ關シテ嚴重ナル監督ヲ施シ、一定ノ年期ヲ了ヘ定規ノ試験ヲ經テ師匠ノ資格ヲ有セルモノニ非レバ工業ニ從事スルヲ許サ、リキ。其後營業ノ自由ハ國法ノ認ムル所トナリ、同業組合ハ強制ノ力ヲ失フニ至ツテモ徒弟制度ハ尙ホ存在



シ手工業者ノ教育ハ之ニ依ツテ其目的ヲ達スルヲ得タリ。然ルニ工業革新ノ時至リ工業組織ガ工場製造ニ移ルニ及ンデハ、徒弟制度ハ次第ニ頽廢シ只小工業ニ於テ纔カニ其痕跡ヲ留ムルアルノミ。而シテ大工業ノ職工ハ工場ニ於テ多年勞働ノ結果トシテ、自然ニ技術ヲ習得スルノ外ハ何等ノ教育ヲ受クルコト能ハズ、職工教育ノ方法ハ甚タ不完全トナレリ。於是乎職工教育ノ問題ハ各國工業者ノ間ニ勃興シ種々ノ畫策ハ之ガ爲メニ起レリ、其主要ナルモノヲ徒弟、職工ヲ教育スル所ノ工業學校、徒弟學校及ビ實業補習學校トナス、此種ノ學校ハ或ハ工業ガ單獨ニ經營セルモノアリ、或ハ同業組合ノ事業トナスモノアリ、或ハ自治體ノ設立ニ係ルモノアリ、其方法組織ニ就テハ各國其趣ヲ異ニセルモ其目的トスル所ハ同一ナリトス。

工業教育ノ事ヲ論ズル者或ハ徒弟制度ノ復活ヲ以テ職工教育ノ惟一ノ方法トナシ、職工ノ養成ヲ以テ目的トセル工業學校ノ効力ヲ疑フモノナキニ非ラズ、余ノ見ル所ニ依レバ徒弟制度ト學校教育トノ利害ハ容易ニ判斷シ得ベキニ非ラズ、抑モ學校教育ハ只工業ニ關スル智識ヲ與フルニ止マリ、精巧ナル技術ハ徒弟制度ニ非レバ之ヲ習得スル能ハサル場合アリ。然レドモ徒弟制度ハ其本來ノ性質トシテ自家製造ニ於テノミ行ハルベキモノニシテ、工場製造ニ於テハ奈何ナル方法ニ依ルモ之ヲ實行スルニ由ナカラシム。蓋シ多數ノ職工カ工場ニ群居シ、一定ノ時間ヲ限リ畫一ナル規律ノ下ニ勞働セル場合ニ、工場主ハ是等ノ職工ニ托スルニ若干ノ徒弟ヲ以テシ之ガ教習ヲ委スルモ到度目的ヲ達スル能ハザルベシ。徒弟ニ在ツテモ他ノ職工ト均シテ工場ノ傭人ナルガ故ニ、特ニ師匠ニ對スル情誼ノ觀念ナシ、技術稍々熟スルニ至レバ、他ノ工場ニ轉ジテ進ンテ獨立ノ職工トナルヲ欲スルハ人情ノ然ラシムル所ナリ。是レ我國ノ工場ニ於テモ屢々見ル所ノ事實ナリ之ヲ要スルニ徒弟制度ハ工場製造ト相容レザルノ性質ヲ有セルモノタリ。是故ニ自家製造ニ於テハ此制度ノ存在スベ



キ餘地アルモ、工場ノ職工ヲ養成スルニ當ツテハ此制度ハ何等ノ效力ナ  
キモノト云ハザルヲ得ズ。

工業教育ハ尙ホ他ノ重要ナル目的ヲ有セリ。何ソヤ工業主タラントスル  
者ニ向ツテ工業經營ニ必要ナル技術ノ思想ヲ注入スルコト是ナリ。抑モ  
工業主タル者ハ嘗ニ經濟ニ關スル智識ヲ有スルヲ以テ足レリトセズ、必  
ラズヤ或程度ノ技術思想ナカル可ラズ、工業主ニ望ムニ技師タルコトヲ  
以テスルハ非ナリト雖モ、技術思想ト經濟思想トノ調和ハ實ニ工業ノ經  
營上必要ナルコト、ス。歐洲各國ノ工業教育ノ制度ニ於テ、此必要ハ夙ニ  
認識セラレ、工業學校ノ教科ニ於テ此目的ヲ示セルモノ多シ。

余ハ茲ニ工業教育ノ實例ヲ示サンガ爲メニ主トシテ歐洲ニ於テ工業教  
育ノ最モ發達シ且ツ完備セリト稱セラル、佛獨二國ニ就キ述ブル所ア  
ルベシ。因ニ云フ、茲ニ述ブル所ノ佛獨工業教育ノ組織ハ純粹ナル工業學  
校ニ關スルモノタリ。夫ノ小學及ビ中學ニ附屬セル手工教育ノ如キ、或ハ

工業教育ノ  
實例

是等ノ學校ト殆ンド其性質ヲ同フシ加フルニ幾分ノ工業教育ヲ以テセ  
ル所ノ設備ハ本論ノ範圍外トナセリ。

佛獨兩國ノ工業教育ハ左ノ三種ノ學校ヨリ成ル。

- (1) 普通工業學校
- (2) 中等工業學校
- (3) 高等工業學校

此三種ノ學校ハ各々其目的ヲ異ニセリ。普通工業學校ハ職工ノ養成ヲ目  
的トシ、中等工業學校ハ職工長、技手ノ養成ヲ目的トシ、高等工業學校ハ技  
師、學者ノ養成ヲ目的トナセリ。而シテ工業主ノ養成ハ普通及ビ中等ノ工  
業學校ニ於テ之ヲ行フモノトセリ。此三種ノ學校ハ猶ホ軍人ノ教育ニ於  
テ兵卒ノ訓練、下士ノ訓練及ビ士官ノ訓練ニ各々特別ノ設備アルガ如ク、  
此三種ノ學校具ツテ後始メテ工業教育ノ組織完全ナリト云フベシ。然ル  
ニ佛獨兩國ニ於テモ此三種ノ學校ニ多少ノ欠點アリ。普魯西ニ於テハ中



等工業學校ノ數甚ダ少ナク、佛國ニ於テモ亦同一ノ非難アルヲ免レズ、去レバ右掲グル處ノ三種ノ學校ハ工業教育ニ關スル理想的組織ニシテ、實際ニ於テハ未ダ完全ナル模型ヲ示セル國ナシ。

第一 普通工業學校 此種ノ學校ニ二種アリ。一ハ工業ニ關スル一般ノ智識ヲ與ヘ、之ヲ卒業セル者ハ奈何ナル工業ニ從事スルモ差支ナキモノタリ。佛國ニテハ「エコールドメチエ」(école de métier) 獨逸ニテハ「ゲウエルベシエール」(Gewerbe schule) ト云フ。一ハ特種ノ工業ニ關スル教育ヲ施シ、之ヲ卒業セル者ハ只其種類ノ工業ニノミ從事スルヲ得ルモノタリ。佛國ニテハ「エコールダプランチサーヂ」(école d'apprentissage) 獨逸ニテハ「フハシュー」(Fach schule) ト云ヘリ。此二種ノ學校ニハ各々長短得失アリ。一概ニ之ヲ判斷ス可ラズ。蓋シ第一種ノ學校ニ於テハ専門ノ技術ヲ授ケザルモ、一般ノ工業ニ關スル普通ノ智識ヲ得ルガ故ニ職業ヲ求ムルニ便ナリ。第二種ノ學校ハ之ト反對ノ結果ヲ生ズルナリ。

佛國ニ於ケル普通工業學校ハ同業組合ノ經營ニ係ルモノ多シ。巴里市ハ最モ此種類ノ學校ニ富メリ、寶玉細工、眞珠細工、馬車製造、汽鐘製造、花鳥毛細工、紙細工、窓掛飾等ニ關スルモノ殆ンド枚舉ニ遑アラズ。其他或ハ工業者ノ個人事業タルモノアリ、或ハ職工組合ノ事業タルモノアリ、或ハ工業教育ニ關スル協會ノ事業タルモノアリ、其種類ヤ甚タ多シトス。各地方都市ニ於テモ亦同一ノ事實アリ。

獨逸ニ於ケル普通工業學校ノ多數ハ都市ノ事業トシテ經營セラレタリ。該國ニ於テ苟モ工業都市トシテ名アル所ニハ殆ンド此設ナキハナシ。其他工業者團體若シクハ私人ノ事業タルモノ多少之アリ、之ヲ佛國ニ比スレバ學校ノ數ハ稍々少ナシト雖モ中央ニ集中セズシテ各地方ニ分布キノ宜シキヲ得タルモノガ如シ。

普通工業學校ノ學年ハ大概三四年トシ、小學教育ヲ了ヘタル者ヲ入學セシムルヲ以テ通例トス。學科ハ工業ノ種類ニ依ツテ異ナルガ故ニ之ヲ概



言スルヲ得ズト雖モ、學科ト技術トニ對シテ各々時間ヲ均分シ、技術教習ノ方法トシテハ特ニ工場ヲ設ケ精練ナル職工ヲ以テ教師トナスヲ常トセリ。

此種學校ノ效果ノ大ナルコト固ヨリ疑ヲ容レザル所ナルモ、佛國ノ現況ニ就キ「ボネー」氏ノ說ニ依レバ、是等ノ學校ニ在學セル徒弟ニ就キ、入學者ト卒業者ノ數ニ著シキ差異ヲ生ジ、入學者ノ約半數ノミ卒業セルノ事實アリ。之ガ原因ノ主タルモノハ兒童ノ嗜好未ダ定マラザル時ニ當ツテ入學セシムルガ故ニ中途嫌惡ノ念ヲ起サシムルコト、及ビ身體ノ發育未ダ充分ナラザル者ニ向ツテ勞働ヲナサシムルガ爲メニ其體力ノ堪ヘザルコト等ナリトス。此事實ハ我國工業教育ノ局ニ當ル者ノ參考ニ資スベキモノナルベシ。

普通工業學校ノ一種トシテ補習教育ノ制度ヲ舉ゲザル可ラズ。蓋シ普通工業學校ハ將來ノ職工ヲ養成スルヲ以テ其目的トセリ、現ニ工場ニ在ツ

テ勞働ニ從事セル幼少ノ職工ニ對シテ補習教育ノ必要起ルナリ。補習教育ノ制度ハ已ニ普通教育ヲ了ヘ現在徒弟タリ或ハ職工タル幼少者ニ對シ其勞働時間ノ幾分ヲ割キテ毎週數回、晝間或ハ夜間ニ適當ナル工業教育ヲ授クルヲ以テ其目的トナス。此種ノ設備ハ方今各國ニ盛ンニ行ハレタリ。

獨逸ニ於テハ一九〇一年調査ニ依レバ、此種ノ補習學校ノ總數九、八三四ニシテ生徒ノ總數四一八、五一六トス。各聯邦ニ於テ之ヲ以テ強制設備トナシ一種ノ義務教育トナセル所アリ。例ヘバ「ザクセン」「バーデン」ノ如シ、獨逸ニ於ケル工業補習教育ノ設備ハ都市、同業組合及ビ私人ノ事業ノ三種ニ分レタリ。或ハ政府ノ補助ヲ受クルモノナキニ非ラズ。其名種ハ區々一ナラズ、或ハ工業補習學校 (gewerblich forbildung schule) 或ハ徒弟學校 (lehrling schule) 手工學校 (Handwerkerschule) ト云フ。都市ノ經營ニ係ルモノハ伯林ニ在ル工業講習處 (Gewerbe Saal) ノ組織ヲ見バ、其一班ヲ知ルヲ得ン。此學校



ハ各種ノ徒弟ニ製圖ノ術ヲ教ユルガ爲メニ設立セラレタルモノナリ。之ニ就學セル者ニハ石版工アリ、鍍工アリ、器械工アリ、其種類甚ダ多シ。其年齡ハ十四歳乃至十九歳トス。其多數ハ小學ノ科程ヲ了ヘタル後直チニ就學セル者ナリ。中ニハ二十五歳乃至三十歳ノ者モ往々之アリ。是等ハ現在職工タル者ト知ルベシ。此學校ノ教師ニハ二種アリ。一ハ技師、製圖教師等完全ナル教育ヲ經タル者ニシテ、一ハ職工及ビ職工長等經驗ニ依ツテ技術ヲ習得シタル者ナリ。教師ノ多數ハ後者ニ屬セリ。此事タル徒弟教育ノ爲メニ注意スベキコト、ス。教師一人ノ受持ツベキ徒弟ノ數ハ二十五人以下ト定メ由ツテ以テ教授ノ放漫ニ失セサルヲ務メタリ。同業組合ノ經營ニ係ル徒弟學校ノ設備ニ就キ柏林市ニ在ル裁縫職組合ノ徒弟學校ヲ按スルニ、該學校ハ豫科ト本科トニ分チ、豫科ハ通常ノ補習後育ヲナスモノトシ、讀書、作文、算術、簿記等ヲ教授シ、本科ハ技藝ノ教育ヲナセリ。技藝教育ハ學理ト實際トヲ包括セルヤ言フ俟タズ。就學徒弟ノ年齢ハ十五歳乃

至十八歳トシ小學教育ヲ終了シタル者ニ限レリ。學期ハ四ヶ年トシ時間ハ每週二回トシ授業時間ヲ四時間トセリ。教師ハ同業組合員タル裁縫職ノ師匠或ハ裁縫職工ヲ以テ之ニ充テタリ。

佛國ニテハ各地方ニ此種學校ノ數甚ダ多シ。其ノ最モ著名ナルモノヲ一八六四年「ロ―ン」州工業教育協會ガ里昂市ニ設立シタルモノトス。其組織ハ獨逸ニ於ケル工業學校ト大差ナシ。

英國ニ於テモ亦此種ノ學校ノ設備ハ盛ニ行ハレタリ。多クハ夜學校ノ方法ヲ執リ現ニ工場ノ職工タル者ヲ收容セリ。英國ニ於ケル職工教育ノ中心ハ此夜學校ニ在リト云フモ不可ナキガ如シ。

奧太利ニテハ、一九〇二年—一九〇三年ノ間此種學校ノ總數八二九ニシテ生徒ノ總數一一三、三七一トス。其經費ハ三分ノ一ハ政府ノ支出ニ係リ、三分ノ二ハ地方團體ノ負擔タリ。

匈加利ニテハ自治體ヲシテ徒弟學校ヲ設クルノ義務ヲ帶バシメ而シテ



就學義務ヲ強制セリ。

第二 中等工業學校 中等工業學校ハ佛國ニ於テハ政府ノ設立ニ係ルモノ其數三アリ「シャロン」「エイ」「アンヂェー」ノ諸市ニ在リ之ヲ稱シテ國立工藝學校 (Ecole nationale des arts et métiers) ト云フ此三者ハ鐵工業、木工業ニ關スルモノトス。又「アレイ」市及「ド」市ニ鑛山學校アリ。是レ亦政府ノ設立セルモノナリ。私立學校トシテ最モ著名ナルハ里昂「ボルドー」「リール」市ニ在ルモノニシテ、之ニ次グモノヲ「リッエ」「ナント」「レイム」ノ諸市ノ工業學校及「ビ」「アミアン」市ニ在ル紡織學校等トナス。

獨逸ハ佛國ニ比スレバ更ニ此種ノ學校ニ富メリ、今其重ナルモノヲ舉ゲンカ。「ミュルハウゼン」「イセルローヘン」「ミットワイダ」市ノ工業學校、「ハーゲン」市ノ機械學校、「ライン」州ノ鐵工學校、「グレー」「フェルド」市及「ビ」「ケムニツ」市ノ織物學校等ナリ。是等ノ學校ハ或ハ各聯邦政府ノ設立ニ係ルモノアリ、或ハ都市ノ事業タルモノアリ。然レドモ此種ノ學校ハ總テ帝國政府ノ經營ニ

委スベシトノ議論近時盛ンニ起レリ。獨逸技師協會ノ如キハ一八八九年既ニ此議決ヲナセルヲ見テ之ヲ知ルベシ。獨逸ニ於テ此種學校ノ成蹟ハ大ニ見ルベキモノアルニ拘ラズ。一派ノ論者ハ之ヲ以テ工業教育ニ必要ナル機關ト認メザル者アリ。一八八二年獨逸工業者聯合會ニ於テ此意見ヲ發表セリ。其ノ説ク所ニ依レバ技手、職工長ノ如キハ高等工業學校ニ於テ之ヲ養成スルヲ得ベシト云フニ在リ。去レド此議ヤ遂ニ輿論ノ贊同ヲ得ザリキ。

第三 高等工業學校 高等工業學校ハ何レノ國ニ於テモ政府ノ設立ニ係レリ。佛國ニ於テハ巴里ニ鑛山學校、土木學校アリ。主トシテ政府ノ技師ヲ養成スルヲ目的トセリ。又工藝中央學校アリテ民業ニ從事セントスル者之ニ入學セリ。其他美術工業學校アリ、「サンテチエン」市ニ鑛山學校アリ。最初ハ中等教育ヲナスガ爲メニ設立セラレタルモ現今ハ技師養成ヲ以テ其目的トセリ。



獨逸ニハ高等工業學校ノ數甚ダ多シ所謂「テヒニッシエホッホシューレ」[technische hochschule]ナルモノニシテ各聯邦殆ンド之ヲ有セザルハナシ。普國ニテハ「ベルリン」「ハノーバー」「アーヘン」ノ三市ニアリ「ブランシュワイヒ」「ニハ」「プラインシュワイヒ」市ニアリ「ザクセン」「ニハ」「ドレスデン」市ニアリ。「ヘッセン」「ニハ」「タルムスタット」市ニアリ「バーデン」「ニハ」「カールスルー」市ニアリ。「ウエルテムベルグ」「ニハ」「スツットガルト」市ニアリ。「バイエルン」「ニハ」「ミュンヘン」市ニアリ。其學科ヲ見ルニ大概六種ニ分テルモノ、如シ。建築學科、土木工學科、器械學科、應用化學科、數學科、理學科是ナリ。

我國工業教育ノ現状ヲ按スルニ之ヲ歐洲各國ニ比スレハ尙ホ幼稚ナル地位ニ在リト云ハザルヲ得ズ。高等教育ノ設備トシテハ東京、京都、仙臺、熊本、福岡工科大学ノ外、東京、大阪、京都、名古屋ニ各々一ノ高等工業學校アリ。中等教育及ビ普通教育ノ設備ニ關シテハ、政府ハ明治三十二年勅令第二十九號ヲ以テ實業學校令ヲ發布シ之ガ準則ヲ示セリ。茲ニ其ノ工業ニ關

本邦工業教育ノ現状

スルモノヲ掲ゲンニ先ツ學校ノ種類ヲ工業學校(中等教育ノ設備)實業補習學校、徒弟學校、普通教育ノ設備トナシ何レモ府縣市町村ニ於テ設置スルモノトシ、私立ノ學校モ亦之ヲ認メタリ。

工業學校ニ就テハ明治三十二年文部省令第八號工業學校規程ヲ發布セリ。該法ニ依ルトキハ工業學校ノ學科ハ土木科、金工科、造船科、電氣科、木工科、鑛業科、染織科、窯業科、漆業科、圖案繪畫科等ニ分テ之ヲ適宜ニ撰擇シテ教科ヲ定ムルコトヲ得セシム。右ノ外修身、讀書、作文、數學、物理、化學、圖畫、體操等ノ一般ノ中等教育ヲ授クルモノトセリ。修學年限ハ三箇年ヲ通則トシ一箇年以内ノ延長ヲ許セリ。入學者ノ資格ハ年齡十四歲以上ニシテ高等小學校ノ卒業者又ハ之ト同等以上ノ學力ヲ有セル者トセリ。工業學校ハ二ヶ年以内ノ學年ニ於テ豫科ヲ設クルコトヲ得、又別科及ビ專攻科ヲ設クルコトヲ得ルト定メタリ。

實業補習學校ハ明治三十五年文部省令第一號實業補習學校規程ニ依ル



トキハ、職業ニ要スル智識技能ヲ授クルト同時ニ普通教育ノ補習ヲナシ  
 實業教育ト普通教育トヲ并行セシムルヲ以テ目的トナセリ。該學校ノ科  
 目ハ工業ニ關スルモノニ在ツテハ物理、化學、圖畫、模型、幾何、製圖、圖案、力學、  
 材料、工具製作等ト定メ之ニ就キ撰擇スルモノトス此外ニ修身、國語、算術  
 等ノ普通教育ヲ授クルモノトス。入學ノ資格ハ年齡十年以上トシ學力ハ  
 尋常小學卒業以上ノモノトシ又特ニ尋常小學ヲ卒業セザルモ學齡ヲ過  
 ギタル者ノ入學ヲ許スモノトス。教授方法ハ特ニ學校ノ體裁ヲ具フルコ  
 トヲ要セズ、土地ノ情況及ビ職業ノ種類ニ依リ便宜ノ時期ヲ撰ビ夜間休  
 業日等ニ於テ教授ヲナスモノトセリ。又政府ハ當初之ヲ小學校ニ附屬セ  
 シムルノ方針ヲ執リ、後ニ至ツテ之ヲ各種ノ實業學校及ヒ中學校ニ擴張  
 シタルモ、事實ニ於テハ補習教育ハ小學校ト相伴フモノタリ、中等教育ニ  
 於テ之ヲ實行シタルモノナシ。

徒弟學校ハ職工タルニ必要ナル教育ヲ授クル所トシ補習學校ニ比スレ

ハ稍々専門的ノ設備タルモノトス。明治二十七年文部省令第二十號徒弟  
 學校規程ニ依ルニ學科ハ修身、算術、幾何、物理、化學、圖畫及ビ職業ニ直接ノ  
 關係アル諸學科及ビ實習トナシ學科ノ編制ハ一種若クハ數種ノ職業ニ  
 就テ之ヲ定メ若シクハ數種ノ職業ニ共通シテ之ヲ定ムルコトヲ得セシ  
 ム。入學ノ資格ハ年齡十二歳以上及ビ尋常小學校卒業以上ノ學力ヲ有セ  
 ルモノトセリ。其修業年限ハ六ヶ月以上四ヶ年以内トセリ。學校ノ設立ハ  
 特ニ之ヲナザズシテ小學校ニ附設スルコトヲモ許セリ。  
 是等ノ法令ニ基キテ設立セラレタル諸學校ノ統計左ノ如シ。

工業學校

	學校數	生徒數
明治三八年	三〇	四、三二四
同 三九年	三〇	四、六四六
同 四〇年	三二	五、〇八六



同	四一年	三三	四、五七七
同	四二年	三五	四、九二五

工業補習學校

明治	三八年	九四	五、四三六
同	三九年	一五四	八、〇四一
同	四〇年	二二六	一二、八三七
同	四一年	二五一	一四、三九五
同	四二年	二九三	一六、七一〇

徒弟學校

明治	三八年	四六	三、三二八
同	三九年	五七	四、五〇三
同	四〇年	七五	六、一五九

同	四一年	八一	六、七九六
同	四二年	八七	七、一九

(備考) 本表徒弟學校ハ商業ト工業トヲ包含セルモノナリ  
 政府ハ實業教育ノ費用ニ就キ國庫補助ノ必要ヲ認メ明治二十七年法律  
 第二十一號ヲ以テ實業教育費國庫補助法ヲ制定セリ。該法ニ依ルトキハ  
 政府ハ各種ノ實業學校ニ對シテ其設立者ノ負擔額ト同額以內ノ範圍ニ  
 於テ補助費ヲ下付スルコト、セリ、其期間ハ五ケ年ヲ限り尙ホ必要アル  
 トキハ之ヲ繼續スルコトヲ得ルモノトス。補助ヲ受クル學校ノ設立者ハ  
 補助期間内ハ其經費ヲ繼續支出スルノ義務アルモノトセリ此規定ニ依  
 リ政府ノ支出セル費額左ノ如シ。

明治	三四年	二六九、六四六圓
同	三五年	三一七、八六七
同	三六年	三一八、五三八
同	三七年	三一九、一二〇

第十章 工業教育



同	三八年	三二〇、〇〇〇
同	三九年	三〇八、二三〇
同	四〇年	三二一、八八〇
同	四一年	三二三、八三〇
同	四二年	三二四、四八〇

## 第十一章 專賣特許制

專賣特許制  
ノ必要

專賣特許制ノ目的トスル所ハ、法律ニ依リ工業技術ノ發明者ヲシテ其發明ヨリ生ズル利益ヲ獨占セシムルニ在リ。抑モ現時各國ノ經濟政策ハ自由競争ノ原則ヲ守リ、特定ノ個人ヲシテ經濟上ノ利益ヲ壟斷セシメザルヲ以テ通義トナセリ。今專賣特許制ノ性質ヲ見ルニ工業技術ノ發明者ニ與フルニ一種ノ特權ヲ與フルモノナリ、從ツテ現時經濟政策ノ原則ト相容レザルモノ、如シ。然リト雖モ此制度ハ方今各國ノ間ニ行ハレ假令ヒ内容ニ就テ多少其趣ヲ異ニスルモノアルモ、苟モ工業國ト稱セラレ、所ニシテ、此制度ヲ存セザルハナク、近年ニ至ツテハ更ニ進ンデ一種ノ國際法規トナレリ。其ノ然ル所以ノモノハ他ナシ。此制度ハ工業技術ノ保護獎勵ノ爲ニ必須欠ク可ラザルモノタルニ由ル。願フニ工業技術ノ發明タル他ノ科學的發明ト稍其性質ヲ異ニシ、直接ニ生産ノ補助ヲナシ工業者ヲ



利スルモノタリ。或ハ由ツテ以テ勞力ヲ減少スルコトヲ得ベク、或ハ由ツテ以テ生産ヲ増加スルヲ得ン。之ガ爲メニ工業者ノ掌中ニ落ツベキ經濟上ノ利益ヤ大ナルベシ。今若シ專賣特許ノ制度ナシト假定センカ。奈何ニ有益ナル發明ト雖モ只世間一般ノ工業者ヲ利スルニ止マリ、發明者自身ハ何ノ得ル所ナカルベシ。此場合ニ於テ發明者ニシテ若シ公共心ニ富メルカ、然ラザルモ名譽心ニ強キ者ナラシメバ、自己ノ利害ヲ眼中ニ置カズ、進ンデ發明ノ結果ヲ公ニスルナルベシ。然レドモ此種ノ發明者ハ稀有ニ屬セリ。多數ノ發明者ニ在ツテハ其發明ヲ秘シテ世間ニ發表セザルベク、偶々發明者ノ關係セル工場ニ就キ之ヲ利用スルコトアランモ他ノ工業者ハ毫モ其利ヲ享クルコトナキヤ必セリ。然リト雖モ專賣特許制ヲ設ケテ發明者ヲ保護セル所ニ在ツテハ決シテ此弊ナカルベシ。奈何ントナレバ此場合ニハ發明者ハ特定ノ條件ニ依リ他人ヲシテ其發明ヲ利用セシムルコトヲ得レバナリ。右述ブル所ハ既ニ發明ヲナシタル者ニ關スル專

賣特許制ノ利益ナリ。若夫レ此制度ガ將來ノ發明ヲ獎勵スルノ力ヲ有セルコトハ之ニ由ツテ推スコトヲ得ベシ。

歐洲ノ學者ニシテ專賣特許制ヲ排斥スル者アリ。其ノ最モ顯ハル、者ヲ佛人「シユヱリエー」トナス。氏ノ議論ヲ要スルニ、總テノ發明ハ突如トシテ起ルモノニ非ラズ。長キ年代ニ於ル幾多ノ研究ノ結果ヲ總合シテ成リタルモノニ外ナラズ。然ルニ只最後ノ發明者ノミ之ヨリ生ズル利益ヲ獨占スルハ不當ノ事タルヲ免レズト云フニ在リ。願フニ發明ガ歴史的發達ヲナセルコトハ固ヨリ疑ヲ容レザル所ナルモ、幾多ノ理論ヲ綜合シテ之ヲ實際ニ應用シ、生産上ノ實利ヲ生シタルノ名譽ハ之ヲ最後發明者ニ歸セザルヲ得ズ。是ノ如ク理論ト實際トヲ調和シタルノ報酬トシテ、發明者ニ與フルニ專賣ノ權利ヲ以テスルハ決シテ背理ノコトニ非ルベシ。專賣特許制ノ必要ハ右述ル所ノ如シ。然レドモ此制度タル元來自由競争ノ原則ニ對シテ特例ヲ開ケルモノナルガ故ニ、各國ノ法律ニ於テ此權利



ヲ附與スルニ就テハ種々ノ制限ヲ附シタリ。或ハ一定ノ年期ヲ限リ此以後ニハ此權利ヲシテ消滅セシムルノ規定アリ。或ハ此權利ヲ附與スベキ發明ノ種類ヲ定メテ而シテ特定ノ種類ニ屬セル發明ニハ此權利ヲ附與セザルノ規定アリ。或ハ發明ノ種類ニ依ツテ公益ノ必要アルトキハ之ヲ買上グルノ規定アリ。是等ノ規定タル公共ノ利益ヲ害セザル範圍ニ於テ發明者ノ利益ヲ保護スルノ趣旨ニ基ケルモノニ外ナラズ。現今各國ニ於テ專賣特許制ノ必要ハ最早爭フ可ラザルコト、ナリタルモ、公共ノ利益ト發明者ノ利益トヲ調和シ相戾ラザラシムルノ方法ニ就キ立法者ノ苦心焦慮セルヲ見ル。

歐洲ニ於ケル專賣特許制ハ印刷術ノ發明ノ結果トシテ起リタルモノナリ。顧フニ印刷術ノ未ダ行ハレザル時代ニ在ツテハ工業技術ニ關スル新發明ハ國家ノ保護ヲ受ケザルモ發明者ノ意思ニ戻リテ廣ク傳播スルノ危険ナカリキ。印刷術ノ發明セラル、ニ及ンデハ國家ハ之ニ向ツテ相當

ノ保護ヲナスニ非レバ發明ノ事實ハ忽チ世間ニ公表セラレ發明者ノ利益ヲ害スルニ至ルヲ免レザルナリ。

專賣特許制ノ沿革ヲ按スルニ當初ハ之ヲ附與スルハ君主ノ特權ニ屬シ法律ノ規定ニ依ツテ保護セラル、コトナカリシモ、次第ニ之ニ關スル法律ハ制定セラレ終ニ之ヲ以テ發明者ガ法律ニ依ツテ得タル權利ト認ムルニ至レリ。

歐洲專賣特許制ハ始メテ英國ニ起レリ。即チ一六二三年ニ制定セラレタル專賣特許法ヲ以テ之ガ嚆矢トナス。先是英國ニ於テ特許權ハ其種類ノ何タルヲ問ハズ國王ハ隨意ニ之ヲ授與スルノ特權ヲ有シ、而シテ之ニ對シテ徵收スル所ノ收入ヲ以テ皇室ノ歲入トナセシガ故ニ、發明ノ保護ニ關シ其方法確固ナラズ從ツテ弊害ニ堪ヘザリキ。國會ハ屢々國王ニ迫リテ之ヲ君主ノ特權ヨリ割キテ國會ノ制定セル法律ニ依ラシムルコトヲ圖レリ。同年ノ專賣特許法ニ於テ發明ニ關スル特許權ハ法律ニ依ルニ非



レバ之ヲ得ル能ハザルコトヲ規定シ、且ツ此特許ハ一定ノ年期ヲ限ツテ其效力ヲ有スルコト、ナセリ。次イデ一七九〇年更ニ之ヲ修正シ稍々完備ナル專賣特許法發布セラレタリ。英國ノ現行法ハ大體此法律ニ依リタルモノトス。

佛國ニ於テ專賣特許法ノ制定ハ一七九一年ニ始レリ。先是革命政府ハ人權宣言ニ於テ、發明者ノ權利ハ自然的人權ノ一種ナルコトヲ明示セリ。顧フニ英國ノ專賣特許法ハ特許權ハ發明者ニ與フル國家ノ特典ナリトノ觀念ニ基キテ起リタルモ、佛國ニ於テハ最初ヨリ之ヲ一種ノ私人ノ權利ト認メ之ヲ保護スルハ政府當然ノ職務ナリトノ主義ヲ採レリ。是レ二國ノ專賣特許制ガ其精神ヲ異ニセル所ナリトス。此法律ニ於ケル發明ノ範圍ハ極メテ廣汎ニシテ現今各國特許法ノ如クニ管ニ工業技術ニ關スル發明ニノミ限ルニ非ラズ。法文ノ示ス所ニ依レバ人類ノ福祉ヲ増進スベキ總テノ斬新ナル思想ニ對シテ此權利ヲ與フルコト、セリ。去レバ保險、

銀行、貸借、取引、財政計畫等ニ關スル新奇ナル設計計畫ニ就テモ亦特許權ヲ與フルコト、ナレリ。然ルニ是等ノ事項タル特許權ヲ與フベキ性質ノモノニ非ルヲ以テ、翌年ノ法律ヲ以テ發明ノ種類ヲ制限シ只工業技術ニノミ限ルコト、セリ。一八四四年改正專賣特許法ノ制定アリ爾來幾回ノ修正ヲ經テ現行法成立セリ。自耳義、以太利等諸國ノ法律ニシテ之ニ則ルモノ少カラズ。

獨逸ニ於ケル專賣特許制ハ一八一五年始メテ普國ニ制定セラレタリ。其他諸聯邦ニテ之ニ倣ヒタルモノアリキ。一八三三年關稅同盟ノ締結セラレ、ヤ、普國ノ發議ニ基キ各聯邦ノ間ニ專賣特許ニ關スル條約ヲ結ビ一聯邦ニテ得タル發明ノ特許ハ他ノ聯邦ニ於テモ均シク保護セラル、コトヲ定メタリ。然レドモ此條約ハ強制ノ力ヲ欠ケルガ爲メニ實效ヲ見ル能ハザリキ。一八七〇年獨逸帝國ノ建設セラル、ニ及ンデ帝國法律トシテ專賣特許法ヲ制定スルノ議頻リニ起レリ。然レドモ識者ノ間其ノ不必



要ヲ主張セル者多少之アリ數年ノ間世論紛々タリシガ終ニ一八七七年之ガ制定ヲ見ルニ至レリ。此法律ニ依レバ專務ノ官吏ヲ設ケズ審査ノ方法不完全ナリシヲ以テ處置ノ公平ヲ欠クモノアリ世間ノ非難少ナカラザリキ。一八九一年終ニ議會ノ問題トナリ改正法ノ制定ヲ見ルニ至レリ。

我國專賣特許法ハ明治四年四月ニ制定セラレタル新發明品專賣略則ニ始マレリ。翌年三月第百五號布告ヲ以テ之ガ執行ヲ中止シ、向後發明ヲナス者アルトキハ地方官ヲシテ發明品及ビ發明手續ヲ取調べ之ヲ工部省ニ届デシムルコト、ナセリ。十八年七月更ラニ專賣特許條例ヲ發布セリ。二十一年十二月特許條例ヲ制定シ、三十二年修正ヲ加ヘタリ明治四十二年更ラニ現行特許法ヲ制定セリ。

今各國專賣特許法ノ規定ヲ按ズルニ其細目ニ至ツテハ多少ノ差異アリ逐一之ヲ述ブルコト能ハズ。去レバ余ハ茲ニ其大要ニ就キ概括叙述セン。

特許ノ種類  
及ヒ期間

專賣特許ノ目的ハ發明ノ保護ニ在ルコトハ先ニ述ブル所ノ如シ。然レドモ發明ナルモノハ其範圍ヤ甚ダ廣ク其解釋ヤ明確ヲ期シ難シ。各國ノ法律ニ於テ其規定區々ニ別レタリ。或ハ發明ノ性質ニ就キ其効果ノ多少ニ依リ之ヲ區別シ技術上有益ナル發明ト雖モ其効果ノ少ナキモノニ對シテ特許權ヲ與ヘサルモノアリ。例ヘバ工業ノ原料トシテ特種ノ物品ヲ使用スルノ發明アランニ其物品ノ産額極メテ少ナク之ニ關スル發明ハ只虛名ニ止マリ殆ンド實効ナキ場合ニハ此權利ヲ與ヘザルガ如シ。此制度ハ獨逸ニ行ハレタリ。或ハ發明ノ性質ニ就テ此區別ヲナサズ苟モ技術上實益アリト認メタルモノハ其効果ノ多少ニ拘ラズ特許權ヲ與フルモノアリ。此制度ノ實例ハ奧太利ニ於テ之ヲ見ルナリ。

又各國ノ法律ニ於テ發明ト發見トノ區別ヲナシ只發明ニ對シテノミ特許權ヲ與フルモノアリ。獨逸ノ如シ。或ハ二者與ニ特許權ノ目的タルモノアリ。佛蘭西、米國ノ如シ。願フニ發見トハ外界ニ存在セル物件及ビ勢力ヲ



新タニ見出ダスコトヲ云ヒ、發明トハ外界ニ存在セル物件及ビ勢力ヲ新  
 タニ特定ノ目的ノ爲メニ利用スル方法ヲ案出スルコトヲ云フ。去レバ特  
 許權ハ之ヲ發明ニノミ制限スルハ至當ノ事タルモ此二者互ニ密着ノ關  
 係ヲ有シ殊ニ發明ハ發見ヲ前提トセル場合多シ。新奇ナル物件若シクハ  
 勢力ヲ發見シ之ヲ利用シテ後始メテ發明ハ生ズル事例ハ屢々之ヲ見ル  
 ナリ。是レ發見ニ對シテモ亦特許權ヲ與フル一理由タリ。  
 特許權ヲ與フベキ發明ハ物質的ナルヲ要スルコトハ固ヨリ言ヲ俟タズ。  
 夫ノ學理ノ發明ト云ヒ思想ノ斬新ト云フガ如キ場合ハ特許法ノ範圍ニ  
 屬セズ。瑞士ノ特許法ニ於テハ此意義ニ就キ更ラニ制限ヲ附シ、發明ハ模  
 型ヲ以テ示シ得ベキモノニ限ルトノ規定ヲ設ケタリ。是レ立法ノ當時化  
 學工業者ノ要求ヲ容レ化學工業ニ關スル發明ニ對シテ此權利ヲ與ヘズ  
 廣ク之ヲ使用セシムルノ趣意ニ出デタルモノナリ。他國ニ於テ未ダ是ノ  
 如キ事例ナシ。

特許權ノ目的物ハ發明ニ在リ。然レドモ單ニ發明トノミ云フトキハ工業  
 技術上最モ有益ナル工夫ニシテ、尙ホ特許權ヲ得ル能ハザルノ憂ナキニ  
 非ラズ。於是乎專賣特許ノ目的物トシテ發明ニ加フルニ改良ナルモノヲ  
 以テスルコトハ各國其歸ヲ一ニセリ。即チ特許權ノ種類ヲ發明ニ關スル  
 モノト、改良ニ關スルモノトノ二種ニ分チ、前者ハ獨創ノ發明ニ對シテ得  
 ベキ特許權ヲ指シ後者ハ他人ノ發明ニシテ既ニ此權利ヲ得タルモノニ  
 幾分ノ改良ヲ加ヘタル場合ニ此改良ニ對シテ得ベキ特許權ヲ指スコト  
 ハナセリ。是レ工業技術ノ保護ノ爲メニ必要ナルコト、云フベシ。  
 各國ノ專賣特許法ハ其發明ノ目的物ニ關スル物品ノ種類ヲ制限セリ。即  
 チ發明ノ目的物ニシテ飲食品、嗜好品及ビ醫藥品ナルトキハ特許權ヲ與  
 ヘザルヲ常トス。是レ他ナシ是等ノ物品ニ關シ此權利ヲ與フルトキハ公  
 共ノ利益ヲ害スルノ恐アルニ由ルナリ。但シ米國ニテハ醫藥品ニ對シテ  
 ハ特許權ヲ與ヘタリ。



特許權ノ附與ハ一定ノ期間ヲ限リ發明者ヲシテ永久ニ之ヲ私スル能ハザラシムルコトハ各國ノ通例ナリトス。是レ亦公益ノ必要ニ基クモノニ外ナラズ。即チ發明者ガ一定ノ期間ニ於テ相當ノ利益ヲ得タル後ハ發明ヲ以テ公共ノ所有トナシ。何人ト雖モ隨意ニ之ヲ利用スルヲ得セシムルハ工業進歩ノ爲メニ洵ニ必要ノコト、ス。各國專賣特許法ニ規定シタル最長期ハ左ノ如シ。

英吉利	十四年
獨逸	十五年
米國	十七年
佛蘭西	十五年
奧匈國	十五年
瑞士	十五年
以太利	十五年
白耳義	二十年
露西亞	十年
	五年
	三年

日本

十五年(三年乃至十年ノ延長ヲ許ス)

各國ノ法律ニ於テ特許權ヲ得ルニ就キテハ、當初ニ納ムル所ノ手数料ノ外、更ニ定期ニ特許料ヲ納メシムルヲ常トス。是レ濫リニ特許ヲ受クルノ弊ヲ防止シ、且ツ發明ヲ實用ニ供スルコトヲ勵行スルノ手段トシテ必要ナルコト、ス。

英國ニ於テハ特許料ハ特許ヲ受ケタル時ヨリ四年以内ニ五十「ポンド」ヲ納メ、又八年以内ニ百「ポンド」ヲ納ムルコト、セリ。但シ本人ノ意思ニ依リ二回納付ニ代ヘ毎年若干ノ額ヲ納付スルコトヲ許セリ。  
佛國ニ於テハ五年ノ特許ニ對シテハ五百「フラン」、十年ノ特許ニ對シテハ一千「フラン」、十五年ノ特許ニ對シテハ一千五百「フラン」トセリ。此他特許稅ナルモノアリ。毎年百「フラン」ヲ納ムルコト、セリ。

獨逸ニ於テハ特許ヲ得タル翌年五十「マーク」ヲ納メ、之ヨリ以後、毎年五十「マーク」宛遞加スルコト、セリ。即チ十年目ニハ四百五十「マーク」、十五年目



ニハ七百「マーク」トナル割合ナリ、而シテ十五ケ年間ノ合計ハ五千二百五十「マーク」トナル。

我國特許料ノ規定左ノ如シ

第一年乃至第三年分	登録ヲ受クルトキ一時	二〇圓
第四年乃至第六年	毎年	一〇
第七年乃至第九年	毎年	一五
第十年乃至第十二年	毎年	二〇
第十三年乃至第十五年	毎年	二五

期間延長ノ場合左ノ如シ

第一年乃至第三年分	登録ヲ受クルトキ一時	一五〇
第四年乃至第六年	毎年	七〇
第七年乃至第十年	毎年	一〇〇

審査主義ト  
出願主義

特許ノ方法ニ就キテ各國ノ法律ニ二種ノ區別アリ、一ハ政府カ專賣特許ノ出願者ニ對シテ特許權ヲ附與スルニ當リ、出願者ノ所謂發明ナルモノハ果シテ發明ノ事實アリヤ否ヤ、換言スレバ他人ガ既ニ得タル權利ヲ侵

スコトナキヤ否ヤ、又假令ヒ發明ノ事實アリトスルモ、其發明ハ果シテ工業技術上有益ナルモノナリヤ否ヤ等ノ事項ニ就キ充分ノ審査ヲナシ、審査官ニシテ之ヲ是認スルニ非レバ特許ヲ與ヘザルノ制度ニシテ、一ハ發明ノ實質ニ就キ是等ノ事項ヲ審査スルコトナク、出願ノ手續及ビ發明ノ種類ニシテ適法ナルトキハ、直チニ特許權ヲ附與スルノ制度ナリ。前者ハ之ヲ審査主義ト稱シ、後者ハ之ヲ出願主義ト稱セリ。審査主義ハ獨逸、埃太利、露西亞、米國ニ行ハレ、出願主義ハ佛蘭西、匈加利、瑞士、伊太利、白耳義、西班牙ニ行ハレタリ。英國ニテハ同時ニ同一ノ發明ニ關スル出願者アル場合ニハ其發明ノ實質ニ就キ審査ヲナシタル後ニ非レバ特許權ヲ附與スルコトナシト雖モ、其他ノ場合ニ於テハ全ク出願主義ノ方法ヲ執レリ。我國專賣特許法ニ於テハ審査主義ヲ執リ、專門技術官ヲシテ審査ノ事ニ當ラシメタリ。抑モ此二種ノ特許方法ノ利害ハ實ニ專賣特許制ニ關スル議論ノ燒點ナルガ如シ。殊ニ一八七七年獨逸ニ於テ專賣特許法改正ノ議起



リタルニ際シ、此問題ハ盛ンニ朝野ノ間ニ講究セラレタリ。審査主義ヲ主張スル者ハ曰ク、此方法ニ依ルトキハ出願者ニ向ツテ發明ノ實質ガ果シテ有益ナルモノナルヤ否ヤ、又其發明ハ他人ノ權利ヲ侵害スルモノニ非ルヤ否ヤニ就キ明確ナル決定ヲ與フルノ利アリ。今若シ此方法ヲ舍テシカ特許權ニ關スル訴訟ハ非常ニ増加シ之ヲ裁判スルニ當リ當局者ノ煩累云フ可ラザルモノアルヤ必セリト。之ニ對シテ出願主義ノ辯解ヲ聞クニ曰ク、各種ノ發明ニ就キ工業ニ與フル利益ノ奈何ヲ決スルハ、多年ノ實驗ニ依ルコトヲ要ス。未ダ之ヲ實地ニ應用セザルニ當ツテ之ヲ決定スルハ甚ダ困難ナリ。然ルニ之ヲ審査ノ局ニ當ル者ニ一任スルハ不當ノコトタリ。焉ンゾ知ラン種々ノ弊害ハ是ヨリ生ズルコトヲ、且夫レ權利ノ侵害ヲ防止スルガ如キハ寧ロ當事者ノ責任ニ放任スルヲ可トス。奈何ントナレバ法律ノ制裁ハ出願者ヲシテ其發明ニ關シテ充分ナル審査ヲナスコトヲ促セバナリト。余ノ見ル所ニ依レバ此ニ主義ハ互ニ長短得失アリト

雖モ、工業政策上審査主義ハ出願主義ニ優ルモノト云ハサルヲ得ズ。蓋シ出願主義ノ主張スルガ如クニ發明ノ利益ハ一朝ニシテ決定シ得ベキモノニ非ラズトセハ直チニ之ニ與フルニ特許權ヲ以テスルハ不當ノコトタリ。且又權利ノ侵害ヲ豫防スルハ當事者ノ責任ナリト云フモ政府ハ之ニ關シテ豫防ノ方法ヲ設クルハ工業技術ノ進歩ノ爲メニ必要ナル措置タリトス。我國現行法ニ於テ審査主義ヲ執リタルハ至當ノ立法ナリト云フヲ憚ラズ。

審査主義ヲ採用セル獨逸ニ於テ特許ヲ與フル前ニ其發明ヲ公告スルノ方法ヲ執レリ。公告ノ方法トシテハ一ハ官報ニ於テ其大要ヲ掲載シ一ハ特許品陳列所ニ其實物ヲ備付クルナリ。此公告ノ目的トスル所ハ他ナシ、營業者ヲシテ發明ノ有益ナルヤ否ヤ發明ニ虛偽ナキヤ否ヤ等ニ就キ意見ヲ述ベシムルト同時ニ既ニ同一ノ發明ニ就テ特許權ヲ得タル者ヲシテ申告ヲナサシメ權利ノ侵害ヲ豫防セシムルニ在リ。然ルニ此公告ノ方



法ハ果シテ此目的ヲ達シタルヤ否ヤ甚ダ疑ハシ。工業者ノ意見ヲ徵シ當局官吏ノ審査ニ相當ノ材料ヲ供セシムルコトハ極メテ狹隘ナル範圍ニ於テ行ハレタリ。又權利ノ侵害ヲ豫防スルニ就テモ已ニ特許ヲ得タル者ハ此公告ニ對シ異議ノ申告ヲナサズトモ後ニ至ツテ相當ノ手續ヲ履ンデ訴訟ヲ起スノ途アルヲ以テ之ヲ忽諸ニ附スルノ傾アリ。加之ノミナラズ發明ノ公告ハ危險ノコトタリ。奈何ントナレバ之ニ依ツテ發明ヲ他人ニ奪ハル、コト屢々之アレバナリ。内國ニ於テハ之ヲ防止スル敢テ難キニ非ルモ外國人ノ手ニ依ツテ發明ヲ奪ハレタル實例少ナシトセズ。

米國及ビ英國ニテハ豫備出願ト稱スル一種ノ審査方法アリ。即チ發明者ガ其發明ノ未ダ完成セザル以前ニ豫メ其大要ニ就テ特許局ニ出願ヲナシ、而シテ其ノ完成シテ定規ノ出願ヲナスマデニ之ト同一若シクハ類似セル發明ノ出願アルトキハ之ニ關スル報告ヲ受クルコト、ス。此報告ヲ受取タル後一定ノ期間内ニ於テ出願ヲナストキハ優先權ヲ得ルナリ。是

レ發明ノ保護ノ爲メニ必要ナル方法ナリ。此豫備出願ノ期間ハ英國ニテハ通常一年ヲ限リ場合ニ依ツテハ之ヲ延長スルコトヲ得ルモノトセリ。米國ニテハ之ヲ三ヶ月ト定メタリ。

特許權ノ性質タル一種ノ所有權ニシテ之ヲ賣買讓與シ若シクハ擔保ニ供スルコトハ所有者ノ意思ニ放任シ法律ハ敢テ之ニ關シテ制限ヲ附スルコトナキヲ常トス。然レドモ技術上ノ發明ハ發明者ノ利益ヲ害セザル範圍ニ於テ廣ク之ヲ實用ニ供セシムルハ一國工業ノ進歩ノ爲メニ必要ナルニ拘ラズ、發明者即チ此權利ノ所有者ニシテ充分之ヲ利用スルノ資力ヲ有セズ其方法ヲ欠ケル場合ニ於テハ有益ナル發明モ公益上何等ノ效果ヲ奏セザルノ恐ナシトセズ。於是乎、歐洲專賣特許制ニ關スル學者及ビ實務家ニシテ往々特許權ニ關スル強制的讓與使用 (Licences obligatoires) ノ議ヲ立ツル者アリ。即チ特定ノ條件ノ下ニ、所有者ノ意思ノ奈何ンヲ問ハズ、其發明ヲ利用セント申出ヅル者ニ對シ所有者ヲシテ其權利ヲ讓與若



シクハ使用セシムルニ在リ。此場合ニハ權利ヲ受ケタル者ヨリ所有者ニ對シ相當ノ賠償ヲナサシムルハ固ヨリ言フ俟タザル所ナリトス。此議ヤ一八七〇年始メテ「クロスターマン」氏ニ依ツテ唱道セラレシヨリ以來、各國ノ法律ニ於テ既ニ幾分カ採用セラレタリ。米國ニテハ當初附與シタル特許期間ノ延長ヲ許可スル場合ニハ、何時ニテモ此讓與及ビ使用ヲナスベキコトヲ命ジタリ。獨逸ニテハ特許許可ノ時ヨリ三年ヲ經過シタル以後ニ於テ所有者ガ他人ヨリ正當ナル條件ヲ附シ權利ノ讓與及ビ使用ヲ乞フモ、之ニ應ゼザル場合ニハ政府ハ特許ヲ取消スノ權能ヲ有セルコト、セリ。瑞士ニテハ特許ヲ得タル物品ガ外國ヨリ輸入セラレタル場合ニ於テ所有者ガ正當ナル讓與及ビ使用ノ要求ニ應ゼザルトキハ、政府ハ特許ヲ取消スヲ得ルコト、セリ。英國ニテハ所有者ガ内國ニ於テ其發明ヲ使用セザルカ、或ハ公共ノ必要ヲ充足スル能ハザルカ、或ハ充分ニ之ヲ利用スルノ資力ヲ欠ケル場合ニ於テ、政府ハ強制讓與ヲ命ズルコトヲ得ル

モノトセリ。

各國ノ法律ニ於テ發明ノ性質ガ軍事ニ關スルカ或ハ其他公共事業ニ直接ノ關係ヲ有セルトキニハ發明者ニ相當ノ賠償ヲ與ヘ之ヲ政府ニ買上グルノ規定ヲ設ケタルモノ多シ。奧太利ニテハ政府ノ專賣事業例ヘバ鹽、煙草、火藥ニ關スル發明ニ就テハ總テ特許ヲ許ササルコト、セリ。其他ノ諸國ニテハ是ノ如キ場合ニハ假令ヒ特許ヲ與フルモ公共ノ必要ニ應ジ之ガ強制買上ヲナスノ規定ヲ設ケタリ。

今ヤ歐米各國到ル處專賣特許ノ制度存在シ、發明者ハ之ニ依ツテ其權利ヲ保護セラレタリ。然レドモ各國ノ間交通ノ頻繁ナル現時ニ在ツテハ自國ニ於テ法律ヲ以テ保護セラレタル發明モ、外國ニ於テ他人之ヲ利用スル者アルハ言フ俟タズ。又之ヲ利用シテ製造シタル物品ヲ自國ニ輸入スルノ恐ナキニ非ラス。是ノ如クンバ發明ノ保護ハ有名無實トナリ、發明者ハ自己ノ勞力ニ對シテ何等ノ利益ヲモ得ルコト能ハサルノ結果ヲ生ス



ベシ。此弊害ヲ匡正スルガ爲メニハ必ラスヤ專賣特許ニ關スル國際同盟ヲ結バザル可ラス。一八八三年ニ締結セラレタル同盟ニ加ハリタル列國ヲ舉グレバ佛蘭西、以太利、白耳義、西班牙、瑞士等ナリ。若干モナクシテ英吉利、米國モ亦之ニ加盟セリ。而シテ獨逸、埃匈國及ビ露西亞ハ今尙ホ之ニ與セスト云フ。

余ハ茲ニ獨逸及ビ本邦ニ於ケル特許統計ヲ掲ゲン。

獨逸國特許ニ關スル統計

出願數	特許數
一八七八年	五、九四九
一八七九年	四、二〇〇
一八八〇年	六、四三〇
一八八一年	六、二八〇
一八八二年	五、七二〇
一八八三年	五、四一〇
一八八四年	五、四四〇
一八八五年	一八、三四七
一八八六年	二一、九二五
一八八七年	
一八八八年	
一八八九年	
一八九〇年	

一九〇五年 三〇、〇八五  
一九〇九年 四五、〇〇〇

本邦特許ニ關スル統計

出願數	特許數	十五年特許年限制	十五年特許年限制
明治二三年	一、一八〇	二四〇	一三一
同 二四年	一、二八八	三六七	二二八
同 二五年	一、三四四	三七九	一一〇
同 二六年	一、三三七	三一八	一一一
同 二七年	一、二五〇	三二六	九六
同 二八年	一、一二二	二二三	九三
同 二九年	一、二二三	一六九	五四
同 三〇年	一、五四二	一八八	三九
同 三一年	一、七八九	二九三	四三
同 三二年	一、九一五	五八七	八七
同 三三年	二、〇〇七	五八六	六三
同 三四年	二、三九七	五〇三	二二



同	三五年	三、〇九五	八七一
同	三六年	三、二五三	一、〇二四
同	三七年	二、六一八	一、二五三
同	三八年	二、八九七	一、六五四
同	三九年	四、一〇五	一、五九四
同	四〇年	四、七五八	一、九八九
同	四一年	五、二三八	二、〇一三
同	四二年	六、〇三一	一、九六三
同	四三年	六、〇〇一	一、六一七

(備考) 明治三三年以後ハ改正特許法ノ規定ニ依リ特許期間ハ凡テ十五年ト定メタリ去レハ同年以後ハ特許年限別ヲ掲ケス

## 第十一章 國際貿易ト工業政策

余ハ第一章ニ於テ國民經濟上ヨリ工業經濟ヲ研究スルニ當リ自由主義ト保護主義ノ二種ノ區別アルコトヲ述ベタリ。抑モ此二主義ノ論争タル其範圍ハ工業經濟ノ全般ニ涉ルモノニシテ國內ノ産業施設ニ係ルモノハ所謂對內的工業政策トナリ、國際貿易ニ關スルモノハ所謂對外的工業政策トナルナリ。而シテ其論争ノ燒點ハ前者ヨリモ寧ロ後者ニ在リ即チ自由貿易主義ト保護貿易主義是ナリ。余ハ茲ニ本章ニ於テ先ヅ此二主義ノ大要ヲ述ベ之カ優劣ヲ論ジ、保護貿易ニ關スル各種ノ政策ニ及バント欲ス

歐洲ノ經濟史上保護主義ガ自由主義ニ先ツテ起リタルノ事實ハ争フ可ラザルコト、ス。即チ十七世紀ノ頃所謂重商主義ト名クル保護主義ノ一派是ナリ。此主義ハ當時歐洲諸強國ノ間ニ盛ンニ行ハレタルモ佛國ニ於

貿易主義ノ系統



テ「コルベア」ノ政府ハ最モ組織的ニ最モ統一的ニ之ヲ遂行シタルガ故ニ  
或ハ之ヲ「コルベア」主義ト稱スル者アリ。此主義ノ要旨ヲ按ズルニ國富ノ  
多寡ハ其國ニ存在セル正貨ノ多寡ニ依ツテ分ル而シテ正貨ノ増減ハ輸  
出入ノ鈞衡ニ依ツテ定マル。即チ輸出ガ輸入ニ超過スルニ從ツテ外國ニ  
在ル所ノ正貨ハ自國ニ吸收セラレ自國ノ正貨ハ之ニ伴ツテ増加スベシ、  
奈何ントナレバ輸出入ノ差額ハ常ニ正貨ヲ以テ支拂ハザル可ラサレバ  
ナリ。是故ニ國際貿易ノ關係ニ於テ常ニ輸出超過ノ狀態ヲ保タシムルコ  
トハ國富増殖ノ惟一ノ方法タリ。重商主義ハ此理想ヲ基礎トシ之ニ由ツ  
テ各種ノ工業政策ヲ立テタリ。而シテ是等政策ノ要旨トスル所ハ他ナシ。  
一方ニ於テ自國ノ消費品ハ自國ノ生産品ヲ以テ之ヲ充足スルノ方針ヲ  
定メ由ツテ以テ輸入ヲ減少シ、又一方ニ於テ輸出品ヲ製出スル所ノ工業  
ヲ獎勵鼓舞シテ之ニ與フルニ種々ノ補助便宜ヲ以テシ、由ツテ以テ輸出  
ノ増加ヲ圖ルニ在リ。

重商主義ニ次イデ自由主義ハ起レリ。十八世紀ノ末葉アダムスミス「ガ富  
國論」ヲ著ハシ、重商主義ノ謬妄ヲ指摘シ國際貿易ノ本質ヲ明ニセシヨリ  
此主義ハ一般ニ歡迎セラレ。十九世紀ノ前半期頃ニ至ルマデ歐洲各國ノ  
貿易政策ハ漸次之ニ斁式スルコト、ナレリ。氏ノ學說ニ依ルトキハ國際  
間ニ於ケル物品ノ交換ハ國內ニ於ケル物品ノ交換ト其性質ヲ異ニスル  
モノニ非ラズ、今國內ニ於テ個人ハ各自其ノ少ナク價格ヲ附スル所ノ物  
品ヲ與ヘテ多ク價格ヲ附スル所ノ物品ヲ得ルナリ。交換ノ利益於是乎存  
セリ。從ツテ生産ノ關係ニ於テ各自其短所ヲ舍テ其長所ヲ取り最少ノ生  
産費ヲ以テ最多ノ生産ヲナスノ目的ヲ以テ業務ノ撰擇ヲナスガ故ニ分  
業ノ利益ハ自ラ生ジ國民經濟ノ發達ハ由ツテ以テ期圖スルコトヲ得ベ  
シ。國際貿易ノ關係モ亦之ニ異ナルコトナシ。輸出品ハ內國ニ於テヨリモ  
寧ロ外國ニ於テ多クノ價格ヲ有セル物品ナリ。輸入品ハ外國ニ於テヨリ  
モ寧ロ內國ニ於テ多クノ價格ヲ有セルノ物品ナリ。是故ニ輸出モ輸入モ



與ニ人爲ノ制限ヲ受クルコトナク自然ノ趨勢ニ基キ分業ノ理法ノ行ハル、ニ從ツテ内國ノ消費者モ外國ノ消費者モ與ニ其利益ヲ受クルコト多カルベク、而シテ其利益ハ全ク對等ナリトス。夫ノ輸出入ノ不平均ト云フガ如キノ事實ハ此點ヨリ觀察スルトキハ殆ンド無意義ノコトナリト云ハザル可ラズ。顧フニ各國ノ間ニ氣候、風土及ビ國民ノ氣質等ノ自然的事情各々異ナルモノアリ、從ツテ工業ノ種類ニシテ其國ニ適應セルモノト然ラザルモノトノ區別アルハ必然ノ事ナリ。從ツテ生産ノ關係ニ於テ各國ノ間ニ分業ノ理法ハ自ラ行ハル、ナリ。是レ猶ホ國內個人ノ間ニ於ケルト其趣ヲ一ニセリ。然ルニ今若シ自國ノ工業ヲ保護スルノ目的ヲ以テ輸出入ニ關シテ人爲ノ制限ヲ設ケンカ、是レ人力ヲ以テ自然ノ趨勢ヲ攪亂スルモノニシテ分業ノ理法ハ各國ノ間ニ行ハレザルベク、之ガ爲メニ各國經濟ノ發達ヲ阻害スルコト少ナキニ非ルベシ。之ヲ要スルニ國際貿易ニ關シテハ全ク自由放任ノ方針ニ依リ絶對的ニ政府ノ干渉ヲ排除

セントスルハ自由主義ノ理想ナリトス。此學說タル今尙ホ世ニ行ハレ各國ノ學者、實務家ノ間之ヲ奉ゼル者少ナシトセズ。

自由主義ノ反動トシテ又重商主義ノ匡正トシテ一種ノ保護主義ハ十九世紀ノ初期ニ當リ獨逸ニ起レリ。之ガ主唱者ヲ「リスト」「トナス」「リスト」ノ保護主義ハ其發生ノ當時自由主義ノ渦中ニ埋没セラレ世人ノ贊同ヲ得ルコト能ハザリシモ次第ニ其勢力ヲ加へ、近時國際貿易ニ關スル最新ノ主義トシテ各國ニ於テ之ヲ唱道セル者多シ。殊ニ十九世紀ノ末期ニ至ツテハ歐洲諸國ノ貿易政策ハ之ニ則ツテ確立セラレタルモノ少ナシトセズ。今茲ニ其要領ヲ述ベンニ、各國ノ産業ハ歴史的秩序ヲ履ミテ發達セリ。先ヅ漁獵、及ビ牧畜ノ時代ヲ脱シテ農業時代ニ進ミ、農業時代ヨリ工業ト工業トヲ併有セル農工時代ニ進ミ、更ラニ進ンデ農工業ト商業トヲ併有セル農工商時代ニ達スルヲ常トス。今若シ各國ノ間ニ毫モ交通ノ關係存スルコトナク恰モ鎖國ノ状態ニ在リト假定センカ、各國ハ其進度ニ遲速ノ



別アルモ早晚其ノ歸着スル所ヲ一ニスベシ。然レドモ方今交通次第ニ開ケ國際ノ關係益々親密ヲ加フルノ時ニ當ツテハ、進歩ノ程度高キ國ト進歩ノ程度低キ國トノ間ニ産業ノ競争ハ自ラ起ラザルヲ得ズ。此競争ニ於テ先進國ハ後進國ニ比スレバ産業ニ關スル多年ノ歴史ヲ有シ、資本及ビ勞力ノ關係ニ就キ既ニ優者ノ地位ニ在ルヲ以テ、今若シ之ヲ自然ニ放任センカ、後進國ニ於ケル産業ノ發達ハ甚ダ緩漫ナルベク終ニ或ハ沈滯休止ノ悲境ニ陥ランモ亦知ル可ラズ。於是乎後進國ニ於テ政府ノ干涉ノ必要起ルナリ。即チ特定ノ産業ニ就キテ輸入ヲ禁止若クハ制限シ由ツテ以テ自國ノ生産ニ對シテ充分確實ナル販路ヲ有セシメ、或ハ輸出工業ニ就キテハ補助獎勵ノ方法ヲ設ケテ外國生産者ト對等ノ地位ニ立タシメ、由ツテ以テ外國市場ニ於ケル競争ニ於テ自國ノ産業ヲ助成スルコトヲ圖ラザル可ラズ。是ノ如クシテ後進國ヲシテ國際ノ競争場裡ニ先進國ト對抗シ其進歩發達ノ目的ヲ達セシムルコトヲ得ベシ。リスト一派ノ保護主

義ノ理想ハ是ノ如シトセバ、此理想ト重商主義トノ區別ハ自ラ明ナルベシ。此理想ニ依レバ保護主義ノ實行ハ只一定ノ時期ヲ限ルベキモノタリ。自國ノ工業ガ最モ進歩セル階段ニ達スルニ及ンデハ最早之ヲ廢止スルコトヲ得ルモノトスルモ、重商主義ハ之ト異ナリ永久ニ保護政策ヲ實行セザル可ラザルコトヲ主張スルモノタリ。

保護主義ニ關スル最新ノ學說ハ獨逸ニ起レリ。所謂國力保護論(Schutz der nationale Arbit)ニシテ「レキシス」一派ノ唱道スル所タリ。此說ハ獨逸ニ於テ稍々勢力ヲ有セルモノ、如キモ未ダ他國ニ及バズ。顧フニ此說ノ基ヅク所ハ內國産業ハ總テ其種類ノ何タルヲ問ハズ、之ヲ保護シ內國ノ市場ニ於テ外國品ノ競争ヲ排除スルノ目的ヲ以テ保護政策ヲ實行セザル可ラズト云フニ在リ。今若シ此主義ヲ實行センカ國際貿易ノ關係ハ殆ンド絶滅ニ歸スルニ至ルベク、或ハ此主義ヲ目シテ經濟上ノ鎖國主義ト云フ者アリ亦宜ナリト云フベシ。



以上述ブル所ハ國際貿易ト工業政策ノ關係ニ就イテ諸學派ノ主張セル意見ノ大要ナリトス。余ハ是ヨリ進ンデ是等ノ學說ニ關シ其當否ヲ評論セン。

貿易主義ノ  
批評

重商主義ノ前提トスル所ハ國富ノ多寡ハ正貨ノ多寡ニ依ルト云フニ在リ。此思想ノ謬妄ナルコトハ固ヨリ説明ヲ要セザルナリ。蓋シ正貨ハ國富ノ一種ナルモ、正貨必ラズシモ國富ノ全體ヲ代表セルニ非ラズ正貨以外ニ以テ國富ニ數フベキモノ何ゾ限ラン。是故ニ正貨増加スルモ國富ハ之ニ伴ツテ増加セリト云フコトヲ得ズ、正貨減少スルモ國富ハ之ニ伴ツテ減少セリト云フコトヲ得ザルナリ。重商主義ガ正貨ノ増減ヲ標準トシテ貿易政策ヲ立テタルハ固ヨリ此誤謬ノ前提ニ基ケルモノナルガ故ニ更ニ之ヲ是非スルノ必要ナシ。然レドモ此主義ノ遺物トシテ今尙ホ世ニ行ハル、所ノ思想アリ。何ゾヤ、貿易政策上常ニ重キヲ輸出入ノ鈞衡ニ置キ輸出超過ノ事實ヲ以テ國富増進ノ主眼トナセルコト是ナリ。抑モ輸出超

過ナル國際貿易上ノ現象ハ其事情ノ奈何ニ拘ラズ國富増進ノ方法トシテ歡迎スベキモノナルヤ否ヤ、余ノ見ル所ニ依レバ一國ノ貿易ニシテ假令ヒ輸出ノ超過セルモノアルモ其輸出品ニシテ生産ノ原料或ハ機械、器具等總テ自國ニ於テ資本ノ效用ヲ完フスル所ノモノタリ、而シテ輸入品ニシテ奢侈品ノ如キ一時ノ消費ニ供スベク自國ノ生産ニ於テ毫モ裨補スルコトナキモノタラシメバ、國際貿易ノ關係ニ於テ輸出超過ノ事實アルモ自國ノ生産力ハ爲メニ消耗シ國力ノ衰頽ヲ來タスヤ必セリ。若シ之ニ反シテ輸入ハ輸出ニ超過シタル國ニ於テ其輸入品ハ悉ク生産ニ關係アル所ノモノタリ其輸出品ハ却ツテ奢侈品タル場合ニハ、輸入ノ超過ハ國富増進ノ爲メニ毫モ憂フベキコトニ非ラズ、之ヲ要スルニ國民經濟ノ點ヨリ輸出入ノ關係ヲ觀察スルニ當ツテハ其數量ノ比例ヨリハ寧ロ其實質ノ奈何ヲ明ニスルヲ要ス。然ラザレバ遂ニ正當ナル斷定ヲナスコト能ハザルベシ。



今「アダムスミス等ノ主唱ニ係ル自由貿易主義ヲ按ズルニ、其ノ説ク所ハ國際貿易ニ關スル理想トシテ洵ニ完全ナルモノニシテ一點ノ非難スベキ所ナキガ如シ。即チ國際貿易ハ國內ノ交換ト其性質ヲ異ニスルコトナシ之ヲ自由ニ放任スルトキハ國內ノ生産關係ニ於テ分業ノ理法ノ行ハル、ガ如クニ國際ノ生産關係ニ於テモ亦同一ノ理法ノ行ハル、ヲ得ント云フハ理論トシテハ誰カ之ヲ承認セザル者アラシヤ。然リト雖モ此理論ノ前提トシテ一ノ假定ヲナサル可ラズ、即チ各國工業ノ進歩ハ同一ノ程度ニ在ルコト是ナリ。此點ニ於テハ保護主義ノ主唱者タル「リスト」モ亦自由主義ニ左袒セル者ト云ハザル可ラズ、奈何ントナレバ一國工業ノ進歩ガ他國ト同一ノ程度ニ在ラバ自由主義ヲ採ルモ不可ナシトハ彼ノ主張スル所ナレバナリ。此假定ノ場合ニ於テハ自由主義ノ結果トシテ國際的生產ノ分業ナル事實存在スベク各國與ニ其利ヲ被ルコトヲ得ルヤ言フ俟タズ。然リト雖モ各國ノ間ニ工業進歩ノ程度ヲ異ニスルニ從ツテ

自由貿易ノ利益ハ獨リ進歩シタル工業國ノ壟斷スル所タルベク、幼稚ナル工業國ハ却ツテ之ガ爲メニ其發達ヲ阻害セラル、ニ至ルベシ。是レ他ナシ、進歩セル工業國ニ於テハ幼稚ナル工業國ニ比スレバ生産ニ關シテ必要ナル各種ノ機關整頓シ、金利ハ低廉ニ、融通ノ便利ハ大ニ開ケ職工ノ技術ハ進歩シ、器械應用ノ範圍ハ廣ク、交通ノ設備ハ充分ニ發達シ是等ノ事柄ニ就イテ一種ノ特權ヲ有シタルノ看ナキニ非ラズ。此場合ニ於テ後進ノ工業國ニシテ之ト競争セントスルニ當リ自國ノ特產物タル場合例ヘバ殖民地產物ノ如キモノヲ除キテハ到底先進ノ工業國ヨリモ低廉ナル生産費ヲ以テ製造ヲ營ムコト能ハザルハ固ヨリ疑ヲ容レズ。假令ヒ氣候、風土等自然ノ事情ノ爲ニ多少自國ノ特徴ヲ有シテ世界ノ市場ニ雄飛スルニ足ルノ工業アルモ、資本勞力等ノ人爲ノ事情ニ因リテ先進ノ工業國ノ爲メニ壓倒セラレ終ニ其特色ヲ發揮スルコト能ハズシテ已ムニ至ラン。果シテ然ラバ國際的生產ノ分業ナル自由主義ノ理想ハ奈何ニシテ



之ニ達スベキヤ。産業ノ國際競争ニ於テ强者ハ益々榮ヘ弱者ハ益々衰ヘ優劣劣敗ノ趨勢ハ底止スル所ヲ知ラザルベシ。或ハ曰ク自由貿易ハ猶ホ烈風ノ如シ、弱キ火ハ之ガ爲メニ消ヘ強キ火ハ之ガ爲メニ益々燃ユルナリト、眞ニ然リ。且又此主義ノ論者ハ自由貿易ノ當然ノ結果トシテ國際的分業ノ起ルベキコトヲ主張スルモ國際的生産ノ分業ナル事實ハ偶然ニ起ルモノニ非ラズ、特種ノ工業ガ一國ノ特産タルニ至ルニハ自ラ種々ノ歴史的事情ニ基キタルモノナリ。當初ヨリ某工業ハ甲國ニ適當セリ某工業ハ乙國ニ適當セリト斷定スルコトハ人智ノ得テ及ブ所ニ非ラズ。原料ノ産地ヲ以テ該工業ニ關スル適當ナル國ト判斷スルハ通常ノ事ナリ。然レドモ英國ハ紡績業ヲ以テ特有ノ工業トナセルニ拘ラズ其原料ハ北米、印度若シクハ埃及ノ原綿ヲ仰ゲルノ事實ヲ見バ強チ原料ノ産地ト工業ノ特産地トハ同一ニ歸セザルコトヲ知ルニ足ルベシ。佛國ガ美術工業ノ特産地ナルコトハ世人ノ均シク認ムル所ナリ。或ハ之ヲ以テ佛國民ノ特

性ニ歸スル者アルモ、又「コルベア」以來美術工業ニ關スル教育制度ノ力ヲシテ然ラシメタリト云フ者アリ。獨逸ハ化學工業ノ根據地タリ、此種ノ工業ガ獨逸ニ發達シタルモ只之ヲ自然ノ事情ニ歸スルコト能ハザルベシ。由是觀之一國ガ特有ノ産物ヲ有スルコトハ多年ノ歴史ヲ經タル後ニ定マルコトナリ。去レバ自由貿易ノ主義ヲ採ラバ國際的分業ハ自ラ行ハル、ニ至ルベシト斷言スルコトヲ得ズ。

「リスト」ノ主唱スル所ノ保護主義ハ其理想ニ就イテモ亦其實行ニ就イテモ一國ノ貿易政策トシテ推重スベキ價值アリ。氏ハ自由貿易ヲ以テ最終ノ理想トナシ保護貿易ヲ以テ進歩ノ段階トセリ。即チ工業ノ先進國ニ於テハ宜シク此主義ヲ採ルベシト論ジ、而シテ工業ノ後進國ニ向ツテ保護主義ヲ勸告セリ。氏ノ保護主義ハ夫ノ重商主義ノ如クニ妄リニ輸出入ノ鈞衡ニ重キヲ置クモノニ非ラズ。政府ノ干涉ニ依リ自國ノ産業ニ關スル國際競争ヲ排除シ由ツテ以テ自國ノ生産力ヲ發達セシムルヲ以テ主眼



トナセリ。ロツセル「ガ此主義ヲ以テ教育的目的ヲ有セル保護政策ト名ケタルハ亦宜ナリト云フベシ。抑モ生産ニ關スル後進國ト先進國トノ國際競争ハ猶ホ發達ノ充分ナラザル兒童ヲシテ他ノ強健ニシテ且ツ年長ノ兒童ト競走セシムルガ如シ、若シ始メヨリ之ヲ放任センカ前者ハ常ニ後者ノ壓倒スル所タルヲ免レザルベシ。然レドモ前者ニ對シテ訓練ヲ施シ體育ヲ務メ其齡熟スルヲ俟ツテ後者ト競走セシムルコト、セバ勝敗ノ數ハ未ダ知ル可ラズ。工業ニ關スル國際的競争モ亦之ニ由ツテ推知スルコトヲ得ベシ。

「リスト」ノ保護主義ハ教育的目的ヲ有スルコトヲ以テ其前提トセリ。此前提ニ基キテ保護政策ヲ實行センカ、各種ノ産業ニ向ツテ保護ヲ施スモノニ非ラズ。産業ノ種類ニ依ツテ教育ノ效果ヲ生ズベキモノヲ擇ミ之ヲ保護スルヲ以テ其政策ノ主眼トナセリ。顧フニ自由主義者ガ保護政策ニ反對セル理由一ニシテ足ラズ。其ノ最モ有力ナルモノハ保護政策ニ依ツテ

扶養セラレタル産業ハ到底獨立ノ地位ヲ保ツコトヲ得ズ。室咲キノ花ガ室ヲ離ルレバ忽チ萎ムガ如クニ永久ニ保護ヲ廢止スルコト能ハズ。從ツテ消費者ト生産者トノ利害ノ衝突ハ終ニ調和ノ途ナカルベシト云フニ在リ。此非難タル此派ノ保護政策ニ對シテハ何等ノ價值ナキモノタリ。蓋シ將來獨立ノ望ナキ産業ニ就キ保護ヲナスコトハ此派ノ保護主義ノ本旨ニ非レバナリ。若夫レ保護ノ結果トシテ獨立ノ望アル産業ヲ擇ンデ保護ヲ施スコト、センカ、之ニ依ツテ消費者ノ被ル所ノ損害ハ一時ノ現象ニ止マルベク、永久ニハ却ツテ低價ナル物品ヲ消費スルコトヲ得テ消費者ト生産者トノ利害ハ自ラ調和スルコトヲ得ベシ。

保護主義ノ理想ハ右述ブル所ノ如シ。然リト雖モ余ハ「レキシス」一派ノ主張スル所ノ國力保護論ニ左袒スル者ニ非ラズ。抑モ奈何ナル種類ノ工業ガ一國ニ適セルヤノ問題ハ各種ノ事情ヲ參酌考量シタル後始メテ定マルコトニシテ容易ニ之ヲ斷定スベキニ非ラズト雖モ、長キ經驗ト久シキ



星霜ヲ經ルトキハ一國ニ適當セル工業ノ種類ハ之ヲ明ニスルコトヲ得ベシ。而シテ此性質ヲ有セル工業ニ對シテ充分ノ保護ヲ與フルハ實務家ノ宜シク務ムベキ所ナリ。夫ノ國力保護論ノ如キハ工業ノ適否ニ關スル問題ヲ度外ニ置キ、總テノ工業ハ勿論、尙ホ進ンデ農業ヲモ保護政策ノ範圍内ニ包含セシメントスル所ノモノタリ。若シ此學說ヲ推及スルトキハ自國ノ需要ハ總テ自國ノ生産ヲ以テ充足セシメ、毫モ外國ノ供給ヲ仰ガザルコト、ナリ、之ガ爲メ國內消費者ノ損失スル所大ナルベク、産業ノ發達ハ所謂總テニ通ゼル者ハ一ノ長所ナキノ諺ノ如ク國際的分業ノ利益ハ終ニ之ヲ收ムルニ由ナカラシム。

顧フニ一國ノ貿易政策ハ經濟ノ問題タルト同時ニ政治ノ問題タルコトハ固ヨリ言フ俟タズ。貿易政策ノ方針ノ奈何ンハ實ニ國民經濟ノ發展ニ密接ノ關係ヲ有セルノミナラズ、國家ノ獨立ニ至大ノ影響ヲ與フルモノタリ。自由主義ノ論者ガ經濟ノ關係ヲ主位ニ置キ政治ノ關係ヲ從位ニ置

ケルニ反シテ「レキシス」派ノ保護主義ハ只管ラ政治ノ關係ニノミ注意シテ經濟ノ關係ハ之ヲ輕視セルノ傾向ナキニ非ラズ、即チ國家ノ獨立ノ要件トシテ經濟ノ獨立ヲ圖リ經濟ヲ以テ政治ノ手段ト認メタルモノ、如シ。然リト雖モ經濟ノ獨立ハ國家ノ獨立ノ要件ナリヤ否ヤ、國家ノ獨立ハ必ラズヤ經濟ノ獨立ヲ俟ツテ行ハルベキコトナリヤ否ヤノ問題ハ一概ニ決定シ得ベキニ非ラズ。經濟ノ獨立ナル語ハ種々ノ意義ニ解釋セラルベシ。國民ノ消費スル主要穀物ノ如キハ成ルベク自國ノ生産ニ仰グハ國家ノ獨立ニ就キ必要ナルコトタリ。兵器ノ製造ノ如キ亦然リ。然レドモ總テノ消費ニ就キ一切外國ノ供給ヲ仰カズ自國ノ生産ニ依ルコトハ國家ノ獨立ノ目的ヲ達スルニ於テ強チ主要ナル事ト云フベキニ非ラズ。所謂經濟上ノ鎖國主義ヲ遂行スルニ非レバ國家ノ獨立ヲ鞏固ナラシムル能ハズトノ斷定ハ余リニ獨斷的ナリト云ハザルヲ得ズ。

且又經濟ノ獨立ヲ絶對的ニ遂行スルコトハ果シテ事實ノ許ス所ナルヤ



否ヤ生産ノ要件タル勞力ト資本ノ關係ヨリ云ヘバ之ヲ行フコト難シトセザルモ自然ノ事情ハ之ヲ奈何ントモスル能ハザルベシ。露西亞ノ如キ米國ノ如キ其領土ノ廣大ニシテ種々ノ風土地味ヲ有セル國ニ在ツテ各種ノ原料ハ自國ノ生産ニ仰クコトヲ得ベク、勞力ト資本ノ供給ニシテ充分ナラバ稍々此理想ニ適フコトヲ得ンモ、其他ノ國ニ於テハ自然ノ供給ハ是ノ如ク潤澤ナラズ自國ノ生産ノミニ依ツテハ到底消費ノ充實ヲ得ルコト能ハザルベシ。今、ヅワンデルボルヒト氏ノ調査ニ依リ之ヲ各國ノ實例ニ徴センニ英國ニテ穀物ノ消費額ニ就テ自國ノ生産ハ約六分ノ一ニ止マレリ。獨逸ニテハ石油ノ消費額ハ九十萬噸ナルニ自國ノ生産ハ僅々二萬噸ニ過ギズ。銅ニ就テハ消費ノ半額ノミニ自國ニテ産出セラル、ナリ。佛露兩國ニテ石炭ノ消費額ニ就テハ其十分ノ七ノミニ自國ノ産出ニ係レリ。又自國ノ産物ニ關シ之ヲ輸出シテ外國ノ消費者ニ供給スル場合ヲ舉ンニ獨逸ニテハ其生産セル砂糖ノ約半額及ビ「ブランドー」ノ三分ノ一

ハ之ヲ輸出セリ。米國ハ其産出セル石油ノ約半額及ビ綿糸ノ約三分ノ二穀物ノ約七分ノ一ヲ輸出セリ。是等ノ事實ニ依リ考フルトキハ、此派保護主義ハ假令ヒ其理想ニ於テ多少ノ眞理ヲ含メルモノアルモ之ガ實行ハ到底不可能ニ了ハルコトヲ免レザルベシ。余ハ是ヨリ進ンデ工業保護ノ目的ノ爲メニセル各種ノ貿易政策ヲ講究セン。

輸入ニ關スル政策

第一 輸入ニ關スル政策

工業保護ノ目的ヲ達スルガ爲メニ特定ノ工業ニ就イテハ國內ノ販路ヲシテ輸入品ノ侵ス所タラシメザルコトヲ務メザル可ラズ。此必要ニ基キ古來輸入ニ關シテ實行セラレタル所ノ政策ハ其種類多シ、茲ニ其重ナルモノヲ舉ゲン。

(1) 輸入禁止 輸入禁止ノ政策ハ行政上ノ目的ノ爲メニスル場合ト保護政策ノ必要ニ基ケル場合ノ二種ニ分レタリ。夫ノ傳染病豫防ノ爲メ或



ハ專賣特許法及ビ政府ノ專賣事業ノ結果トシテ特種物品ノ輸入ヲ禁止スルガ如キハ全ク行政上ノ目的ヲ有セルモノニシテ保護政策ト何等ノ關係ナシトス。我國關稅定率法第十一條ノ規定ハ此趣意ニ基ケリ。之ニ反シテ國內ニ於テ輸入品ト同種ノ物品ヲ製出スル所ノ産業アリ、而シテ輸入ヲ杜絶スルハ其産業ノ發達ノ爲メニ必要ナル場合ニ於テ輸入禁止ヲナスハ即チ保護政策ニ基ケル輸入禁止ナリトス。余ノ茲ニ講述セントスル所ハ後者ノ場合ニ在リ。

歐洲ニ於ケル輸入禁止ノ實例ヲ按ズルニ、中古時代ニ頻リニ行ハレ近世ニ至ツテ次第ニ衰ヘ十九世紀ノ中葉ニ及ンデ殆ンド其跡ヲ絶テリ。英國ニテハ夫ノ航海法發布ノ頃ヨリ輸入禁止ハ盛ンニ行ハレタリ。一六六二年獨逸及ビ和蘭ニ對シ酒、煙草、鹽、木材等ノ輸入ヲ禁止シタルガ如キハ其ノ顯著ナルモノトス。一八一四年調査委員ノ報告ニ依レバ當時各國ニ對スル輸入禁止品ノ種目ハ約二百アリキ。此制度ガ全ク廢止セラレタルハ

一八四二年ナリトス。佛國ニテハ此制度ハ十七世紀ノ末葉ニ起リ一七九三年ニハ三十四種ノ輸入禁止品アリキ、次イデ王朝ノ時代ニ至ツテハ輸入禁止論ハ盛ンニ朝野ノ間ニ歡迎セラレ一八三五年ニハ五十八種ノ多キニ上リシガ、一八六〇年ニ至ツテ此制ハ全ク除却セラレタリ。普國ニテハフリードリッヒ大帝以後輸入禁止頻リニ行ハレ一七六六年ニハ其物品ノ種類ハ四百九十ナリシモ一八一八年ニ殆ンド廢止セラレタリ。奧太利ニテハ一六七四年佛國ニ對シ此制ヲ採リシヨリ一七八四年ノ關稅法ニハ約二百ノ輸入禁止品アリキ。一八一七年綿絲、綿織物及ビ毛織物ノ輸入ヲ禁止シ一八五一年ニハ尙ホ六十三ノ禁止品アリシモ同年以後全ク廢止ニ歸セリト云フ。

輸入禁止ノ沿革ハ右述ブル所ノ如シ。現今ニ至ツテハ各國ニ於テ殆ンド其痕跡ヲ留ムルコトナシ。顧フニ輸入禁止ハ極端ナル保護政策ナルコト言フ候タズ。今若シ甲國ニシテ乙國ニ對シ此制ヲ採ランカ、乙國モ亦之ニ



報ユルガ爲メニ甲國ニ對シテ同一ノ方法ニ依ルベク、之ガ結果トシテ終ニ二國ノ間ニ貿易ノ戰爭ヲ起スコト、ナリ雙方與ニ失フ所大ナルベシ。於是乎近時各國政府ハ輸入禁止ノ制ヲ廢シ之ニ代フニ輸入税ヲ以テスルコトヲ務メタリ。

(2) 輸入税 輸入税ノ目的ニ二種アリ。一ハ財政上ノ必要ニ基キ政府ノ收入ノ爲メニスルモノニシテ、一ハ保護政策實行ノ方法トシテ輸入ヲ制限シ由ツテ以テ國內ノ産業ヲ發達セシムルノ目的ヲ有セルモノトス。今各國輸入税ノ沿革ヲ按スルニ、當初ハ全タク財政上ノ目的ヲ有セルモノナリシガ、保護主義ノ起ルニ及ンデ之ヲ以テ一種ノ保護政策ノ方法トナスニ至リ、是ヨリ以後此制度ハ各國ニ行ハレ保護政策ノ爲ニ重要ナル武器トナレリ。然レドモ方今各國ニ行ハル、所ノ輸入税制ニ就キ其目的ノ財政ニ在ルヤ將タ保護政策ニ在ルカヲ定ムルハ容易ノ業ニ非ラズ。米國ニ於テ南北戰爭以後財政ノ目的ノ爲ニ創設セラレタル輸入税ガ最早軍

事費ノ償還ヲ了ハリ財政上ノ必要ナキニ及ンデモ尙ホ存續セラレタルハ必竟其目的一轉シテ保護政策ニ移リタルニ外ナラズ。數年前我國關稅法ノ改正ニ際シ此問題ハ頻リニ研究セラレタリ。要スルニ此區別ハ課稅物品ノ種目ニ依ツテ分ル、コトニシテ一般ニ概言スベキコトニ非ラズト斷定スルノ外ナシ。

輸入税ハ課稅ノ物件ニ就キテ之ヲ區別シテ生産補助品ニ對スルモノ、生産原料ニ對スルモノ、粗製品ニ對スルモノ、完製品ニ對スルモノ、數種トナス。此區別ハ輸入税ト保護政策トノ關係ヲ明ニスルニ於テ洵ニ必要ナルコト、ス。蓋シ工業保護ノ目的ヲ達センニハ課稅物件ノ種類ノ異ナルニ從ツテ保護ノ程度ニ厚薄ノ別ヲ立テ從ツテ稅率ノ高低ヲ異ニセザル可ラズ。殊ニ一國ノ工業發達ノ事情ニ依ツテハ補助品、原料、粗製品ニ就イテハ最早之ヲ保護スルノ必要ナキノミナラズ却ツテ輸入ヲ獎勵シ、只完製品ニ就イテノミ輸入税ヲ課シテ輸入ノ制限ヲナスヲ利トスル場合モ



亦屢々之アレバナリ。

佛國ニ於テ輸入税ヲ保護政策ニ應用セルハ夫ノ重商主義ノ主唱者タル「コルベア」ノ時代ニ始レリ「コルベア」ハ保護政策トシテ輸入禁止ニ左袒セズ輸入税制ノ實行ニ務メタリ。而シテ完製品ニ對シテハ成ルベク之ヲ重クシ原料ニ對シテハ成ルベク之ヲ輕クスルコトハ彼ノ輸入税ニ關スル主義ナリキ。爾來佛國ニ於ケル輸入税制ハ此方針ヲ守リ一七四九年ニハ綿織物ノ原料タル綿花ノ輸入ニ就テ全ク輸入税ヲ免除セリ。一八一六年再タビ之ヲ課スルニ至リシハ工業政策ヨリハ寧ロ財政ノ急ニ迫ラレタルモノナラン。王朝時代ニ於ケル佛國ノ保護政策ハ其極點ニ達シ原料ノ生産ニ對シテモ尙ホ保護ヲ加フルコト、ナリ。羊毛ニ對シテ重キ輸入税ヲ課スルニ至レリ。加之ノミナラズ穀物等ノ農産物ニ對シテモ亦過重ノ輸入税ヲ課シ由ツテ以テ國內生産者ヲ保護セリ。「ナポレオン」三世ノ工業政策ハ自由主義ニ傾キタルガ爲メニ輸入税ニ關シテ原料及ビ農産物

ニ對スルモノハ勿論、製品ニ對スルモノニ至ツテモ成ルベク之ヲ輕減スルノ方針ヲ執レリ。然ルニ普佛戰爭以後政府ハ常ニ保護政策ヲ確守シ頻リニ輸入税制ヲ擴張セルヲ見ル。

英國ニ於テハ十七世紀ノ頃ヨリ輸入税制ハ次第ニ保護政策ノ方法トナリタリ。一六六〇年關税法ヲ見ルニ輸出入トノ間ニ著シキ税率ノ等差アリ。殊ニ一六七〇年ノ穀物輸入税法ノ如キハ國內穀價ノ高低ニ應ジ輸入税率ヲ異ニシ穀價ノ廉ナルトキハ税率ヲ高メ穀價ノ高キトキハ税率ヲ低クスルノ方法ヲ設ケ農業者ノ保護ニ汲々タリ。要スルニ十八世紀ヲ通ジテ英國政府ノ工業ニ對スル保護政策ハ明カニ輸入税制ノ上ニ現ハレタルヲ見ル。一八二二年乃至一八六〇年ノ間此税制ニ關スル政府ノ方針漸次變化シ、同年以後英國ニ於ケル輸入税ハ全ク保護政策ノ舊套ヲ脱シ純然タル財政ノ必要ニ基ケル租税ノ性質ヲ帶フルコト、ナレリ。然ルニ近時保護主義ハ更ラニ復活ノ兆候ヲ示セリ。是レ獨逸及ビ米國ニ



於ケル工業ノ發展ガ從來英國ノ獨占ノ地位ヲ奪ハントスルノ形勢ニ迫ラレタルモノニ外ナラズ。

普國ニ於テハ「フリードリック」大帝ノ時代ヨリ保護政策ハ其萌芽ヲ現ハセリ。而シテ大帝ノ保護政策ハ輸入税ヨリモ寧ロ重キヲ輸入禁止ニ置キタルガ故ニ輸入税制ノ施設見ルニ足ルベキモノナシ。一八一八年制定セラレタル關稅法ニ於ケル輸入税制ニ依リ保護政策ノ方針始メテ定マレルモノ、如シ。此法律ニ於テ原料ニ對シテハ輸入税ヲ免除若シクハ輕減シ農産物ニ對シテハ僅少ノ課税ヲナシ、完製品ニ對シテハ約一割ノ從價税ヲ課スルコト、セリ。十九世紀ノ中葉ニ在ツテ國際貿易ニ關スル政府ノ政策ハ寧ロ自由主義ニ傾キタリシガ爲メニ、此税制ハ時々ノ變更アリシモ大體ヨリ云ヘバ漸次輕減セラレタルヲ見ル。然ルニ帝國統一以後「ビスマーク」ハ社會政策ト保護政策トヲ以テ帝國ノ二大國是トナセシ爲メ保護主義ハ次第ニ其勢力ヲ加ヘ、終ニ一八七九年關稅法ノ改正トナリ、各

種ノ輸入品ニ對シテ其税率ヲ高メ保護政策ノ目的ヲ達スルニ於テ憾ム所ナキニ至レリ。

現時歐洲各國ニ於ケル輸入ニ關スル保護政策ハ輸入税ヲ以テ其中樞トナセルコトハ一般ノ事實ナリトス。或ハ保護政策ノ目的ヲ遂行スルニ於テ輸入禁止ノ輸入税ニ優ルコトヲ主張スル者アルモ、先キニ述ブル所ノ事情ニ基キ輸入禁止ハ現時ノ國際關係ニ徴シ到底實行セラルベキ制度ニ非ラズ。去レバ必ラズ輸入税ニ依ツテ保護政策ノ基礎ヲ立テザル可ラザルヤ言フ俟タズ。然リト雖モ輸入禁止ト輸入税制トハ實行ノ方法ニ依ツテハ其間髪ヲ容レザル場合ナシトセズ、是レ當局者ノ最モ注意ヲ要スルコトナリトス。輸入税ノ一種トシテ禁止税ト名ケラレタルモノアリ。此種ノ輸入税ハ其税率甚ダ高ク之ガ爲メニ輸入ヲ杜絶セシムルコトハ屢々之アリ。加之ノミナラズ之ヲ實行スル所ノ當局者ニシテ往々輸入ノ杜絶ヲ目的トセル場合モ亦之アリ。是ノ如キハ名ヲ輸入税ニ藉ツテ輸入禁



止ノ實ヲ行フモノニシテ其害タル少シトセズ。

第二 輸出ニ關スル政策

古來各國ニ於ケル輸出ニ關スル政策ハ大概二種ニ分レタリ。一ハ食料品原料等ノ輸出ニ就キ成ルベク之ヲ制限シ國內工業ノ資料ヲ豐富ナラシムルノ目的ヲ有セルモノニシテ輸出禁止及ビ輸出税ノ如キハ此種ノ政策ニ屬セリ。一ハ製品ノ販路ヲ外國ニ擴張スルノ目的ヲ有セルモノニシテ、輸出戻税、輸出奨励金ノ如キ此種政策ノ重ナルモノトス。二者與ニ國內ノ工業ヲ保護スルノ必要ニ基ケルモノニ外ナラズ、只之ガ實行ノ方法ニ就キ一ハ消極的ニ一ハ積極的ナルノ區別アルノミ。

(1) 輸出禁止 輸出禁止ニシテ只行政上ノ目的ヲ有セルモノ例ヘバ兵器彈藥ノ輸出ヲ禁止セルガ如キハ茲ニ之ヲ論ゼズ、又東洋諸國ニ於テ屢々行ハレタル輸出禁止制アリ。夫ノ從來支那ニ行ハレタル米穀輸出禁止ノ如キハ全ク兇年飢歲ニ備フルニ外ナラズ、工業保護ノ爲メニセルニ非

ラザルガ故ニ是レ亦本論ノ範圍ニ屬セズ。然レドモ歐洲各國ニ於テ輸出禁止ヲ以テ保護政策ノ一方法トナシタルコトハ其實例甚タ多シ。重商主義ノ盛ンニ行ハレタル時代ニ於テ殊ニ然リトナス。英國ニテハ十八世紀ニ在ツテ羊及ビ羊毛ノ輸出ヲ禁止セリ。十九世紀ノ初期ニ至ツテハ器械類ノ輸出ヲ禁止スルノ議ハ朝野ニ喧シク、一八二五年ニハ終ニ議會ノ問題トナリタルモ器械業者ノ反對ノ爲メニ此議ハ議會ヲ通過セズ、只器械ノ種類ニ依リ之ガ輸出ヲ禁ズルノ權能ヲ政府ニ與ヘタリキ。去レド一八四二年ニハ全タク器械輸出ノ禁止ヲ解キタリ。其他諸國ニ於テモ亦原料等ニ關シ輸出ヲ禁止シタルコトハ屢々之アリ。然レドモ近時此政策ハ殆ンド其跡ヲ絶テルモノ、如シ。

(2) 輸出税 ハ輸入税ト均シク財政上ノ必要ニ基ケルモノト保護政策ノ目的ニ出ルモノトノ區別アリ。保護政策トシテノ輸出税ハ輸出禁止ト其趣ヲ一ニシ國內工業ニ必要ナル資料ハ成ルベク之ヲ國內ニ保存シ之



ヲ完製シテ後輸出ヲナサシメントスルニ在リ。輸出税ハ輸出禁止ニ比スレバ其處置ノ穩當ナルガ爲ニ重商主義ノ盛時ニハ廣ク行ハレタリ。英國ニテハ十九世紀ノ二十年代及ビ三十年代ニ在ツテ輸出税ヲ課セラレタル物品ノ種類甚ダ多ク其税率モ亦重カリキ。石炭、羊毛ノ如キ其ノ最モ顯著ナルモノトス。佛國ニテハ大革命ノ頃ニ當リ關稅總額ノ約三分ノ一ハ輸出税ノ占ムル所タリ。之ヨリ後次第ニ減少シ一八一五年ニハ此割合ハ九歩半トナリ、一八二〇年ニハ五歩トナリ。又一八二六年ニハ一歩半トナリ終ニ六十年代ニ至ツテ廢止ニ歸セリ。現時英、佛、獨、米ノ諸國ニハ輸出税ハ既ニ其跡ヲ留メズ。只露西亞、埃太利ニテハ製紙業保護ノ爲ニ紙屑ノ輸出ニ課税シ瑞士國ニテハ皮革業、牛乳業保護ノ爲メニ皮革及ビ牧牛ノ輸出ニ課税セリ。支那ニ於テ茶ノ輸出ニ對シ原價四分ノ一ノ輸出税ヲ課シ、「キユバ」ニ於テハ烟艸ノ輸出ニ對シ一割二歩ノ輸出税ヲ課セルモ、是等ハ只政府ノ收入ヲ増加スルガ爲メニ之ヲ設ケタルモノニシテ工業政策ト

何等ノ關係ヲ有スルコトナシ。

(3) 輸出戻税及ビ輸出獎勵金 輸出戻税トハ輸入税ヲ課セラレタル輸入品ガ更ラニ加工シテ輸出セラル、場合ニ既ニ納付セル輸入税ヲ拂戻スノ制ヲ云フ。此制ヤ古來各國ニ行ハレ、殊ニ十九世紀ノ前半期、佛國ニ於テ盛ニ行ハレタリ。方今各國ニ於テ實例ノ顯著ナルモノヲ舉グレバ、輸入綿糸ヲ原料トセル織物ノ輸出ニ就キ綿糸輸入税ヲ拂戻スコト是ナリ。佛國ニテハ其輸入税額ノ六割ノ戻税ヲナシ、米國ニテハ其百分ノ一ヲ控除セル殘額ノ戻税ヲナセリ。以太利ニ於テモ此種ノ戻税ヲ行ヘリ。或ハ輸出戻税ノ一種トシテ内地ニテ消費税ヲ課セラレタル物品ガ輸出セラル、ニ當リ此消費税ヲ拂戻スノ方法アリ。我國清酒ノ輸出ノ場合ニ於テ酒造税ノ拂戻ヲナスガ如キ其一例タリ。

輸出戻税ヲ實行スルニ就キ已ニ納付セル税額ノ拂戻ヲナスニ二種ノ方法アリ一ハ同品主義 (identitat) ニシテ一ハ同種主義 (acquivalent) ナリ。同品



主義ニ依レバ輸入セラレタル物品ト輸出セラルベキ物品ト同一ナルコトヲ要ス。同種主義ニ依レバ必ズシモ物品ノ同一ナルコトヲ要セズ其種類ガ同一ナレバ可ナルモノトス。例ヘバ綿糸輸入税ノ拂戻ヲナスニ當リ同品主義ニ依ルトキハ同一ノ綿糸タルコトヲ必要トスルモ、同種主義ニ依ルトキハ其番手ヤ其品質ニ於テ異ナルコトナケレバ同一ノ物品ニ非ルモ戻税ヲナスモノトス。各國ノ税制ニ於テ從來前者ノ主義ヲ採用セルモ次第ニ後者ノ主義ニ移レリ。

輸出戻税ノ一變例トシテ輸入加工制 (importation temporary) ナルモノアリ。是レ原料粗製品ノ輸入ニ際シ加工ノ上更ラニ輸出ヲナスノ條件ヲ付スルトキハ特ニ輸入税ヲ免除スルノ制ナリ。蓋シ輸出戻税ノ方法ニ依レバ生産者ハ輸入ノ際一旦輸入税ノ納付ヲナサザルヲ得ザルヲ以テ、後ニ至ツテ戻税ヲ受クルモ其税額ニ對スル利子ハ生産費トシテ生産者ノ負擔トナルヲ免カレザルナリ、然ルニ輸入加工制ニ依ルトキハ生産者ハ納税ノ

必要ナキヲ以テ此不利益ヲ避ルコトヲ得ルナリ、此制度ハ現今佛獨兩國ニ盛ンニ行ハレタリ。

此制度ヲ實行スルニ當リ特定ノ地域ヲ指定シテ所謂自由港ナルモノヲ設ケ輸入ハ自由港ニ於テ之ヲナサシメ、而シテ同一ノ場所ニ於テ加工ヲナシタル後輸出ヲナサシムル場合アリ。此方法ニ依ルトキハ脱税ニ對スル監督ハ容易ニ之ヲナスコトヲ得ルナリ。然ルニ自由港ノ設ナキ所ニテハ監督ノ必要上輸入地ノ附近ニ工場ヲ設ケ加工ヲナサシメ、該工場ニハ常ニ税關官吏出張シテ取締ヲナスヲ例トス。此場合ニ於テハ特定ノ工場以外ニテハ此輸入加工ノ特典ニ與ルコトヲ得ズ、從ツテ政府ノ處置公平ヲ欠グノ嫌ナシトセズ。

又輸出戻税ノ實行ノ方法トシテ輸入加工制ニ依ラズ、單ニ特定ノ條件ヲ付シ一定ノ期間ヲ限リ輸入税ノ延納ヲ許シ自由ニ輸出ヲナサシムル方法アリ。



輸出獎勵金ハ政府ガ特定ノ物品ノ輸出ニ對シ之ニ交付スル所ノ補助金ナリ。其目的トスル所ハ輸出戻税ノ如クニ外國市場ニ於テ輸出品ノ販賣ヲ容易ナラシメ其競争力ヲ強ムルニ在リ。各國ニ行ハル、最近ノ實例ヲ掲グレバ砂糖ノ輸出獎勵金トス。獨逸ハ一時約二千萬「マーク」ノ獎勵金ヲ支出セシコトアリキ。現時歐洲各國ニ於テ輸出ニ關スル保護政策ハ主トシテ輸出戻税ノ方法ニ依リ輸出獎勵金ハ稀有ノ事實トナレリ。顧フニ輸出戻税ハ其標準ヤ明瞭ニシテ其範圍ハ確定セルヲ以テ之ヲ實行スルニ當リ弊害ノ之ニ伴フコト少ナキモ、輸出獎勵金ニ至ツテハ屢々濫惠ニ流ル、ノ憂アルノミナラズ、一旦之ヲ行ヘバ其必要已ムモ廢止スルコト甚ダ難シ。加之ノミナラズ獎勵金ノ額多キニ失スルトキハ之ヨリ生ズル財政上ノ弊害モ亦顧慮スベキコトタリ、殊ニ注意ヲ要スルコトハ此制度ヲ實行センカ、内地生産品ニ就キ内國ノ消費者ハ外國ノ消費者ヨリモ高キ代價ヲ拂ハザル可ラズ、而シテ獎勵金ノ負擔ハ自國ノ人民ニ歸セリ、其中

ニハ其物品ノ消費者モアルベキヲ以テ内地ノ消費者ハ終ニ二重ノ負擔ヲナスノ結果ヲ生ズルナリ、是等ノ理由ニ依リ輸出獎勵金ハ只已ムヲ得ザル場合ニ於テノミ行フベキ保護政策ナリト云ハザルヲ得ズ。輸出獎勵金ハ政府之ヲ行フヲ以テ通例トセルモ、近時之ガ變態トシテ政府ニハ何等ノ關係ナク同業組合及「カルテル」等ガ組合員ノ輸出ヲ獎勵スル爲ニ支出スル所ノ輸出獎勵金ハ各國ニ行ハレタリ。其目的トスル所ハ外國市場ニ於ケル競争力ヲ強ムルニ止マラズ、之ニ依ツテ内地市場ノ供給ヲ減少シ其價格ヲ騰貴セシムルニ在リ、其ノ内地消費者ニ與フル弊害ハ政府ノ與フル所ノ輸出獎勵金ニ比シ更ラニ甚シキモノアルヤ言フ俟タズ。



### 第十三章 工場法ノ性質

工場法ハ社會問題上ヨリ工業經濟ヲ研究スルニ當リ極メテ重要ナル關係ヲ有セルモノトス。顧フニ工場法ハ各種社會改良策ノ先驅ヲナシ殆ンド之ガ基礎ヲナセリ。現今各國ノ社會改良策ヲ按ズルニ國情ノ異ナルモノアリ時勢ノ均シカラザルモノアルガ爲メニ多少其趣ヲ異ニセルニ拘ラズ、工場法ヲ存セザル所ハ之ナキガ如シ。社會改良策ニ於ケル工場法ノ地位ハ由ツテ以テ之ヲ推スニ難カラザルベシ。

工場法ノ目的トスル所ハ他ナシ、労働者ガ工場生活ノ爲メニ被ルベキ害惡ヲ除却スルニ在リ。工場生活ノ害惡ハ其種類一ニシテ足ラス。今之ガ原因ニ就キ分類ヲナサンカ、労働條件ヨリ起ルモノト工場設備ヨリ生ズルモノトノ二種アリ。例ヘバ労働時間ノ過長ナルコト、徹夜業ヲナスコト等ノ爲メニ起ル所ノ害惡ハ前者ニ屬シ、危險ナル器械ヲ使用シ或ハ有害ナ

的工場法ノ目

ル物品ヲ取扱フガ爲メニ生ズル所ノ害惡、所謂業務災厄ハ後者ニ屬セリ。又工場生活ノ害惡ヲ其結果ニ依ツテ區別センカ、或ハ衛生上ノ害タルモノアリ、或ハ教育上ノ害タルモノアリ、或ハ風教上ノ害タルモノアリ、或ハ經濟上ノ害タルモノアリ、其種類極メテ多ク且ツ其ノ及ボスベキ範圍ハ廣大ナリトス。抑モ工場生活ノ害惡ハ工業ノ發達ニ伴フ必然ノ結果ニシテ、其事實ノ最モ顯著ナルハ工業革新ノ時代ニ在リ。是故ニ是等害惡ノ實狀ヲ詳ニセント欲セバ重要工業國ニ就キ工業革新ノ時代ニ遡リ労働者ノ状態ヲ見ルニ如クハナシ。余ハ茲ニ拙著『歐洲労働問題ノ大勢』ヨリ其大要ヲ鈔録セン。

十九世紀ノ前半期ハ歐洲ノ先進國ニ於ケル工業革新ノ時代ナリ、而シテ其先驅ヲナセルモノヲ英國トナス。殊ニ該國紡績工場ノ慘狀ハ實ニ社會史上ノ一大現象トシテ今ニ至ルマデ世人ノ記憶ニ存スルモノタリ。一八三二年工場調査會ノ報告ニ依レバ當時該國ノ紡績職工ニハ九歳以下ノ



者甚ダ多ク七歳以下ノ者モ亦少ナシトセズ。又其勞働時間ハ十六時間ヲ以テ通例トナセリ。晝夜交代ノ執業方法ヲ執ル所ニ在ツテ夜業ノ組ニ屬セル職工ニシテ欠員アルトキハ晝業ノ組ニ屬セル者ヲ以テ之ヲ補フコト屢々之アリ此場合ニハ其勞働時間ハ晝夜ヲ通ジ二十四時間トナルナリ。

「ロード、シャッフツベリー」ハ英國工場法ノ首唱者トシテ其名聲ハ不朽ニ傳ハレリ。氏ノ言フ所ハ以テ有力ナル證言タルヲ得ン。一八七三年氏ノ上院ニ於ケル演說ニ曰ク本世紀ノ初期ニ於テ我國紡績工場ニ在ル幼者ノ状態ハ洵ニ憐ムニ堪ヘタリ。余ハ屢々工場ノ前ニ佇立シ工場ヲ出入セル所ノ幼者ヲ見ルニ何レモ顔容蒼白ニシテ肉落チ骨立チ累々然タル者比々皆然ラザルハナシ。殊ニ「ブラットフォード」市ニ於テハ最モ已甚シキモノアリ。余曾ツテ此地ニ赴キシトキ友人某數多ノ幼年職工ヲ集メテ余ニ示セリ。余之ヲ見ルニ其多數ハ畸形ニシテ實ニ一見人ヲシテ顔ヲ蔽ハシメタリ

ト。

「エイキン」ノ記録ニ曰ク工場ノ慘狀世ニ公ニセラル、マ附近地方ノ者ハ其子女ヲ職工タラシムルコトヲ好マズ。從ツテ職工ノ供給欠乏シタリケレバ終ニ貧民院ノ子女ヲ傭入ル、者多カリキ。其手續ヲ見ルニ貧民院ノ管理者ハ工場主ノ求ニ應ジテ若干ノ貧兒ヲ撰拔シテ之ヲ遠方ノ工場ニ送レリ。工場主ハ一々之ガ體質ヲ驗査シ合格者ハ之ヲ工場ニ止メ徒弟見習ノ名義ヲ以テ使役シ給スルニ弊衣粗食ヲ以テシ毫モ賃銀ヲ與ヘズ。而シテ之ニ課スルニ過度ノ勞働ヲ以テシ若シ之ニ應ゼザルトキハ加フルニ鞭撻ヲ以テシ呵責虐遇到ラザルナシ。彼等ニシテ之ガ苦痛ニ堪ヘズ逃亡ヲ企ツル者アルトキハ之ヲ捕ヘ鐵鎖ヲ以テ其足ヲ繋ギ之ヲ使役スルコト恰モ囚徒ノ如シ。去レバ是等幼者ノ中往々自殺シテ以テ工場ノ苦楚ヲ免ル、者少カラズト。

佛國ニ於テモ亦工業革進ノ時代ニ際シ工場ノ慘狀殆ンド英國ニ讓ラザ



ルモノアリ。一八三〇年博士「ヅラメー」氏ハ巴里倫理學政治學協會ノ囑託ヲ受ケテ職工事情調査ノ爲メニ各地ヲ周遊シ一篇ノ報告書ヲ公ニセリ。此報告書ニ於テ氏ハ先ヅ勞働時間ノ過長ナルコトヲ述ベテ曰ク。紡績、毛織物工場ニ於ケル勞働時間ハ十四五時間ヲ通例トセリ此勞働時間ハ獨リ成年職工ニノミ之ヲ課スルニ非ラズ兒童モ亦此長時間ノ勞働ヲナサハル可ラス。此兒童ニハ往々六歳内外ノ者アリ又八歳以下ノ職工ハ其數少ナシトセズ「ミュールハウス」工業組合ノ報告ニ依レバ各地ノ紡績工場ニ於テ勞働時間ヲ十七時間ト定メタルモノ多キヲ見ルト。更ニ獨逸ニ就キテ之ヲ觀察センニ。一八二八年普國徵兵検査官「フォン、ホルン」ハ政府ニ報告シテ曰ク「ライン」地方ニ於テ工場勞働ノ爲メニ多數人民ノ體質ハ著シク毀損セラレ兵役合格者ハ到底定數ヲ充タスコト能ハザルニ至レリト、當時「ライン」地方ハ獨逸工業ノ中心タリ、此地方人民ニシテ此狀況ニ陥ルヲ見バ獨逸ニ於ケル工場ノ慘狀モ亦推シテ知ルベシ。

右述ブル所ノ害惡ハ主トシテ勞働條件ヨリ起リシモノタリ、更ラニ翻ツテ工場設備ヨリ生ズル害惡、即チ所謂業務災厄ノ狀況ヲ觀察センニ憾ムラクハ工場革新時代ニ於ケル此種ノ資料ナシ、去レバ現時ノ事實ヲ以テ過去ノ状態ヲ推スハ亦已ムヲ得ザルコトタリ。獨逸兩國ノ災厄保險法ノ結果トシテ發表セラレタル事實ニ就キ「カーン」氏ガ一九〇五年勞働保險國際會議ニ報告セル災厄統計ニ依レバ、勞働者一万人ニ就キ被害者數左ノ如シ

獨逸

	死亡	永久廢疾	十三通以上ノ勞働不能
一八八六年	七、〇	一五、三	五、七
一八八七年	七、七	二八、四	五、三
一八八八年	六、八	二八、一	八、六
一八八九年	七、一	三一、九	八、一
一八九〇年	七、三	三六、五	九、八



一八九一年	七、一	三七、四	一一、〇
一八九二年	六、五	三八、五	一一、四
一八九三年	六、九	四〇、九	一二、五
一八九四年	六、五	三九、八	一六、二
一八九五年	六、七	三七、二	一八、五
一八九六年	七、一	三六、三	二三、八
一八九七年	七、〇	三六、二	二五、九
一八九八年	七、三	三六、三	二七、五
一八九九年	七、二	三六、七	三〇、〇
一九〇〇年	七、四	三六、六	三〇、六
一九〇一年	七、二	三八、九	三四、六
澳太利			
一八九〇年	六、七	一九、三	五五、九
一八九一年	六、六	二五、一	七〇、八

一八九二年	六、四	二八、三	七〇、七
一八九三年	六、九	三四、五	七四、五
一八九四年	六、八	三七、四	八二、六
一八九五年	六、八	四〇、五	八七、四
一八九六年	七、二	四二、一	九五、二
一八九七年	七、〇	三七、九	一〇二、七
一八九八年	七、〇	三七、八	一〇五、五
一八九九年	七、三	四一、七	一〇八、六
一九〇〇年	六、八	四〇、八	一〇九、九
一九〇一年	六、七	四二、八	一一三、四

抑モ此二國ハ危害豫防ノ方法最モ備ハレルヲ以テ鳴ル所ナリ。之ニ關シテハ工場法ニ於テ詳細ナル規定ヲ存セルノミナラズ。災厄保險法ハ工場主ノ同業組合ヲシテ一定ノ準則ヲ設ケテ危害ノ豫防ヲ圖ラシムルナリ。然ルニ本表示ス所是ノ如シトセバ工場監督ノ制度ガ存在セザル所ニ在



ツテ多數ノ職工ガ工場生活ノ犠牲トナレルコトハ固ヨリ怪ムニ足ラザルナリ。

工場生活ノ害悪ヤ其ノ顯著ナルコト是ノ如シ、苟モ社會問題ノ觀察點ヨリ工業經濟ヲ研究スル者豈之ヲ忽諸ニ附スベケンヤ。顧フニ社會改良ノ理想ヲ達セント欲セバ先ヅ職工ノ階級ヲシテ衛生ニ教育ニ風教ニ一般國民ト同一ノ程度ニ立タシメザル可ラズ、而シテ後各種ノ畫策ヲ施シ其地位、生計ヲ改良進歩セシメザル可ラズ。是ノ如クシテ始メテ社會問題ノ解決期シテ俟ツヘキナリ。然ルニ今若シ多數ノ職工ガ工場生活ノ爲メニ其身心ノ健全ヲ阻害サレ、年壯ニシテ既ニ其勞働力ヲ失ヒ相率キテ貧民ノ群ニ陥ル者歳ヲ追フテ増加スルコトアラシカ、斯問題ノ前途ハ實ニ寒心ニ堪ヘザルモノアラン。加之ノミナラズ幼者ニ在テハ其發育ヤ不充分ニシテ且ツ國民教育ノ恩典ニ浴スルコトヲ得ズ、婦女ニ在テハ管ニ其生殖ノ機能ヲ減ズルノミナラス家庭ノ注意モ之ヲ抛ツテ嬰兒ノ撫育亦之

工場法と雇  
傭關係

ヲナスニ由ナケン、果シテ然ラバ奈何ンゾ將來有爲ノ職工ヲ得ルヲ望マシヤ。是ノ如クシテ養成セラレ是ノ如クシテ生活セル勞働者ニ對シテ、或ハ職工組合ヲ起シ或ハ勞働保險ノ制ヲ設ケテ其地位ヲ改良セシメントスルハ抑モ難イ哉。工場法ノ必要ハ於是乎生ゼリ。工場法ガ各種社會改良策ノ基礎ヲナセルハ豈偶然ナランヤ。

工場主ト勞働者トノ間ニ存セル雇傭關係ヨリ工場法ヲ觀察シ、反對ノ意見ヲ立ツル者アリ。此種ノ議論ハ大別シテ三種トナス。一ハ自由放任主義ニ基ケル反對論ニシテ、一ハ慈惠的方針ノ社會改良主義ニ基ケル反對論ナリ。二者共ニ有力ナルモノニ非ラズト雖モ、工場法ノ性質ヲ明ニスルガ爲メニ此種ノ議論ヲ批評スルノ必要アルヲ以テ余ハ茲ニ之ヲ論ゼント欲ス。

自由放任主義ニ基キテ工場法ニ反對スル者ハ曰ク勞力ハ商品ナリ契約ハ自由ナリ、勞力ノ賣主タル勞働者ト勞力ノ買主タル工場主ノ間ニ於テ



勞働條件ヲ定メントセバ双方ノ自由契約ニ依ラザル可ラズ奈何ナル條件ヲ以テ此契約ヲ結ブモ双方ノ任意ニ委セザル可ラズ然ルニ政府ガ其間ニ立ツテ干涉ヲ試ムルハ人民ノ自由ヲ侵害スルモノタル此事ヤ當ニ工場主ニ對シテ然ルノミナラズ勞働者ニ對シテモ亦然リ實ニ背理ノ處置タルヲ免レズト此説タル各國ノ自由放任主義ノ學派ガ數十年前ニ盛ンニ主張セシ所ノモノナルモ近時漸ク泯滅ニ歸シタルノ看ナキニ非ラズ。

勞力ハ商品ナリ契約ハ自由ナリ雇傭關係ハ工場主ト勞働者トノ合意ニ一任スベシトノ前提ハ果シテ正當ナリヤ否ヤ顧フニ雇傭關係ナルモノハ其性質上商品ノ賣買ト同一視スベキニ非ズ勞力ノ估賣ハ或意義ニ於ル身體ノ估賣ナリ一定ノ時間内工場ノ勞働ニ從事スル間ハ勞働者ハ全く其自由ヲ制限セラレ一舉一動悉ク工場主ノ意志ニ從ハザル可ラズ夫ノ商品ノ賣買ニ於テ其影響ハ只經濟上ノ事情ニ止マリ毫モ身體上ノ事

情ニ及バザルガ如キモノト大ニ其趣ヲ異ニセリ是故ニ勞働者ガ工場主ニ對シ殆ド身體ノ估賣ニ均シキ重大ナル契約ヲナスニ當リ政府ハ之ヲ當事者ニ放任シ恬トシテ顧ミザルノ理ナシ是ノ如キ場合ニ於テ政府ガ勞働者ニ對シ保護ノ方法ヲ設クルハ當ニ彼等ノ利益タルノミナラズ公益ノ爲メニ必要ナル事ニ非ザルカ。

雇傭關係ニ就テ政府ノ干涉ノ必要ナルコトハ右述ブル所ノ如シ去レド干涉ノ範圍及ビ程度ニ至ツテハ勞働者ノ長幼男女ヲ問ハズ總テ同一ナルベキモノニ非ラズ各國ノ工場法ニ於テ幼者婦女ニ對シテハ嚴密詳細ナル制限ヲ設クルモ成年男子ニ對シテ法律ノ保護ハ大ニ薄キヲ見ル是レ何ニ由ツテ然ルカ顧フニ成年男子ニ在ツテハ獨立ノ意志ヲ貫キ工場主ニ對シテ假令ヒ對等ノ地位ニ立ツ能ハザルモ幾分カ自己ノ利益ヲ主張シ得ル場合少ナキニ非ラズ殊ニ職工組合ヲ組織セル者ハ獨力ノナシ能ハザル所ハ共同ノ勢力ヲ以テ之ニ當ルノ便宜ヲ有セリ此場合ニ於テ



法律ノ保護ハ寧ロ補充的性質ヲ有シ勞働者ノ自力ノ及バザル所ヲ補助スルニ止ムルモ可ナリ。然リト雖モ幼者婦女ニ在ツテハ其意志ノ薄弱ナル其性質ノ柔軟ナル到底工場主ニ對シテ利益ノ主張ヲナシ得ベキニ非ズ。其父兄若クハ夫タル者モ、之ヲ保護スルコト甚ダ難シトス。各國ノ社會史ニ於テ工場生活ノ慘狀ハ殊ニ幼者婦女ニ關スルモノ多キヲ見テ之ヲ明ニスルコトヲ得ベシ。加之ノミナラズ幼者婦女ニ在ツテハ成年男子ノ如クニ職工組合ヲ組織スル能ハズ。近年英國ニ於テ女工ノ職工組合ノ組織セラル、モノアルモ其前途未ダ知ル可ラズ。是ヲ以テ幼者婦女ニ對シテハ政府ハ其權力ヲ藉ツテ充分ノ保護ヲナシ、由ツテ以テ工場主ノ壓抑ヲ免カレシムルコトヲ圖ルハ政府當然ノ職務ナリト云ハザル可ラズ。由是觀之自由放任主義者ガ工場法ニ反對セルハ勞力ノ觀念ニ關シテ又雇傭關係ノ性質ニ就テ一種ノ謬見ヲ抱ケルニ依ルコト疑ヲ容レズ。社會改良主義ノ慈惠の方針ヲ根據トシテ工場法ニ反對スル者ハ曰ク、工

場主ト職工トハ宜シク家族的關係ヲ存スベシ、對等ノ關係ニ立タシム可ラズ。職工ノ工場主ヲ視ルコト家長ノ如ク、工場主ノ職工ヲ視ルコト家族ノ如ク情義恩愛ノ連鎖ヲ以テ二者ヲ束縛スルコトハ、勞働問題解決ノ惟一ノ方法タリ。若シ夫レ此方針ニ依ラズ法律ヲ以テ二者ノ間ニ於ケル權義ノ區域ヲ明ニシ之ガ衝突ヲ避ケシムルガ如キハ、此美風ヲシテ泯滅ニ歸セシムルモノタリ。其害タル測ル可ラザルモノアラント。此說タル各國工業時代ノ初期ニ於テ工場主ノ常ニ主張セル所ニシテ今ニ至ツテモ尙ホ此說ヲ執ル者ナキニ非ラズ。抑モ工場主ト勞働者トノ間ニ家族的關係ヲ存セシムルハ、是レ實ニ社會ノ美風ニシテ此風習ノ發達ハ勞働問題ノ解決ニ至大ノ裨益アルコトハ余モ亦之ヲ斷言スルヲ憚ラズ。然リト雖モ、天下ノ富豪ヲシテ悉ク慈善家タルヲ望ム能ハザルト同ジク、天下ノ工場主ヲシテ悉ク此美風ヲ保タシムルコトヲ望ム能ハズ。少數ノ工場主ガ此方針ヲ執レルノ事實ヲ以テ工場法ノ必要ヲ沒却スルハ非理ノ事タリ。顧



フニ雇傭關係ヲ以テ家族關係ト同一ナラシムルト否トハ工場主ノ氣質  
 性行ニ依ツテ分ル、コト固ヨリ論ナキモ、工場ノ組織如何ニ依ツテ此關  
 係ヲ存スル能ハザル場合アリ、今家族的關係ヲ存スルニ必要ナル工業組  
 織ヲ按ズルニ、其要件ニアリ、曰ク工場ノ規模ノ少ナルコト、曰ク個人ノ經  
 營ニ係ルコト是ナリ、大工場ノ組織ニ依ルモノハ工場主ト職工トノ間ニ  
 幾多ノ階級ヲ存シ累々層ヲナセルアリ、二者ノ地位ハ甚ダ隔絶シ、互ニ相  
 近クコトヲ得ズ、之ガ爲メニ工場主ハ周到懇切ナル注意ヲ以テ勞働者ヲ  
 遇スルコト能ハズ、勞働者モ亦工場主ニ對シテ恩愛ノ情ヲ起スコトナク、  
 到底家族的關係ノ事實ヲ見ルニ由ナカラン、又會社營業タル工場ニ在テ  
 ハ工場主ハ無形ノ法人タリ、而シテ此法人ヲ代表シテ事務經營ノ局ニ當  
 ル所ノ重役ハ寧ロ株主ニ對シテ其歡心ヲ結ブニ汲々トシ、勞働者ノ利害  
 ニ關シテハ之ヲ顧ミルニ遑アラザルベシ、加之ノミナラズ其地位タル一  
 定ノ期間ヲ限テ之ヲ占ムルモノナルガ故ニ、慈善ナル工場主タルノ名譽

ハ以テ彼等ノ心ヲ動カスニ足ラザルナリ、然ラバ則チ此種ノ工場ニ於テ  
 家族的關係ノ存セザル亦怪ムニ足ラズ、若シ夫レ工場ノ規模小ニシテ而  
 シテ個人ノ事業タルモノニ在ツテハ、工場主ト勞働者トノ關係ハ稍々其  
 趣ヲ異ニシ二者ノ間鴻溝ノ存スルコトナク、從ツテ情義ノ連鎖ヲ以テ二  
 者ヲ結合セシムルコト難キニ非ラズ、又工場ノ管理ハ工場主ノ全權ニ歸  
 スルガ故ニ、會社營業ノ役員ノ如クニ他ニ掣肘セラル、コトナク能ク其  
 主義ヲ貫クコトヲ得ベシ、且又勞働者ニ對スル待遇ノ良否ハ延イテ自己  
 ノ名譽ニ關スルコトアルガ爲メニ自ラ其責任ヲ重ンズルコト、ナルベ  
 シ、去レバ此種ノ工場ニ於テハ工場主ノ意志如何ニ依ツテハ家族關係ヲ  
 存スルコト容易ナリトス。

今各國工業進步ノ趨勢ヲ按ズルニ、工業組織ハ漸次小工業ヨリ大工業ニ  
 進ミ個人營業ヨリ會社營業ニ移ルモノニシテ此趨勢ニ關シテハ多數ノ  
 工業ニ就イテ之ヲ觀察センカ否ム可ラザルノ事實ナリトス、然ラバ則チ



多數ノ工場ニ於テ家族的美風ハ次第ニ泯滅ニ歸シ、利益の關係ノ之ニ代ハルノ傾向アル亦怪ムニ足ラズ、今若シ工場法ヲ制定センカ、少數ノ工場ニ於テ此美風ノ發達ヲ阻害セラル、コト或ハ之ナキヲ保セザルモ、多數ノ工場ニ於テ労働者ハ充分ニ其利益ヲ保護セラレ從ツテ労働問題ノ解決ニ至大ノ便宜ヲ與フルコト、ナルベシ之ヲ要スルニ家族的關係ヲ以テ工場主ト労働者トヲ連結スルコトハ社會改良上固ヨリ望ムベキ所ナルモ、工業進歩ノ大勢ハ最早之ヲ許サルモノ、如シ之ヲ以テ工場法制定ニ對スル反對ノ理由トナスハ余ハ其何ノ故タルヲ知ラズ。

國民經濟ノ基礎ハ資本ト勞力ニ在リ、國民經濟ノ發達ノ爲メニハ此二者ヲシテ并行進歩セシメザル可ラズ。去レバ政府ガ工場主ノ利益ヲ保護スルト均シク労働者ノ利益ヲ保護スルハ工業政策ノ宜シキヲ得タルモノナリトス。工業ニ關スル保護政策ト労働者ニ關スル社會政策トハ此點ニ於テ其揆ヲ一ニスルモノナリ。

顧フニ無制限ノ雇傭關係ニ於テ工場主ガ労働者ニ對シ絶對ノ權力ヲ有シ衛生ニ教育ニ風教ニ多數ノ労働者ヲシテ工場生活ノ害惡ノ犠牲性タラシムルコトハ、是レ當ニ労働者ノ人格ヲ無視シ其利益ヲ害シ社會問題上實ニ忍ブ可ラザルコトタルノミナラズ、工業ノ發達ヲ阻害シ國民經濟上ノ不利ヲ醸スコト更ラニ大ナルモノタリ、蓋シ労働者ノ工場生活ニシテ安全ニ保護セラレザランカ、其生産力ハ減少シ、生産期間ハ短縮セラレ、又技術ニ習熟スルノ機會ヲ失フノ結果ヲ生ズベケレバナリ、然ルニ今若シ工場法ヲ制定シ二者ノ關係ヲ監督シ其利害ヲ調和スルコトヲ得バ、其結果ハ當ニ労働者ノ利益タルノミナラズ、國民經濟ノ發達ニ裨補スル所少ナカラザルヤ固ヨリ疑ヲ容レザルナリ。

工場法ト國民經濟トノ關係是ノ如シ、然ルニ各國工場法ノ沿革ヲ按ズルニ多數ノ工場主ハ工場法ヲ以テ國民經濟ノ發達ヲ阻害スルモノトナシ、之ヲ排撃セルヲ見ル、而シテ反對ノ論點ニ就テハ、國情時勢ノ異ナルニ從



テ其趣一ナラズト雖モ、之ヲ要スルニ勞働時間、及ビ徹夜業ノ制限等、總テ勞働ノ延長ヲ制限スルノ規定、及ビ職工ノ年齢ニ制限ヲ附シ、一定ノ年齢以下ノ者ノ工場勞働ヲ禁止スルノ規定等ハ、彼等ノ最モ反對スル所タリ。而シテ其理由トスル所ヲ聞クニ、曰ク勞働延長ノ制限ハ、即チ勞働生産力ノ制限ニシテ之ガ結果トシテ勞働工程ヲ減少シ、延イテ製品ノ産額ヲ減少シ、終ニ生産費ノ増加ヲ來タスヲ免レザルベシ。而シテ生産費ノ増加ガ物價ノ騰貴ヲ來タスハ必然ノ事タリ、若シ此場合ニ於テ其製品ニシテ外國ト競争ヲナスベキモノナランカ、自國ノ工業ハ其競争力ヲ殺ガレ、國民經濟上ノ不利之ヨリ甚ダシキハナカルベシ。又年齢ヲ制限スルノ規定ハ必ラズヤ勞力ノ供給ヲ減少スルノ結果ヲ生ズベク、若シ其需要ニシテ之ニ伴ツテ減少スルコトナランカ、賃銀ノ騰貴ヲ來タスヲ免レザルベシ。賃銀ノ騰貴ハ生産費ノ増加トナリ、生産費ノ増加ハ終ニ工業ニ關スル國際的競争力ヲ減少スルハ勞働延長ノ制限ニ於ケルト其結果ヲ異ニスル

コトナカルベシト。右述ブル所ハ、各國多數ノ工場法ニ反對スル立論ノ要旨ナリ。彼等ノ説ク所果シテ是ナルカ乞フ之ヲ學理ト實例トニ照シ、其謬見ヲ攪破セン。

勞働延長ノ制限ハ果シテ勞働ノ工程ヲ減少スルヤ否ヤ。余ノ見ル所ニ依レバ、此事タル工業ノ種類ニ依ツテ決定スベキモノタリ。去レド之ヲ概言センカ、勞力ヲ主トシ器械ヲ從トスル所ノ工業ニ在テハ勞働延長ノ制限ヲナスモ勞働工程ヲ減少スルコトナシ。蓋シ此種ノ工業ニ於テハ勞働者ノ身心ノ状態ハ著シク勞働工程ニ影響ヲ與フルヲ常トス、單ニ時間ノ長短ニ依ツテ生産ノ多少ヲ定ム可ラザレバナリ、例ヘバ生絲工業ノ如シ、若シ夫レ器械ヲ主トシ勞力ヲ從トスル所ノ工業ニ在ツテハ稍々其趣ヲ異ニシ、勞働工程ハ勞働延長ニ對シ比例的ニ増減スルノ傾アリ、然リト雖モ器械ノ精巧ニ進ムニ從ヒ、之ヲ使用スルニ精密ノ注意ヲ要スルニ至ルハ自然ノ數ナリ、是レ過長ノ勞働時間ヲ以テシテハ到底望ム可ラザルノ事



タリ。去レバ此種ノ工業ニ於テモ亦勞働延長ノ制限ハ強チ勞働工程ヲ減少スルモノト云フコトヲ得ズ。且夫レ勞働工程ナルモノハ當ニ製品ノ數量ニ於テ現ハル、ノミナラズ、製品ノ品質ニ依ツテ亦之ヲ判斷セザル可ラズ。勞働延長ノ制限ノ結果トシテ勞働工程ノ減少スル場合ハ只製品ノ數量ニノミ就テ之ヲ云ヒタルノミ、製品ノ品質ニ至ツテハ却ツテ改良進歩ヲ生ズル場合多シ、是レ他ナシ。勞働延長ノ制限ノ爲メニ勞働者ハ精密ニ且ツ敏活ニ業ヲ執ルコトヲ得ルニ依ル。夫ノ過長ノ勞働時間、若クハ徹夜業ガ製品ノ品質ヲ損スルノ害アルコトハ苟クモ工場ノ經驗アル者ノ否ム能ハザルノ事實ナリ。此事ニ就キ會ツテ英國「ボルトン」ノ紡績工場主某ノ發表セル意見ニ曰ク、十二時間ノ勞働時間ニ就キ最後ノ一時間ニ於テハ勞働者ノ氣力ハ著シク消耗スルヲ常トス、幼者ハ殊ニ其ノ然ルヲ見ル。去レバ此時間ノ製品ハ當ニ其數量減少スルノミナラズ、其品質モ亦甚ダ疎悪ナリ。又此時間ニ生ズル所ノ屑物ハ他ノ二時間ニ於ケルヨリモ多

シト。我國ニ於テ該業ニ多年ノ經驗アル某氏ノ談ニ依レバ、織布ヲ一見シ或ハ之ニ手ヲ觸ル、トキハ、其織布ガ早キ時間ニ製出セラレタルカ、將タ晚キ時間ニ製出セラレタルヤヲ識別スルコトヲ得ベシト云フ。是等營業者ノ經驗ハ亦以テ有力ナル證言タルヲ得ン。

以上述ブル所ニ依リ勞働延長ノ制限ハ相當ノ程度ニ於テ之ヲナス限リハ決シテ生産費増加ノ結果ヲ生ズルモノニ非ザルコトヲ知ルベシ。從ツテ國民經濟ノ發達ハ之ガ爲メニ毫モ阻害セラレザルヤ固ヨリ疑ヲ容レズ。

又職工年齢ノ制限ガ國民經濟ニ與フル影響ヲ按ズルニ、是レ亦未ダ憂フルニ足ラザルナリ。幼者ノ勞働ヲ禁止スルトキハ從來低廉ナル賃銀ヲ以テ傭使セル幼者ニ代フルニ成年職工ヲ以テシ高キ賃銀ヲ支拂フノ必要ヲ生ズルガ故ニ從テ生産費増加ノ結果ヲ生ズルヲ免レザルガ如キモ、工場經營ノ方法ニ依テハ此弊害ヲ避クルコト敢テ難シトセズ。抑モ賃銀ノ



騰貴ガ生産費増加ノ原因トナルハ賃銀ノ騰貴ト労働功程ノ増加ト相伴  
 ハザル場合ニ限レリ。若シ二者相伴ハンカ、之ガ爲メニ毫モ生産費ノ増加  
 スベキ理由ナシトス。今幼者ニ代フルニ成年職工ヲ以テセンカ、労働功程  
 ハ著シク増加スベキヲ以テ生産費増加ノ憂ハ決シテ之ナカルベシ。顧フ  
 ニ幼者ノ労働ハ工場主ニ對シテモ不利益ナルモノタリ之ヲ僱使スルハ  
 已ムヲ得ザルノ事情ニ基ケルコトハ多數工場主ノ唱道スル所ナリ。之ヲ  
 歐洲ノ事例ニ徴センニ一九〇一年丁抹ニ於テ工場法ノ改正ヲナシ労働  
 者ノ最低年齢ヲ十歳ヨリ十四歳ニ上サントスルヤ、工場主ノ之ニ反對ス  
 ル者極メテ少ナク或工場主ノ如キハ寧ロ之ニ賛成ノ意ヲ表シテ曰ク、幼  
 者ノ僱使ハ余輩ノ好マザル所ナリ只労働者ノ子女ニシテ工場労働ヲナ  
 スコトヲ望ム者ニ對シテ余輩ハ之ヲ辭スルコト能ハズ已ムナク之ヲ僱  
 入ル、ニ至ル。去レバ余輩ノ幼者ヲ僱使スルハ寧ロ慈善事業ノ一種タル  
 ノミ、工場經濟上毫モ利益アルコトナシ、政府ヲシテ斷然之ヲ禁止セシメ

ンカ、余輩ハ之ニ賛成スルヲ躊躇セズト、由是觀之、職工年齢ノ制限ハ決シ  
 テ生産費ノ増加ヲ來タスベキモノニ非ラズ國民經濟上毫モ憂フベキモ  
 ノナシ。

工場法ハ國民經濟ノ發進ヲ阻害スルコトナク却ツテ之ガ進歩ノ要件タ  
 ルコトハ右述ブル所ノ如シ、今歐洲ニ於テ工場法制定ノ先驅ヲナシ今ニ  
 至ルマデ各國ノ模範タル英吉利ノ實例ニ就テ茲ニ之ヲ證明セン。  
 該國工場法ハ單行法主義ヲ採リ、十九世紀ノ初期ニ當リ先ヅ紡績工場ニ  
 就キ之ヲ適用シ、五十年代ニ及ンデ之ヲ各種ノ工場ニ及ボセリ。去レバ此  
 世紀ニ於ケル該國紡績工業ノ進歩ノ狀況ヲ觀察スルトキハ工場法ト國  
 民經濟ノ關係ヲ明ニスルコトヲ得ン。  
 「パンローヴェルベルヒ」氏ノ工場監督論ニ依レバ左ノ事實アリ。

紡績業(平均一ヶ年産額)

綿織物業 (同上)

一八一九年—二二年

一〇六、五〇〇、〇〇〇封度

八〇、六〇二、〇〇〇封度



一八二九年—二二年	二一六、五〇〇、〇〇〇	一四三、二〇〇、〇〇〇
一八四四年—四六年	五二三、三〇〇、〇〇〇	三四八、一〇〇、〇〇〇
一八五九年—六一年	九一〇、〇〇〇、〇〇〇	六五〇、八七〇、〇〇〇
一八八〇年—八二年	一、三二四、九〇〇、〇〇〇	九九三、五四〇、〇〇〇

英國工場監督總監「ベーカー」氏ハ一八五九年「ブラッドフォード」ニテ開カレタル社會學協會ニ於テ演說シテ曰ク。工場法ノ爲メニ紡績工業ノ衰頽シタルコトヲ證明スベキ事實ナシ、紡績工場ノ生産價額ヲ見ルニ、一八四四年ニハ三七、七六七、八九〇磅ナリシガ、一八五八年ニハ五一、九九八、九二七磅トナレリ。而シテ此年間ニ於テ夫ノ著名ナル十時間労働ニ關スル法律ノ制定セラレタルニ拘ラズ工業ハ是ノ如キ進歩ヲナセリト。

一八七六年英國ニ於ケル工場法調査委員會ノ報告モ亦此事實ヲ證明スルノ力アリ。今其要旨ヲ摘録センニ、曰ク、工場法制定以前ノ調査ニ由リテ、當時各種ノ工業ニ備使セラレタル兒童婦女ノ状態ヲ追想シ、之ヲ工場法

制定以後ノ今日ニ於ル労働者ノ状態ト比較スルトキハ實ニ甚シキ相違アルヲ見ル。固ヨリ特種ノ工業ニ於テハ工場法ノ實施ニ拘ラズ尙ホ改良ヲ要スベキ事實ナキニ非ラズト雖モ、是レ只例外ノ事實タルニ過ギズ。且ツ工場法ハ工業ノ發達ヲ阻害スルヲ免レズトノ假定ハ已ニ其根據ヲ失ヒ資本家ニシテ工場法ノ効力ヲ否定シ之ガ廢止ヲ主張スル者ハ最早之ナキニ至レリト。



### 第十四章 工場法ノ内容

余ハ本章ニ於テ各國現行ノ工場法ニ就キ其規定ノ大要及ビ立法ノ理由ヲ説明セント欲ス。

#### 第一 職工ノ最低年齢

各國工場法ニ於テ職工ノ最低年齢ヲ定メ此年齢以下ノ者ニ對シテハ工場勞働ヲ禁止スルヲ常トス。是レ國民教育及ビ國民衛生ノ必要ニ基クモノニ外ナラズ。今若シ此規定ナシトセンカ、學齡兒童ニシテ父兄ノ爲メニ強ヒラレ、工場ニ入ル者多カルベク、國民教育ハ遂ニ其效果ヲ收ムルニ由ナカルベシ。夫ノ強迫教育制ヲ採用セル國ニ在ツテ學齡ノ最終期ヲ以テ此最低年齢トナセルガ如キハ國民教育普及ノ目的ヲ達スルガ爲メ當然ノ措置ナリト云フベシ。又幼者ハ衛生上最モ注意ヲ要スルモノタルニ拘ラズ、其發育未ダ充分ナラザルトキニ於テ工場生活ヲ爲サシメンカ、其勞

職工ノ最低年齢

働條件ハ奈何ニ寛大ナルモ、到底健全ナル發達ヲナスコト能ハザルベシ。今若シ是ノ如キ國民教育ノ素養ヲ欠キ而シテ身體ノ軟弱ナル兒童ニシテ其數ヲ加フルニ至ラバ、將來ニ於ル勞力ノ供給ヲ減少シ其品質ヲ傷ケ國民ノ生産力ヲ減ズルハ固ヨリ言ヲ俟タズ。延テ國家ノ存在ヲ危ウスルノ憂モ亦之アルヲ免レザルベシ。  
余ハ茲ニ歐洲各國工場法ニ就キ最低年齢ニ關スルモノヲ抄録セン。

英吉利	一一
佛蘭西	一二
獨逸	一三
意大利	九
丁抹	一二
瑞典	一二
那威	一二
露西亞	一二
西班牙	一〇

第十四章 工場法ノ内容



職工ノ分類

匈牙利	一
奧地利	一四
奧地利	一四
瑞西	一四
白耳義	一二
和蘭	一三
日本	一二

第二 職工ノ分類

最低年齢以上ノ職工ガ労働ヲ爲スニ當リ、工場法ヲシテ完全ニ且ツ有效ニ労働者保護ノ目的ヲ達セシメント欲セバ、必ラズヤ其長幼男女ノ區別ニ從ツテ自ラ保護ノ程度ヲ異ニセザルベカラズ。蓋シ労働者ニ對スル保護ノ程度ヲ定ムルニハ、先ヅ彼等ガ有セル自衛力ノ強弱、即チ自由意志ヲ遂行スル能力ノ強弱ヲ明カニスルコトヲ要ス。而シテ是等ノ事情ハ長幼男女ノ區別ニ依ツテ大ニ其趣ヲ異ニセルヲ見ル。現今各國ノ工場法カ此ノ區別ニ基キテ職工ノ分類ヲナセルハ、當然ノ處置ナリト云フベシ。

歐洲各國ノ工場法ニ於ケル職工ノ分類方法ニハ二種ノ區別アリ。一ハ幼年工、少年工、成年女工、成年男工ノ四種ニ分テルモノニシテ、一ハ幼少年工、成年女工、成年男工ノ三種ニ分テルモノナリ。多クノ場合ニ於テ、幼少年者ニ就キテハ男女ノ區別ヲ爲サズ、之ニ施スニ同一ノ保護ヲ以テシ、而シテ一定ノ年齢以上ノ者ニ就キ、始メテ男女ヲ區別シテ保護ノ程度ヲ異ニスルヲ常トス。

第一種ノ分類方法ヲ採用セル各國ノ實例左ノ如シ。

英吉利	至自 十一 歲	至自 十四 歲	至自 十八 歲以上	至自 十八 歲以上
佛蘭西	至自 十三 歲	至自 十三 歲	至自 十八 歲以上	至自 十八 歲以上
獨逸	至自 十三 歲	至自 十四 歲	至自 十六 歲以上	至自 十六 歲以上
以太利	至自 九 歲	至自 十二 歲	至自 十五 歲以上	至自 十五 歲以上
丁抹	至自 十二 歲	至自 十四 歲	至自 十八 歲以上	至自 十八 歲以上

第十四章 工場法ノ内容



又第二種ノ分類方法ヲ採用セル各國ノ實例左ノ如シ。

國名	幼少女工		成年女工		成年男工	
	自	至	自	至	自	至
瑞典	十四	十八	十四	十八	十四	十八
那威	十四	十八	十四	十八	十四	十八
露西亞	十二	十五	十二	十五	十二	十五
西班牙	十三	十五	十三	十五	十三	十五
匈牙利	十二	十四	十二	十四	十二	十四
瑞西	十四	十八	十四	十八	十四	十八
和蘭	十二	十七	十二	十七	十二	十七
白耳義	十一	二十一	十一	二十一	十一	二十一
奧太利	十二	十四	十二	十四	十二	十四

勞働ノ禁止

第三 勞働ノ禁止

日本 自十五歲以上 十五歲以上

各國工場法ニ於テ職工ノ最低年齡以上ノ者ト雖モ職工保護ノ爲メニ必要ナル場合ニ於テ勞働ヲ禁止セリ。此勞働禁止ノ場合ヲ大別スレバ左ノ如シ。

(1) 職工ノ事情ニ基ケル場合 強制教育ヲ採用セル國ニ在テハ、最低年齡以上ト雖モ未タ義務教育ヲ完了セサル幼年工ニ對シテ工場ノ勞働ヲ禁止セリ。英佛獨ノ工場法ニ於テ幼年工ニシテ修學證明書ヲ有セザル者ハ之ヲ工場ニ傭使ス可ラズトノ規定アリ、是レ義務教育ノ強行ノ爲メニ必要ナルコトタリ。或ハ幼少者ニ對シ、醫師ヲシテ其體格ヲ検査セシメ、工場勞働ニ從事スルモ差支ナキ者ニ與フルニ健康證明書ヲ以テシ、之ヲ有セル者ニ非ザレバ工場ニ傭使スルヲ得ザルノ規定ヲ設ケタル國アリ。佛國ハ之ヲ幼年工ニノミ適用シ、英國ハ幼年工、及ビ十六歲以下ノ少年工ニ



及ボセリ。此規定ヤ國民衛生上、効果少シトセザルベシ。  
 又婦女ノ衛生保護ノ方法トシテ分娩後一定ノ時期ヲ限ツテ工場労働ヲ  
 禁止スルノ規定ハ普ク各國ノ間ニ行ハレタリ。此時期ハ少ナキハ二週間  
 ニシテ、多キハ六週間ニ及ベリ。瑞典ノ如キハ此時期最モ長キノミナラズ  
 尙ホ分娩前二週間ノ禁止ヲ行ヘリ。顧フニ此規定タル、國民衛生上必要ノ  
 事タルハ固ヨリ言フ俟タズ。一八七六年英國ニ於ケル工場法調査委員會  
 報告ニ曰ク、工業都市ニ於テ死亡率ノ多キコトハ種々ノ原因アランモ、女  
 工ガ分娩後直ニ工場ニ赴キ、其労働ヲ繼續スルコト、亦之ガ一原因タルヲ  
 失ハズト、蓋シ之ガ爲メニ女工ハ自己ノ健康ヲ害スルノミナラズ、幼兒ノ  
 保育ニ關シ充分ノ注意ヲナスコト能ハザレバナリ。去レバ法律ニ依ツテ  
 此場合ニ於ケル労働ヲ禁止スルハ至當ノ事タリ、然レドモ此監督ハ分娩  
 後ニ於テノミ行フベキコトニシテ分娩前ノ保護ハ困難ノ事タルベシ。  
 (2) 業務ノ種類ニ基ケル場合 業務ノ性質ガ著シク危険ノ虞アルカ、若

労働時間ノ  
制限

シクハ衛生ニ害アルカ、然ラザレバ風紀維持ノ爲メニ必要ナル場合ニ勞  
 働禁止ヲ行フナリ。此種ノ規定ハ各國法律ニ於テ之ヲ存セザルハナク、其  
 間只寬嚴精疎ノ別アルノミ、是等業務ノ種類ヲ定ムルハ技術上ノ問題ニ  
 屬セルヲ以テ、余ハ茲ニ之ニ關スル各國ノ事例ヲ列舉セザルベシ。

第四 労働時間ノ制限

凡ソ過長ノ労働時間ハ業務ノ如何ニ拘ラズ衛生上有害ナルコトハ固ヨ  
 リ言フ俟タズ。工場ノ労働ニ在ツテハ此事實ヤ更ニ顯著ナリトス。若シ夫  
 レ成年男工ニ在ツテハ自由ノ意志ニ依リ自衛ノ途ヲ圖ルコトヲ得ンモ  
 幼少者及ビ婦女ニ至ツテハ其意志薄弱ニシテ此抵抗力ヲ缺ケリ從ツテ  
 過長労働ノ弊ニ陥ル亦怪ムニ足ラズ。抑モ此種ノ職工ハ、衛生上特ニ保護  
 ヲ要スルモノタリ。之ニ加フルニ幼少者ハ其教育ヲ完了セザル可ラズ、婦  
 女ハ家庭ヲ整理スルノ責任ヲ帶ベリ。然ルニ之ニ課スルニ、過長ノ労働ヲ  
 以テスルハ將來ノ國民ヲ養成スルニ就イテ、其害ヤ大ナリト云ハザル可



ラズ、各國工場法ニ於テ勞働時間ノ制限ガ其規定ノ中心タル所以ノモノ  
豈偶然ナランヤ。

勞働時間ノ制限ニ就キテ各國ノ工場法ハ職工ノ種類ニ依ツテ大ニ其趣  
ヲ異ニセリ。之ヲ概言センカ、幼年工ニ對シテ之ヲ制限スルハ各國其揆ヲ  
一ニセリ。少年工ニ對シテハ以太利ヲ除クノ外、悉ク相當ノ制限ヲ附セリ。  
成年女工ニ對シテハ制限ヲ附セル國ト之ヲ附セザル國ト殆ンド相半バ  
スモノ、如シ。成年男工ニ對シテハ無制限ナルモノ多數ニシテ、只瑞西、奧  
太利、露西亞、佛蘭西ニ於テ之ヲ見ルノミ。余ハ茲ニ各種ノ職工ニ就キテ各  
國ノ法律ニ於ケル勞働時間制限ノ要旨ヲ述ベン。

幼年工ニ對スル勞働時間ノ制限ハ大概六時間ヲ通例トセリ。佛蘭西、露西  
亞等ニ於テ制限時間ノ此以上ニアルハ畢竟ズルニ他種ノ職工ト共ニ勞  
働ヲナスノ場合ニ於ケル工場經營ノ便宜ヲ圖リタルニ外ナラズ。英吉利  
ニテハ幼年工ノ勞働時間ニ關シテ一種ノ特例ヲ設ケタリ。即チ他國ノ如

クニ畫一ナル制限ヲナサズシテ、午前若クハ午後ニ於テ六時間ヲ限ツテ  
勞働ヲ許ス所ノ方法、所謂半日制及ビ隔日ニ十二時間ノ勞働ヲ許ス所ノ  
方法、所謂隔日制ノ二種ノ方法ヲ設ケ、工場主ヲシテ任意其一ヲ擇バシム  
ルコト、セリ。是レ實ニ工場主ノ爲メニ少ナカラザル便益ヲ與フルモノ  
ニシテ而カモ之ガ爲メニ決シテ幼者保護ノ目的ヲ害セザルナリ。

少年工ニ對スル制限ハ各國トモ十時間乃至十二時間ヲ以テ通例トセリ。  
成年女工ニ對スル制限ハ之ヲ實行セル國ノ法律ニ於テ少年工ニ對スル  
モノト稍々其趣ヲ一ニセリ。抑モ成年女工ニ對シ勞働時間ノ制限ヲナス  
ノ必要ハ固ヨリ疑フ可ラザルモノナルニ拘ラズ、尙ホ之ヲ放任セル國少  
ナカラザルハ遺憾ナリト云フベシ。

成年男工ニ對スル制限ハ其利害未ダ明ナラズ、工場法ノ祖國タル英吉利  
ニ於テハ一九〇八年ノ法律ニ依リ鑛山勞働者ニ對シ八時間半ノ制限ヲ  
加ヘタル外ハ之ヲ無制限トセリ。佛蘭西ニ於テハ幼少者婦女ト共ニ勞働



スル場合ニ限り同一ノ制限ヲ受クルモノトセリ。獨逸ニテハ全ク無制限ナリ。顧フニ成年男工ハ幼少者婦女ト異ナリ、其自由意志ニ依ツテ工場主ニ對シ、適當ナル勞働時間ノ契約ヲナシ得ルガ故ニ、強テ法律ニ依ツテ干涉ヲナスノ必要ナキモノ、如シ。然レドモ、是レ國情民風ヲ參酌シテ決定スベキ問題ニシテ一概ニ之ヲ論ズベキニ非ラズ。

勞働時間制限ノ方法ニ關シ各國工場法ニ於テ職工ノ種類ニ依ツテ制限ノ程度ヲ同フセルモノト然ラザルモノトノ區別アリ。佛蘭西、奧太利、瑞士ハ前者ノ方法ヲ執リ職工ノ種類ニ拘ラズ制限ノ時間ハ同一ナルモ其他諸國ニ於テハ後者ノ方法ヲ執リ職工ノ種類ニ依ツテ制限ノ時間ヲ異ニセリ。例ヘバ幼年工ニ對シテハ六時間トシ、少年工、成年女工ニ對シテハ十時間トシ、成年男工ニ對シテハ十二時間トナスガ如シ。後者ノ方法ハ工場主ノ不便トスル所ナリ。蓋シ工場ノ勞働ハ必ズシモ職工ノ種類ニ依テ分離スベキモノニ非ラズ、同一ノ執業場ニ於テ共同ニ勞働ヲナセル場合ニ

一部ノ職工已ニ退場セル爲メ、他種ノ職工ハ其勞働ヲ繼續スル能ハサルコトナシトセズ。工場主ニシテ之ニ備ヘント欲セバ豫メ補充ノ職工ヲ置カザル可ラズ、而シテ二三時間ノ補充勞働ノ爲メニ殊ニ職工ヲ備入ル、ハ工場經營上策ノ得タルモノニ非ラザルコト固ヨリ言フ俟タズ。且又此方法ハ工場監督官ノ職務執行ニ關シ輕々ニ看過スベカラザル不利益ヲ醸スモノタリ。時間ノ制限ガ職工ノ種類ニ依テ區々ニ分レタル場合ニ於テハ監督官ガ工場ヲ臨檢シ時間制限ノ規定ガ果シテ實行セラレタルヤ否ヤヲ明ニスルコト容易ニ非ラズ、奈何トナレバ時間ノ制限ハ始業終業ノ時刻ニ依ツテ之ヲ監督スベキモノナルニ、此場合ニ於テハ職工ノ種類ニ依リ此時刻同一ナラザルヲ以テナリ。由之觀之佛、奧、瑞三國ニ於テ各種ノ職工ニ對シ同一ノ時間制限ヲナセルハ最モ進歩セル立法例トシテ賞賛ノ價值アルモノト云ハザルヲ得ズ。

休憩時間ノ規定ハ勞働時間ノ制限ト密接ノ關係ヲ有シ職工保護ノ爲メ



ニ必要ナルコトタリ、各國ノ法律ニ於テ勞働時間ノ制限アル場合ニハ、必ズ休憩時間ノ準則ヲ設クルヲ常トス。然リ而シテ休憩時間ノ規定ニハ之ヲ成規ノ勞働時間中ニ合算シタルモノト、之ヲ除外シタルモノトノ二種アリ。

余ハ茲ニ各國ニ於ケル勞働時間ノ制限ニ關スル實例ヲ掲ゲン。

國名	幼年工	少年工	成年女工	成年男工
英吉利	半日制(六時間) 休憩三十分合算 或ハ隔日制(十二時間) 休憩一時間合算	十二時間 休憩二時間(紡織工場以外) 合算	同上	無制限
佛蘭西	十時間 休憩一時間除外	同上	同上	無制限
獨逸	六時間 休憩三十分合算	十時間 休憩二時間合算	十一時間 休憩一時間合算	無制限
伊太利	六時間 休憩一時間除外	無制限	無制限	無制限

無制限  
但前三種ノ職工ト共ニ勞働スル場合ニハ總テ同一ノ制限ヲ受ク

無制限  
鐵山鐵夫ニ對シ八時間半ノ制限アリ

國名	幼年工	成年女工	成年男工
丁抹	六時間 休憩三十分合算	十二時間 休憩二時間合算	無制限
瑞典	六時間 休憩三十分合算	十時間 休憩二時間合算	無制限
那威	六時間 休憩三十分合算	十時間 休憩一時間合算	無制限
露西亞	八時間 休憩一時間除外 九時間 休憩一時間除外 (特種工業) 休憩一時間除外	十一時半 休憩一時間除外 十時間(同上) 休憩一時間除外	同上 同上
西班牙	五時間	八時間	無制限
匈牙利	八時間 休憩一時間合算	十時間 休憩一時間合算	無制限
奧太利	八時間(第一種工業) 休憩二時間除外 十一時間(第二種工業) 休憩二時間除外	同上 同上	同上 同上
瑞士	十一時間 休憩一時間合算	同上	同上







業ハ管ニ之ニ從事セル職工ニ害アルノミナラズ、更ラニ職工ノ兒童ノ養育ヲ妨害スルモノタリ。今若シ既婚ノ婦女ニシテ徹夜業ヲ營ムトセンカ、夜間嬰兒ノ保育ヲナス者ナカルベク從ツテ營養不十分トナリ到底健全ナル發達ヲナサシムル能ハザルヤ明カナリ。

佛國工場監督官ラガー氏ノ徹夜業ニ關スル報告ニ曰ク、徹夜業ヲナセル女工ハ流産ニ係ル者少ナシトセズ、又其小兒ハ二歳以下ニテ死亡スル者多シ、此事實ニ基キ某地方ノ職工ハ徹夜業ヲ稱シテ「小兒ヲ喰フ者」(Manger Renfant)ト云ヒタルヲ聞ケリト。

徹夜業ガ危害ノ原因タルコトハ何レノ國ニ於テモ苟クモ工場生活ノ經驗アル者ノ均シク認ムル所ノ事實タリ。顧フニ徹夜業ニ於テハ職工ハ氣力弱ク注意薄ク、加フルニ屢々睡魔ノ襲フ所トナリ、知ラズ識ラズ器械ニ觸レ危害ニ罹ルヲ免カレズ、抑モ徹夜業ガ危害ノ原因タルコトハ殊ニ婦女幼少者ニ於テ顯著ナルモノアリ。是レ他ナシ婦女幼少者ハ成年男工ニ

比シテ體軀孱弱ナルガ故ニ睡眠ニ犯サレ易ク危害ニ對シテ防衛ヲ行ヒ難キニ依ルナリ。

今若シ風教ノ點ヨリ徹夜業ヲ觀察センカ、其弊害ヤ言フニ忍ビザルモノアリ。半夜人靜カニシテ器械ノ音ノミ囂々タルトキ、工場ノ一隅電燈影暗キ處、低聲密話ノ漏ル、コトアルハ工場ニ經驗アル者ノ屢々目撃セル事實ニ非ラズヤ。又晝夜交代ノ執業方法ヲ採レル工場ニ在ツテハ、夫ハ晝間ノ勞働ヲ了リ薄暮家ニ歸レバ、妻ハ已ニ夜業ヲナス爲メニ工場ニ赴ケリ、妻ニシテ翌朝家ニ歸ランカ、夫ハ更ラニ工場ニ赴カザルヲ得ズ。是ノ如キ生活ニ於テ家庭ノ快樂ハ將タ何處ニカ之ヲ求メン、風紀ノ紊亂スル亦已ムヲ得ザルナリ。

由是觀之、衛生上ヨリ又風教上ヨリ觀察シテ徹夜業ノ害タル大ナリト云ハザル可ラズ。歐洲各國ノ工場法ニ於テ之ヲ禁止セルモノ多キハ亦宜ナリト云フベシ。



徹夜業禁止ノ目的ヲ達スル爲メニ、各國ノ法律ニ於テ、夜間一定ノ時間ヲ區畫シ此時間内ノ執業ヲ禁止スルコト、セリ、例ヘバ午後八時乃至翌朝四時ヲ以テ徹夜業ノ時間ト定メ其間ニ於ケル勞働ヲ禁止スルガ如シ。徹夜業ノ害タル職工ノ種類ニ依ツテ其程度ヲ異ニセリ。去レバ各種ノ職工ニ對シ悉ク之ヲ禁止スベキヤ、將タ特種ノ職工ニ限ツテ之ヲ禁止スベキハ自ラ議論ノ分ル、所ニシテ、各國ノ實例區々トシテ一ナラズ、幼年工ニ對シテハ各國均シク之ヲ禁止シ、少年工ニ對シテハ極メテ少數ノ例外アルモ概シテ之ヲ禁止セリ。成年女工ニ對シテハ禁止ト無制限ト相半バシ、成年男工ニ對シテ之ヲ禁止セルハ只瑞士ノ一國アルノミ、一九〇〇年佛國政府ハ成年男工ノ徹夜業禁止ノ利害ニ就キ調査ヲナシタルガ、商工大臣ハ工場監督官ニ命ジテ之ニ關スル意見ヲ具伸セシメタリ。其諮問案ハ左ノ如シ。

(1) 徹夜業禁止ノ利害、殊ニ之ヲ成年男工ニ及ボスノ可否。

(2) 成年男工ニ對シテ徹夜業ノ禁止ヲ可トスレバ、之ニ關シテ奈何ナル例外ノ規定ヲ設クベキヤ、又徹夜業禁止ハ國際條約ヲ以テ定ムルノ必要アリヤ、若シ之アリトスレバ其範圍奈何。

此諮問ニ對シテ各監督官ノ意見トシテ發表セラレタルモノヲ見ルニ、成年男工ニ對シテモ徹夜業廢止ノ必要ヲ主張セル者多數ヲ占ムルガ如シ。佛國工場法ニ於テ此規定ヲ見ル或ハ遠キニ非ザルベキカ。余ハ茲ニ歐洲各國工場法ニ就キ徹夜業ニ關スル規定ヲ抄録セン。

	幼年工	少年工	成年女工	成年男工
英吉利	禁	同上	同上	無制限
佛蘭西	禁	同上	同上	無制限
獨逸	禁	同上	同上	無制限
伊太利	禁	同上 <small>(但シ六時間以内ヲ許ス)</small>	無制限	同上
丁抹	禁	同上	無制限	同上
瑞典	禁	同上	同上	無制限



那威	禁	止	同	上	同	上	無制限
露西亞	禁	止	無制限	特種工業	同	上	無制限
西班牙	禁	止	同	上	無制限	同	上
匈牙利	禁	止	同	上	無制限	同	上
埃太利	禁	止	幼年工	成年女工	禁	止	無制限
白耳義	禁	止	無制限	無制限	同	上	無制限
和蘭	禁	止	同	上	同	上	無制限
瑞西	禁	止	同	上	同	上	無制限
日本	禁	止	同	上	同	上	無制限

徹夜業ノ禁止ニ關シテ多少ノ特例ヲ存スルハ工業ノ經營上必要ナルコトニシテ、各國ノ法律ニ於テモ相當ノ規定ヲ存セルヲ見ル。抑モ此特例ニ就テハ臨時ノ性質ヲ有セルモノト、永久ノ性質ヲ有セルモノトノ區別アリ。臨時ノ性質ヲ有セルモノハ勞働ノ性質上一定ノ時季非常ニ繁劇ナルカ、或ハ特定ノ期間内ニ製造ヲ完了スルノ必要アル場合、及ビ天災地變其

他偶然ノ事變ノ場合等ニ於テ、特ニ徹夜業ヲナスコトヲ許スノ規定ヲ指セリ。是等ノ場合ニ於ケル特例ハ勞働時間ニ關スルモノト稍々其趣ヲ一ニセルヲ以テ余ハ茲ニ之ニ論及セズ。然レドモ夫ノ永久ノ性質ヲ有セル所ノ特例ニ至ツテハ徹夜業禁止ノ規定ニ於ケル特色トモ云フベク之ヲ詳述スルノ必要アリ、乞フ次ニ之ヲ述ベン。

永久ノ性質ヲ有スル徹夜業禁止ノ特例ハ之ヲ分ツテ二種トナス。第一種ノ特例ハ、交代執業ノ方法ヲ執ル所ノ工場ニ適用セラル、モノニシテ法律ニ指定セル徹夜業ノ時間ヲ短縮スルニアリ。此特例ハ一晝夜二十四時間ヨリ此時間ヲ控除セル殘餘ノ時間ニ於テ執業時間ノ配置ヲ自由ナラシムルノ必要ニ基ケルモノトス。今若シ徹夜業ノ時間ハ午後八時乃至翌日午前四時ナリトセンニ、殘餘ノ時間ハ十六時間トナルナリ。此十六時間ヲ通ジテ繼續シテ勞働ヲナサシムルハ勞働時間制限ノ規定ニ背キ法律ノ許サバル所タリ、又假令ヒ然ラザルモ事實上不可能ノ事タルヲ



以テ、二組交代ノ執業方法ニ依リ各組八時間宛ノ勞働ヲナサシメンカ、勞働時間ノ短キニ失スルノ憂フリ。此場合ニ於テ徹夜業ノ時間ヲ短縮シテ午後十時乃至翌日午前四時トセバ、殘餘ノ時間ハ十八時間トナリ、各組ノ勞働時間ヲ九時間トナスコトヲ得ベシ。是ノ如クンバ、工場主モ其利益ヲ阻害セラル、コトナク、而シテ徹夜業ノ弊害ヲ除去スルコトヲ得ベシ。此種ノ特例ハ各國ノ法律ニ於テ其實例ヲ見ルナリ。

第二種ノ特例ハ工業ノ種類ニ依リ絶對的ニ徹夜業ヲ許可セル場合ヲ指セリ。此特例ハ工業ノ性質上徹夜業ヲ許可スルニ非ザレバ之ヲ經營スル能ハザルモノニ適用セリ。各國ノ法令ヲ按ズルニ、此種工業ノ主要ナルモノヲ所謂繼續セル火力ヲ用ユル所ノ工業トナス。繼續セル火力ナル用語ハ意義明確ヲ缺クト雖モ、要スルニ工場ノ管理上器械ノ運轉ヲ間斷ナク繼續セシメザル可ラザル所ノ工業ナリ。例バ鑛鑛場、硝子製造業、製紙業、製糖業等ナリトス。又繼續セル火力ヲ用キズト雖モ業務ノ性質上徹夜業ヲ

## 定期休業日

ナスノ必要アル工場アリ、例ハ印刷工場新聞社等ノ如シ。是等ノ特例ヲ許可スルニ就キ種々ノ條件ヲ附スルヲ以テ各國ノ通則トセリ。

## 第六 定期休業日

歐洲各國ノ工場法ニ於テ定期休業日ハ大祭日ハ勿論、日曜日ヲ以テスルヲ常トス、只以太利、西班牙ニ於テ日曜休業ヲ強制セザルノミ。或ハ若干ノ國ニ於テ殊ニ日曜休業ノ規定ヲ設ケズ、之ニ代フルニ毎週一日ノ休業日ヲ以テセリ。例ハ佛蘭西、白耳義ノ如シ。是レ工場管理ノ便宜ヲ圖リタルモノニシテ之ヲ以テ日曜休業ノ一變例ト見做スコトヲ得ベシ。去レバ、日曜休業ノ制ハ歐洲ノ工場法ニ於テ殆んど一般ノ事實ナリトス。顧フニ日曜休業ノ制タル其起原ヲ求メンカ、之ヲ基督教ニ歸セザル可ラズト雖モ、近時之ヲ以テ工場法ノ規定トナシタル所以ハ全ク社會政策ノ必要ニ基ケルモノニ外ナラズ。蓋シ毎日工場ニ在ツテ營々驅使セラル、所ノ職工ニ對シテ一週一日ノ休業日ヲ與フルハ衛生上實ニ急要ナルコ



トタルハ固ヨリ言ヲ俟タズ。  
 余曾ツテ獨逸工場監督官ノ報告ヲ讀ムニ、業務災厄ト日曜休業トノ關係  
 即チ各曜日中何レノ日ニ於テ災害最モ多キヤヲ調査シタル統計アリ。茲  
 ニ之ヲ抄録セン。

監督區名	日曜	月曜	火曜	水曜	木曜	金曜	土曜
シュローベン	一九	一三七	一六九	一六六	一六八	一九六	一七一
パウチエン	六	五四	六四	五〇	三六	五七	五二
チッタウ	七	三四	三六	四四	五八	五一	六九
デーベルン	九	四九	五三	五三	五九	六八	六二
ケムニッツ	三	五九	五五	六八	五一	七五	八〇
アナベルグ	五	二四	三四	二六	三〇	三二	二七

(一八九五年工場監督官報告)

此表ニ依ルトキハ、業務災厄ハ金曜日、土曜日ニ於テ最モ多キナリ。蓋シ災  
 厄ノ原因タル種々アリト雖モ、職工ノ不注意ニ基ク場合少ナシトセズ、而  
 シテ職工ノ不注意ハ多クハ其身心ノ疲勞ニ依ル、身心ノ疲勞ハ連日勞働

ヲ繼續セルコト之ガ一原因タルヲ失ハズ、此事實ニ徴スルモ亦定期休業  
 ガ衛生上奈何ニ必要ナルカヲ知ルベシ。

定期休業日ハ又風教上忽諸ニ付スベカラザルモノタリ。基督教國ニ於ケ  
 ル日曜休業ガ國民道德ニ與フル影響ハ論ゼズシテ可ナリ。假令ヒ基督教  
 國ニアラザルモ、定期休業日ハ家庭ノ團樂ヲ保ツガ爲メニ必要ナリ。抑モ  
 工場生活ナルモノハ家庭ノ關係ヲ紊亂スルコト甚シキモノナリ。今若シ  
 定期休業日ナシトセンカ、彼等ハ毎週何レノ日ニ於テカ和氣霽然タル家  
 庭ノ快樂ヲ貪ルコトヲ得ン。苟クモ心ヲ風教維持ノ上ニ寄スル者ハ此點  
 ニ就キテ更ニ定期休業ノ必要ヲ認メザルヲ得ズ。

歐洲各國ノ工場法ヲ按ズルニ、定期休業日ハ幼年工、少年工ニ對シテ之ヲ  
 強制スルハ各國其揆ヲ一ニセリ。成年女工ニ對シテハ往々之ヲ放任セル  
 國アリ。成年男工ニ對シテモ多數ハ之ヲ制限セリ。英吉利ノ如キハ法律ヲ  
 以テ之ヲ強制セザルモ、國民ノ慣習ニ基キ日曜休業ハ普ネク行ハレタリ。



此事タル英吉利ニ於テノミ見ルベキニ非ラズ、概シテ云ヘバ獨逸民族ニ屬セル國民ハ拉丁民族ニ屬セル國民ニ比スレバ日曜休業ヲ格守スルノ風アリ。近時歐洲各國ノ社會改良家ハ日曜休業ヲ強行スルノ目的ヲ以テ種々ノ團體ヲ組織シタルガ、是等各團體ハ一八九七年「ブルッセル」ニ於テ列國會議ヲ開キ、白耳義ノ工業及ビ勞働省大臣「ニイサン」氏之ガ會長トナリ種々ノ計畫ヲ立テ、其勢力ハ漸次瀰漫セルモノ、如シ去レバ日曜休業ノ制度ガ各國工場法ニ於テ各種ノ職工ヲ包括スルノ日ハ蓋シ遠キニ非ザルベシ。

余ハ茲ニ各種ノ職工ト日曜休業ノ關係ニ就キ各國ニ於ケル實例ヲ掲ゲ

英吉利	幼年工	少年工	成年女工	成年男工
佛蘭西	日曜日	同上	同上	無制限
獨逸	日曜日	同上	同上	同上

以太利	無制限	同上	同上	同上
丁抹	日曜日	無制限	同上	同上
瑞典	日曜日	同上	無制限	同上
那威	日曜日	同上	同上	同上
露西亞	日曜日	同上	同上	同上
西班牙	無制限	同上	同上	同上
匈牙利	日曜日	同上	同上	同上
奧太利	日曜日	幼年女工	成年女工	成年男工
白耳義	每週一日	無制限	同上	同上
和蘭	日曜日	同上	無制限	同上
瑞西	日曜日	同上	同上	無制限
印度	日曜日	同上	同上	同上
日本	毎月二日	同上	同上	無制限

定期休業日ノ規定モ亦各國ノ法律ニ於テ多少ノ特例ヲ認メタリ。此特例ニハ臨時ノ性質ヲ有セルモノト、永久ノ性質ヲ有セルモノトノ區別アリ



臨時ノ特例ハ勞働時間及ビ徹夜業ニ關スルモノト大差ナシ。永久ノ特例ニ就テハ繼續セル火力ヲ用ユル所ノ工業及ビ消費者ノ必要ノ爲メニ日々間斷ナク生産ヲナスノ必要アル工業例ヘバ食物製造業ノ如キモノニ對シ之ヲ許可セルナリ。

賃銀ノ支拂方法

第七 賃銀ノ支拂方法

職工ノ賃銀ハ其生産力ノ多寡及ビ勞働ノ需要供給ノ關係等經濟自然ノ理法ニ依ツテ定マルモノタリ。法律ヲ以テ之ニ干涉スルハ實ニ至難ノ業ニ屬セリ。近時法律ニ依ツテ賃銀ノ最低限度ヲ定ムルノ制度起レルモ濠洲ノ若干ノ州及ビ英吉利ノ外ハ此事例ナキナリ。然レドモ賃銀ノ支拂方法ニ關シテハ各國工場法ニ於テ之ガ規定ヲ存セザルモノハ殆ンド之ナシ。殊ニ英吉利、白耳義、露西亞ノ諸國ニテハ之ヲ以テ特別法トナシ詳密ナル規定ヲナセルヲ見ル。余ハ茲ニ是等諸國ノ法律ニ就キ、賃銀ノ支拂方法ニ關スル規定ヲ概括叙述セン。

賃銀ハ通貨ヲ以テ支拂ハザル可ラズ。其他ノ物品ヲ以テナシタル支拂ハ總テ無効トス。所謂實物賃銀支拂方法 (Tnick) ヲ禁止スルコトハ各國法律ノ通例タリ。顧フニ、實物ヲ以テ賃銀ヲ支拂フノ慣習ハ其ノ由ツテ來ルコト遠ク、今ニ至ツテハ一般ノ事實ニ非ザルモ、工業ノ種類ニ依ツテハ、尙ホ其痕跡ヲ存シ其弊害ヤ顯著ナルモノアリ。工業主ハ普通ノ市價ニ依ツテ粗惡ナル物品ヲ供給スルカ、或ハ妄リニ其價格ヲ昂上シテ之ヲ職工ニ強賣スル等ノ事情ノ爲メニ、物品ノ販賣ニ依ツテ多少ノ利益ヲ得、間接ニ賃銀ヲ低減スルコトアリ。此場合ニ於テ職工ハ其實狀ヲ詳ニスルニ由ナク知ラズ識ラズ工業主ノ欺瞞スル所トナルヲ免レズ。假令ヒ之ヲ明ニスルモ彼等ノ地位境遇ハ之ヲ匡正スル能ハザルハ亦已ムヲ得ザルコト、云フベシ。是ヲ以テ實物賃銀支拂方法ハ常ニ工業主ガ職工ヲ壓抑スルノ利器ニ供セラレ其弊ニ堪ヘザリシカバ、各國ニ於テ苟モ意ヲ社會改良ニ留ムル者ハ政府ノ權力ヲ以テ之ヲ禁止スルノ必要ヲ感ジ終ニ之ヲ工場法



ノ規定ニ包含セシムルニ至レリ。而シテ其先鞭ヲ着ケタルモノヲ英吉利トナス、一八三一年實物貸銀支拂法即チ是ナリ。是ヨリ以後、各國ノ法律ハ之ニ關シ必要ノ規定ヲ設ケ此弊風ヲ艾除スルニ汲々タリ。

實物貸銀支拂ノ禁止ニ關シテ各國トモ若干ノ特例ヲ認メタリ、即チ家屋土地ノ使用ノ如キハ慈善ナル工業主ハ由ツテ以テ職工ノ利益ヲ圖ルベキモノタリ。之ニ對スル報酬ヲ貸銀ニ合算セシムルヲ許スハ社會政策上洵ニ必要ノ事ナリトス。又是等ノ物品ハ他ノ衣食等ノ物品ト其性質ヲ異ニシ、其報酬價格ニ就キテ工業主ノ欺瞞ヲ逞フスル能ハザルモノタルヲ以テ之ヲ特例トナスモ弊害少ナカルベシ。白耳義ニハ一八八七年制定ニ係ル貸銀ノ支拂差押、讓與ニ關スル法律アリ。此法律ニハ其第二條ニ各二種ノ物件ヲ列記シ其代價及ビ使用料ハ貸銀ト差引計算ヲナスコトヲ許セリ。即チ住家、土地、勞働ニ必要ナル器具、器械、原料及ビ職工制服等ナリ。

各國ノ法律ハ貸銀支拂ノ場所ヲ制限シタルモノ多シ、即チ酒舖、飲食店、物

品販賣所等ニ於テ貸銀ノ支拂ヲナスヲ禁止セルコト是ナリ。是レ工業主ガ是等ノ營業者ト連絡ヲ通ジ、不當ノ利益ヲ貪ルノ弊ナカラシムルノ趣旨ニ基ケルモノニシテ、實物貸銀支拂ニ對スル監督ヲ周密ナラシムル爲メニハ必要缺ク可ラザルコトナリトス。

貸銀支拂ノ期日ニ關シテ法律ノ干涉ヲ要スル場合少ナシトセス、若シ之ヲ自由ニ放任センカ、工業主ハ自己ノ便利ヲ圖リ職工ニ不利ヲ醸スコトアルベシ。殊ニ小資本家ニシテ而モ市況ノ盛衰劇甚ナル工業ニ從事セル者ニ在ツテハ、貸銀支拂ノ長期ニ涉ルコトハ職工ノ爲ニ不測ノ損害ヲ來スコト屢々之アリトス。是ヲ以テ歐洲各國ノ工場法中之ニ關スル規定ヲ設ケタルモノアリ、露西亞、白耳義ノ如シ、先ニ掲ゲタル白耳義ノ法律第五條ニ曰ク、五、フラン以下ノ貸銀ハ毎月二回以上ニ支拂フベシ、各支拂期日ノ間斷ハ十六日ヲ過グルコトヲ得ズ、自宅ニテ勞働ヲナセル場合若シクハ賃業給ニ依リ勞働ヲナセル場合ニハ賃銀ノ支拂ハ其ノ全部タルト一



部タルトヲ問ハズ毎月一回以上ナルヲ要スト。又露西亞ノ一八八六年賃銀ニ關スル法律ニ於テ左ノ規定アリ曰ク、賃銀支拂期日ハ一ヶ月以上ノ定期雇傭契約ナルトキハ毎月一回以上トシ、又不定期雇傭契約ナルトキハ毎月二回以上ナルヲ要スト。

又前貸金、保證金等ニ就キ之ヲ賃銀ヨリ控除シ得ベキ場合ヲ制限セル國アリ。白耳義ノ法律ニ依レバ賃銀ヨリ控除シ得ベキ前貸金ハ賃銀額ノ五分ノ一ナルコトヲ要シ、露西亞ノ法律ニ依レバ前貸金ノ利子及ビ雇傭契約ノ保障タルベキ金額ハ賃銀中ヨリ控除ス可ラザルモノトセリ。

#### 執業規則ノ監督

第八 執業規則ノ監督  
職工ノ雇傭契約ニ於テ明文ヲ以テ約束セル條項ヲ定ムル場合ハ甚ダ少ナク、只勞働時間及ビ賃銀等主要ナル事項ニ就テノミ契約ニ明示シ其他ハ總テ工場主ガ任意ニ定ムル所ノ執業規則ヲ遵守スルヲ以テ一般ノ事例トナス。是故ニ執業規則ハ雇傭契約ノ實質ヲ具フルモノナリ、雇傭契約

#### 職工證

ニ關スル監督ヲナサント欲セバ須ラク執業規則ニ關スル監督ヲナスベシ。歐洲各國ノ工場法ニ於テ執業規則ニ對シ相當ノ監督ヲナセルハ此理由ニ基ケリ、或ハ之ガ内容タルベキ事項ヲ定メタルアリ、或ハ之ガ届出認可ノ手續ヲ定メタルアリ、或ハ之ヲ工場内ニ揭示シ、職工ヲシテ之ヲ知ラシムルノ義務ヲ工場主ニ負ハシメタルアリ。各國ノ法律其趣ヲ異ニセリ。獨逸工場法ニハ執業規則ハ各工場ニテ職工ノ代表者ヲ以テ組織セラレタル職工委員會ニ諮詢スルニ非レバ之ヲ改正スルヲ得ズトノ規定アリ。

#### 第九 職工證

歐洲各國ノ工場法ヲ按ズルニ、職工證ノ制ヲ設ケタルモノ多シ。是レ職工ノ身分ヲ證明シ、工場監督ヲ容易ナラシムルノ目的ニ出ヅルナリ、然レドモ其適用ノ範圍ハ幼少年工ニ限り、成年工ニ對シテ之ヲ適用セルモノハ未ダ之ヲ見ズ。之ニ關スル規定ハ國ニ依リ多少其趣ヲ異ニセルモ概略左ノ如シ。



幼少年工ガ工場ノ職工タラント欲スルトキハ、特定ノ官署ニ就テ職工證ヲ請求スルヲ要ス。此官署ハ或ハ市町村役場ナルアリ、或ハ警察署ナルアリ而シテ是等官署ハ或ハ原籍地トシ、或ハ工場所在地トセリ。以太利ニ於テハ職工證ノ交付ハ官署之ヲナサズシテ同業組合ニ一任セルモノハ偶々以テ一異例ナリトス。職工證ニハ職工ノ氏名、年齢、住所、出生地及ビ父母後見人ノ氏名住所ヲ記載スルヲ要ス。此證明書ハ無手数料ニテ之ヲ交付ス。職工ハ之ヲ受取リテ後工場ニ赴キ工場主ト雇傭契約ヲ取結ビ、工場主ヲシテ雇入期日、雇傭期間及ビ自己ノ執ルベキ業務ノ種類等ヲ記入セシメ之ヲ工場主ニ預ケ置キ、満期解雇ノ際、解雇ノ時日ヲ記入セシメ之ヲ受取ルナリ。更ニ他ノ工場ニ雇入レラル、トキ同一ノ手續ヲナスモノトス。職工ハ此證明書ヲ所持スルニ非ザレバ工場ニ雇入レラル、コトヲ得ザルト同時ニ、工場主ハ之ヲ有セザル職工ヲ傭使スルヲ得ズ。工場主ガ職工證ニ記入ヲナスニ當リ、法律ノ規定セル事項ノ外何等ノ記入ヲナスコト

ヲ得ズ。標號ヲ記入シテ暗ニ其職工ノ性行ヲ示シ、同業者ニ注意ヲ與フル等、職工ノ不利益トナルベキ事項ヲ記入スルガ如キハ固ヨリ其禁ズル所タリ。工場主ハ工場監督官ノ求メニ應ジテ何時ニテモ之ヲ提供セザル可ラズ、是レ工場監督ノ必要ニ基ケルモノナリ。

職工ノ身分經歷ヲ證明スルニ就キ職工證ノ有効ナルコトハ固ヨリ疑ヲ容レザル所ナリ。即チ職工證ニハ先ニ述べタルガ如ク身分ニ關シテ詳細ナル記入ヲナスガ故ニ、職工自身ハ到底之ヲ詐ルノ餘地ナカルベク、工場主モ亦之ヲ知ラズト云フノ理由ナシ。去レバ職工證ハ工場監督官ニ對シ其職務ヲ執行スルニ就テ至大ノ便宜ヲ與フルモノタリ、即チ夫ノ職工年齢ノ區別ニヨリ生ズル所ノ勞働條件ニ關スル種々ノ制限ニ就キテ工場監督官ハ職工證ニ基キテ職工ノ身分ヲ明ニシ容易ニ必要ナル處分ヲナスコトヲ得ベシ。今若シ此證明書ナシトセンカ、工場監督官ハ職工ノ身分年齢等ヲ知ルノ方法ヲ有セザルカ爲メ迅速ニ其職務ヲ執行スル能ハザ



ルベシ。且夫レ職工ガ工場ヲ轉ズル毎ニ工場主ガ雇傭期間及ビ執業ノ種類等ニ就キ職工證ニ記入ヲナスコトハ職工ニ對シテハ其技術上ノ經歷ヲ證明スルノ手段トナリ、新タナル工場主ニ對シテハ其技術ニ關スル正當ノ判斷ヲナスノ方法トナリ、從ツテ雇傭ノ手續ヲ容易ナラシメ失業ノ機會ヲ減少スルノ効アリ、是レ社會改良策トシテ洵ニ稱揚スベキモノニ非ザルカ。

近時獨逸ニ於テ職工證ヲ以テ雷ニ幼少年工ノミナラズ、更ラニ進ンデ成年ノ職工ニ適用スルノ議ヲ立ル者アリ、其理由トスル所ヲ要スルニ職工證ハ雇傭契約ヲ確固ニスルノ力アリ、蓋シ工場主ハ雇傭期間中職工證ヲ保管シ又工場主ハ職工證ヲ有セザル職工ヲ傭使スル能ハザルノ規定アル場合ニハ職工ハ雇傭期間中、正當ノ事由ナクシテ妄リニ工場ヲ轉ズルコト能ハズ、從ツテ職工移動ノ弊害ヲ防止シ、勤續期間ヲ長クスルコトヲ得ベシト云フニ在リ。顧フニ職工證ヲ成年職工ニ適用スルハ社會政策上

何等ノ理由ナキノミナラズ、却テ顯著ナル害惡ノ原因タルモノタリ。職工證ハ本來ノ性質トシテ職工ノ自由ヲ拘束シ、其利益ヲ害スルモノタルニ拘ラズ、幼少年工ニ對シ之ヲ適用スル所以ノモノハ他ナシ、先ニ述ブル所ノ特別ノ事情アルガ爲メノミ、然ルニ是等ノ必要存セザル成年職工ニ對シテ之ヲ適用セントスルハ理由ナキコトタリ。抑モ雇傭契約ヲ確固ニシ勤續年限ヲ延長スルノ方法トシテハ職工證ノ力ヲ藉ラザルモ其目的ヲ達スルコト敢テ難シトセズ、今若シ工場主ニシテ成ルベク勞働條件ヲ寬大ニシ、適當ノ範圍ニ於テ賃銀ノ増加ヲナシ加フルニ懇切ナル待遇ヲ以テセバ職工ハ何ヲ苦ンデ工場ヲ轉々スルコトヲナサンヤ。然ルニ工場主ハ自己ノ掌中ニ在ル手段方法ハ措イテ之ヲ顧ミズ、妄リニ法律ノ力ヲ藉ツテ之ヲ職工ニ強ヒントスルハ洵ニ不當ノ要求ナリト云ハザル可ラズ。

## 第十 危害ノ豫防

各國工場法ニ於テ危害豫防ノ規定ハ只大體ノ準則ヲ定メ詳細ナル取締



ハ之ヲ命令ニ讓ルヲ以テ立法ノ通則トセリ。是レ此種ノ監督ハ工業ノ種類性質ニ應ジテ其方法ヲ異ニセザル可ラズ。又各個ノ場合ニ於テ特別ノ處分ヲナスノ必要アルニ依ル。抑モ危害豫防ノ事タル職工保護ノ爲メニ重要ナル關係ヲ有セルコト固ヨリ爭フベカラザル所ナルモ、此事タル技術ノ問題ニ屬スルヲ以テ余輩ノ喙ヲ容ルベキモノニアラズ。去レバ余ハ茲ニ各國工場法中ヨリ之ニ關スル規定ヲ抄録シ由ツテ以テ危害豫防ノ一斑ヲ示サント欲ス。

佛蘭西工場法第十四條ニ曰ク、本法第一條ノ造營物及ビ之ニ附屬セル建物ハ常ニ清潔ニシテ適當ナル明取、通風ノ設備ヲ爲シ、衛生及ビ保安ノ爲メニ必要ナル事情ヲ具備スベシ。原力ヲ用ユル器械ヲ備フル所ノ工場ニ於テハ車輪、帶革、觸接部等ニシテ危害ノ憂アルモノハ職工ヲシテ安ニ之ニ近寄ラシメザルノ設備ヲ爲スベシ。井戸、土窖、階段ノ降口ニハ圍障ヲ設クルヲ要ス。

獨逸工業法、甲第二百十條ニ曰ク、工業主ハ事業ノ性質ガ許ス限リ執業場ノ設備、機械及ビ器具等ノ排列ニ就イテ職工ノ生命健康ニ危害ヲ來タサルコトヲ努ムベシ。工場ニ充分ノ日光ヲ入レ、空氣ヲ流通シ、執業ノ際生ズル塵埃ヲ掃除シ、烟及ビ瓦斯ノ室内ニ入ルヲ防ギ、是等ノモノヨリ生ズル害惡ヲ防止スルコトヲ注意スベシ。機械ノ全部若クハ部分ニ接觸スルヨリ起ル危害及執業場或ハ職業ノ性質ヨリ生ズル危害並ニ火災ヨリ生ズル危害ニ對シ職工ヲ保護スル爲メニ必要ナル設備ヲ爲スヲ要ス。工業主ハ執業ノ整理及ビ職工ノ行爲ニ關シ危害豫防ニ必要ナル規則ヲ設クルコトヲ要ス。

余ハ本章ヲ了フルニ當リ、歐洲各國ノ工場法ノ前途ニ横ハル所ノ最モ重要ナル現象ヲ記述セント欲ス。是レ他ナシ、工場法ヲ以テ國際法律トナシ、各國政府ヲシテ國際條約ニ依テ均一ナル規定ヲ設ケシムルノ計畫是ナリ。一八九一年獨逸皇帝ハ此目的ノ爲メニ列國會議ヲ開キ、各國ノ代表者



ヲ召集セリ。之ニ賛同セル諸國ハ、埃匈國、英吉利、佛蘭西、以太利、瑞西、白耳義、和蘭、葡萄牙、瑞典、那威、丁抹、西班牙、ルクサンブルグ等ナリ。此會議ノ決議ハ、只各國ノ立法者ニ向ツテ列國會議ノ冀望ヲ述ブルニ止マリ、直チニ之ヲ以テ國際條約ノ實質トナシ、強行ノ力ヲ有セシムルコト能ハザリキ。其決議ノ大要左ノ如シ。

(1) 幼年工ノ勞働ニ關スル制限

一定ノ年齢以下ノ幼者ノ勞働ヲ禁止スルコト。此年齢ハ歐洲南部ノ諸國ニ在ツテハ十歳トシ、其他ノ諸國ニ在ツテ十二歳トスベシ。此年齢ノ制限ハ工業ノ種類ニ拘ラザルモノトス。

幼年工ニ對シテハ普通教育ノ完了ヲ阻害セザルコトヲ要ス。

十四歳以下ノ幼年工ニ對シテハ徹夜業及ビ日曜日ノ勞働ヲ禁止スベシ。幼年工ノ勞働時間ノ制限ハ六時間トシ三十分間ノ休憩ヲ以テ之ヲ中斷スベシ。

幼年工ハ特ニ衛生ニ害アルカ若シクハ、危險ノ虞アル業務ヲ執ラシム可ラズ。但シ特定ノ條件ニ依リ之ヲ許可スルコトヲ得。

(2) 少年工ノ勞働ニ關スル制限

十四歳乃至十六歳ノ少年工ニ對シテハ徹夜業及ビ日曜日ノ勞働ヲ禁止スベシ。

少年工ノ勞働時間ノ制限ハ十時間トシ、合計一時間半ノ休憩ヲ以テ數回中斷スベシ。

特ニ衛生ニ害アリ、若シクハ危險ノ虞アル業務ニ就テハ特定ノ條件ニ依リ之ヲ許スベシ。

十六歳乃至十八歳ノ男子ニ對シテハ必要ニ應ジ是等ノ事項ニ關シ相當ノ保護ヲナスベシ。

(3) 成年女工ノ勞働ニ關スル制限

十六歳以上ノ成年女工ノ徹夜業ヲ禁止スルコト。



勞働時間ノ制限ハ十一時間トシ、合計一時間半ノ休憩ヲ以テ數回中斷スベシ。

特ニ衛生ニ害アリ、若シクハ危險ノ虞アル業務ニ就テハ特定ノ條件ニ依リ之ヲ許スベシ。

分娩後四週間ヲ經過スルニ非ザレバ勞働ヲナサシム可ラズ。

第二回列國工場法會議ハ一九〇五年瑞西政府ノ主催ニ依リ「ベルン」市ニ開カレタリ。之ニ賛同セル諸國ハ第一回ニ於ケルト略同一ナリキ。議題ハ女工ニ對シ徹夜業ヲ禁止スルコト、及ビ燐寸ノ製造ニ黃燐ヲ用ユルコトヲ禁ズルノ二件ナリ、其決議ノ要旨左ノ如シ。

(1) 女工ノ徹夜業禁止ニ關スル決議

職工十人以上ヲ僱使セル總テノ工場ニ於テ女工ノ徹夜業ヲ禁止スルコト。

徹夜業トハ午後十時乃至翌日午前五時ノ時間ヲ包含セル十一時間繼續

セル執業方法ヲ云フ。但シ新タニ成年女工ニ對シ徹夜業ノ禁止ヲナス國ニ於テハ此時間ヲ十時間ニ短縮スルコトヲ得。

徹夜業ノ禁止ニ就テハ事業ノ性質ニ依リ或ハ臨時ノ場合ニ於テ適當ナル特例ヲ設クルコトヲ得。

(2) 燐寸製造ニ關スル決議

一九一一年一月一日以後、黃燐ヲ使用セル燐寸ノ製造、輸入、販賣ヲ禁止スルコト、但シ此決議ハ日本政府ノ賛同ヲ俟ツテ其效力ヲ生ズルモノトス。是等ノ決議ニ關シ賛同セル諸國ハ之ニ基キ條約ノ締結ヲナスベキモノトシ、其期間ハ一九〇七年十二月三十一日迄トセリ。已ニ此趣旨ニ基キテ條約ヲ締結セル國若干アリ、憾ムラクハ黃燐燐寸ニ關スル決議ハ日本政府ノ賛同ナカリシヲ以テ自ラ消滅ニ歸シタリ。



## 第十五章 勞働保險ノ性質

勞働保險ノ  
目的

勞働保險ノ目的ハ保險ノ方法ニ依リテ勞働者ガ勞働ノ能力ヲ減失シ終ニ窮民ノ伍ニ入ルヲ豫防スルニ在リ。換言スレバ勞働者ノ生計ノ安固ヲ圖ルハ勞働保險ノ主眼トスル所ナリ。

世人動モスレバ勞働者ト窮民トヲ同一視シ勞働問題ト窮民問題トヲ區別セザルノ傾向アリ。是レ誤謬ノ已甚シキモノタリ。勞働者必ラズシモ窮民ニ非ラズ勞働者ニシテ完全ナル勞働能力ヲ有セル間ハ其所得ハ優ニ小資本家ト匹敵スルコトヲ得ル場合アリ。英國勞働者ノ狀況ヲ觀察センカ、此社會階級ノ地位侮ル可ラザルモノアルヲ見ン。抑モ勞働者ト窮民トヲ同一視スルノ非ナルコトハ固ヨリ言ヲ俟タザル所ナルモ勞働者ハ動モスレバ窮民ニ陥リ易キ境遇ニ在ル者ナリト云フハ失當ノ言ニ非ルベシ。蓋シ勞働者ハ資本家ノ如クニ資本ノ收入ニ依ツテ衣食スル者ニ非ラ

ズ只自己ノ身體ニ附着セル勞力ヲ估賣シ由ツテ以テ生計ノ資ヲ得ル者ナルガ故ニ、其勞働能力ニシテ完全ナル間ハ何ノ憂フル所ナシトスルモ一旦偶然ノ事情ノ爲メニ此能力ヲ減少若シクハ喪失センカ、彼等ハ其財源ヲ奪ハレ空シク道途ニ彷徨スルノ窮境ニ陥ルベシ。勞働者ノ境遇ヤ亦憫ムベキモノアリト云ハザルヲ得ズ。

勞働者ヲシテ勞働能力ヲ減失セシムルノ事情一ニシテ足ラズ、今其重ナルモノヲ舉ゲンカ左ノ如シ。

(1) 業務災厄

(2) 疾病

(3) 老衰及ビ廢疾

業務災厄ナルモノハ固ヨリ勞働ニ伴フ所ノ特種ノ事情ニシテ勞働者以外ノ社會階級ニ於テハ稀ニ見ル所タリ。殊ニ器械的工業ニ在ツテハ殆ンド免ル可ラザルモノトス。而シテ工業ニ於ケル器械ノ應用進歩スルニ從



ツテ益々増加スルハ自然ノ勢ナリ。顧フニ業務災厄ノ結果ニシテ輕微ナル場合ニ於テハ勞働者自己ノ資力ヲ以テ之ニ處スルコトヲ得ベク之ヲ放任センモ可ナルベシト雖モ、其ノ重大ナルモノニ在ツテハ或ハ四肢ヲ挫折シ或ハ五官ヲ傷害スル等著シク勞働能力ヲ減少シ、或ハ全タク之ヲ喪失セル場合ニ於テハ彼等ハ到底窮民トシテ他人ノ保護ニ依ルカ、然ラザレバ公共ノ救助ヲ抑グノ外其途ナキニ至ルベシ。若シ夫レ業務災厄ニ罹ツテ死亡セル勞働者ノ遺族ニ至ツテハ其狀更ニ憫ムベキモノアルハ固ヨリ言ヲ俟タズ。

疾病、老衰、廢疾等ノ事情ハ一般ノ人ト雖モ免ル、能ハザル所ニシテ勞働者ニ特有ナルモノニ非ラズ。是レ是等事情ガ業務災厄ト其趣ヲ異ニセル所ナリトス。然リト雖モ勞働ノ種類ニ依ツテ特有ノ疾病ヲ存セル場合アリ。例ヘハ紡績工場ニ於ケル肺病、有害物ヲ取扱フ工場ニ於ケル有害物中毒等ノ如シ。其他ノ工場ニ於テモ亦種々ノ原因ニ基キ工場生活ノ爲メニ

疾病ヲ惹起スルコト少ナシトセズ。又老衰及ビ廢疾等ノ事情ニ就イテモ勞働ノ種類性質ニ基キ一般人ニ比スレバ勞働者ノ老衰ノ期ハ速カニ至リ又廢疾トナルノ機會多シトス。是レ疾病ノ場合ニ於ケルガ如ク工場生活ニ伴フ弊害ニ外ナラズ。是等ノ事情ノ爲メニ勞働不能トナリタル勞働者ハ奈何ニシテ自力ヲ以テ其生計ヲ支持スベキヤ、短期ノ疾病ハ措イテ之ヲ問ハズトスルモ其ノ久シキニ涉ルモノニ在ツテハ殆ンド之ニ處スルノ方法ナカルベシ。殊ニ老衰廢疾ノ場合ニ至ツテハ永久ニ其勞働能力ヲ恢復スルノ望ナク收入ノ途ハ更ラニ再タビ之ヲ求ムル能ハズ、相率イテ窮民ノ伍ニ加ハルニ至ルベシ。

勞働者ヲシテ窮民トナルヲ豫防スルノ方法タル他ナシ、是等ノ事情ニ對シ豫メ救濟ノ途ヲ開ラキ其生計ノ安固ヲ圖ルニ在リ。然リ而シテ此手段ニ就キ說ヲナス者アリ曰ク。天ハ自ラ助クル者ヲ助ク、勞働者ニシテ窮民タルコトヲ欲セスンバ宜シク當時ニ貯金ヲナシ由ツテ以テ不時ノ厄ニ



備フベシト。余ハ勞働者ニ對シテ貯金ノ必要ヲ認ムルコト論者ニ讓ラズ、然レドモ勞働不能ニ處スルノ救濟方法トシテハ貯金制ヨリハ寧ロ保險制ヲ採ラント欲スル者ナリ。今勞働不能ニ對スル救濟ノ方法トシテ二者ヲ比較センカ、貯金制ニ依ツテハ其金額足ラズ充分ナル救濟ヲ施スコト能ハザルトキニ於テモ保險制ニ依レバ直チニ其目的ヲ達スルコトヲ得ベシ。奈何トナレバ保險制ニ於テハ特定ノ事情發生スルトキハ既ニ支拂ヒタル保險料ノ多寡ニ拘ラズ定額ノ保險金ヲ受ルコトヲ得レバナリ。加之ノミナラズ勞働不能ナル事情ハ不時ニ起ル場合多キガ故ニ之ニ對シテ豫メ一定ノ貯金ヲナスハ殆ンド不可能ノ事ニ屬セリ。夫ノ保險制ニ於テ特定ノ條件ヲ充タストキハ何時ニテモ救濟ヲ受クルヲ得ルノ便宜ノ如キハ得テ之ヲ望ム可ラズ。又保險制ハ貯金制ニ比スレバ、貯蓄ニ關スル強制力ヲ有セルノ事實アリ、貯金制ニ於テハ貯金ノ多寡ハ當人ノ意思ニ放任セルヲ以テ動モスレバ放漫ニ流レ易ク他ノ事情ノ爲メニ之ヲ忽ニ

勞働保險ノ組織

スルノ傾向アルヲ常トス。然ルニ保險制ニ於テハ定額ノ保險料ヲ支拂フニ非レバ保險ノ利益ヲ受クル能ハザルガ故ニ其定額ニ達スルマデ當人ハ奈何ナル事情ヲモ顧ミズ自己ノ所得中ヨリ之ヲ抽出スルハ人情ノ然ラシムル所ナリ。是レ亦貯金制ト保險制ト其性質ヲ異ニセル所以ニシテ從ツテ勞働不能ノ救濟方法トシテ保險制ノ貯金制ニ優ル所以ナリトス。勞働保險ノ組織ハ種々アリ、茲ニ歐洲各國ニ行ハル、所ノ實例ヲ列記セシカ、大約左ノ四種ニ外ナラズ。

- (1) 營業保險
- (2) 單獨保險
- (3) 相互保險
- (4) 官業保險

營業保險ハ營利事業タル保險會社ノ營ム所ノ勞働保險ニシテ此組織タル勞働保險ト相容レザル性質ヲ有セリ。蓋シ營業保險ハ營利ヲ目的トシ



テ成立セルモノナルガ故ニ、成ルベク保険料ヲ多クシ、而シテ成ルベク保険利益ヲ少ナクスルコトヲ務ムルヲ常トス。假令ヒ同業者間ニ行ハル、所ノ自由競争ノ爲メニ、又私業ニ伴フ經費節約ノ結果トシテ、例外ノ事實時ニ或ハ之アリトスルモ、其本來ノ目的ニ於テ、已ニ勞働保險ノ如キ社會改良ノ理想ニ出ヅルモノトハ大ニ其趣ヲ異ニセリ。去レバ營業保險ガ中産以上ノ者、殊ニ資本家ヲ以テ其得意ノ範圍トナシ、廣ク勞働者ニ及ボスコトヲ好マザルハ固ヨリ怪ムニ足ラズ。

單獨保險ハ大工場主ガ工場附屬ノ事業トシテ勞働保險ノ業ヲ營ミ只自己ノ備使セル勞働者ニノミ對シテ行フ所ノモノタリ。此場合ニ於テハ工場主ハ保險ノ經營ニ要スル費用ヲ負擔シ或ハ保險料ヲ補助シ被保人タル勞働者ニ對シ充分ニ保險ノ利益ヲ享受セシムルコトヲ得ベク勞働保險ノ組織トシテハ固ヨリ間然スル所ナシ。然レドモ、此組織タル慈善心ニ富ミ、常ニ勞働者ノ休戚ヲ念トスル所ノ工場主ニ限り得テ望ムベキコト

タリ。而シテ此種ノ工場主ハ殆ンド九牛ノ一毛タルガ故ニ、之ヲ以テ普ニク勞働保險ノ組織ニ適用スルコト能ハザルハ言ヲ俟タズ。且又此組織ニ依ルトキハ工場主ガ破産セル場合ニ於テ被保人タル勞働者ハ不測ノ損害ニ罹ルノ危険アリ加之ノミナラズ工場主ハ之ヲ以テ勞働者ヲ抑壓スルノ利器トナスコトモ亦之ナシトセズ。

相互保險ニハ其種類三アリ。

- (1) 勞働者ガ相互ノ救済ノ爲メニ組織セル組合
- (2) 工業主ガ勞働者救済ノ爲メニ組織セル組合
- (3) 勞働者工業主協同シテ勞働者ノ爲メニ組織セル組合

相互保險ハ勞働保險トシテ最モ廣ク行ハル、所ノモノナリ、是レ相互保險ノ性質之ヲシテ然ラシメタルニ依ル。蓋シ相互保險ハ營業保險ノ如ク被保人以外ニ營業者アリテ利益ヲ占ムルコトナク、各自共同ニ其費用ヲ負擔シ、其利益ヲ享受スルヲ以テ主眼トスルモノナレバナリ。然リ而シテ



茲ニ掲グル所ノ三種組織ノ優劣ハ保險ノ種類ニ依テ異ナリ、一概ニ之ヲ論定スルヲ得ズ、各國ノ實例ヲ按ズルニ災厄ニ對スル保險ハ第二種ノ組織ニ依ルハ各國殆ド其揆ヲ一ニセリ、是レ他ナシ、各國ノ法律ニ於テ工業主ヲシテ災厄救済ノ義務ヲ負擔セシムルヲ常トス、然ルニ此負擔タル大工場主ニ在テハ敢テ之ヲ難シトセザルモ小工場主ニ在テハ之ガ爲メニ其資本ノ大部分ヲ奪ヒ去ラル、ノ場合ナシトセズ、於是乎工場主ノ間ニ組合ヲ設ケ、相互保險ノ組織ニ依リ、此負擔ヲ各自ニ分配スルノ必要起レリ、疾病ニ對スル保險ハ第一種ノ組織ニ依ルモノト、第三種ノ組織ニ依ルモノト稍々相半バスルモノ、如シ、老衰及ビ廢疾ニ對スル保險ハ特別ノ場合ヲ除キテハ第三種ノ組織ニ依リ經營セラル、モノ多シ、是レ此種ノ保險ハ費用ヲ要スルコト頗ル多キガ爲メニ、到底勞働者ノ獨力ヲ以テ之ニ當ルノ難キヲ以テナリ。

官業保險ハ政府自ラ經營スル所ノ保險組織ニシテ勞働保險ノ理想ヲ充

足スルニ於テ其適當ナルコト相互保險ニ讓ル所ナシ、殊ニ老衰及ビ廢疾ニ對スル保險ニ就テハ、其基礎ノ鞏固ナルコト、其發達ノ健全ナルコト、恐ラクハ官業保險ノ右ニ出ヅルモノナカルベシ、蓋シ此種ノ保險ニ在テハ其救済ヤ永久ニ涉ルガ故ニ私業トシテ之ヲ營ムハ危險ノ虞ナキニ非ラズ、又其救済ハ鉅額ニ昇ルガ故ニ政府ガ多少ノ補助ヲナスニ非ザレバ勞働者ハ保險料ノ負擔ニ堪ヘザルノ憂アリ、是等ノ理由ニ基キ老廢ニ對スル官業保險ハ漸次各國ニ行ハル、ニ至レリ。

勞働保險ノ主義ニ關シテ現今歐洲各國ノ實例ニ二種ノ區別アリ、曰ク任意保險、曰ク強制保險是ナリ、此二主義ノ分ル、所ハ強制加入ノ有無ニ在リ、之ヲ詳言センカ政府ハ勞働者若クハ資本家ニ對シテ勞働保險ニ加入スルノ義務ヲ負ハシムルヤ否ヤニ在リ、一派ノ學說ニ依レバ強制保險ノ條件トシテハ強制加入ノ外、尙ホ強制設備ヲ加ヘザル可ラズ、即チ政府ガ法定ノ設備ヲナスコトヲ勞働者若クハ資本家ニ強行シ、且ツ之ニ加入ス



ルコトヲ強行スルニ非ズンバ強制保険ノ性質ヲ缺クモノトナセリ。余ノ見ル所ハ之ト異ナリ。若シ夫レ強制保険ノ主義ヲ終極マデ遂行セント欲セバ此二條件ヲ充サハル可ラザルヤ論ナキノミ。去レド強制保険ハ必ズシモ強制設備ヲ俟ツテ始メテ行ハル、モノニ非ラズ、強制設備ナキ場合ニ於テモ特定ノ條件ニ依テ公認セラレタル保険設備ニ就キ加入ヲ強行セバ、強制保険ノ目的ヲ達スルコト難シトセズ。各國ノ實例ハ之ヲ證スルニ餘リアリ。由是觀之強制保険ノ要件ハ只強制加入ノ主義ヲ執ルニ在リ、其設備ノ強制ナルカ將タ任意ナルカハ之ヲ問フヲ要セズ。余ハ次章各國ノ強制設備ヲ述ブルニ當リ、強制加入ノ主義ヲ採ラザル場合ニ於テハ、官業ノ保險ト雖モ尙モ之ヲ以テ任意保険トナシ、又強制加入ノ主義ヲ採リタル場合ニハ任意設備ヲ認メタルモ之ヲ強制保険ノ種類ニ舉ゲント欲ス。任意保険ト強制保険トヲ比較シ其優劣ヲ斷定スルコトハ容易ノ業ニ非ズ。茲ニ各國勞働保險ノ來歴ヲ按ズルニ、從來ハ任意主義ヲ通則トセリ、只

獨逸奧太利ニ於テ極テ狹隘ナル範圍ニ強制主義ヲ採用シタルヲ見ルノミ。近年獨逸政府ガ鐵血宰相ノ創意ニ基キ、強制主義ニ依テ各種ノ勞働保險ヲ實行シタルヨリ、各國之ニ倣フモノ漸次其數ヲ加フルニ至レリ。顧フニ強制保険ノ利害ヲ判斷セント欲セバ先ヅ國民ノ氣風ヲ考察セザル可ラズ。夫ノ英吉利ノ如キ國民ハ自尊獨立ノ氣象ニ富ミ、政府ノ干涉ハ只己ムヲ得ザル場合ニ於テノミ之ヲ許スノ風アル所ニ於テハ強制保険ハ到底之ヲ行フニ由ナカルベク、寧ロ之ヲ任意保険ニ放任スルモ保險普及ノ目的ヲ達スルコト敢テ難シトセズ。然レドモ之ト正反對ノ氣象ヲ有セル獨逸國民ノ如キニ在テハ任意主義ニノミ依ルトキハ勞働保險ノ發達ハ甚ダ緩漫ニシテ、從ツテ時勢ノ急ニ應ズルコト能ハザルベク、是ノ如キ國民ニ對シテ強制主義ヲ採ルハ亦已ムヲ得ザルコト、云フベシ。之ヲ要スルニ國民ノ氣風奈何ニ依ツテ二者ノ利害ノ比較ヲナサハルベカラズ。今假リニ此論點ヲ離レテ一般ニ強制保険ノ利害ヲ説明センカ、勞働保險ヲ



普及セシムルガ爲メニハ強制保険ノ利タル固ヨリ争フ可ラザル所トス。然リト雖モ強制主義ヲ執ル場合ニ勞働者ガ保険ニ加入スルハ保險ノ必要ヲ自覺シタルノ結果ニ非ラズシテ只政府ノ命令ニ違背スルノ恐アルガ爲メニスルモノタリ。從ツテ立法ノ精神ハ彼等ノ間ニ明カナラザル爲メ制度ノ運用ニ少ナカラザル困難ヲ生スルノミナラズ、社會組織ニ對スル彼等ノ不平怨嗟ハ之レニ由ツテ慰撫スルヲ得ザルナリ。余曾テ歐洲ニ留學スルヤ、獨逸ニ留マルコト數月、偶々一勞働者ニ就キ強制保険ニ關スル彼等ノ意向ヲ窺ヒシニ、彼ハ冷然トシテ語ツテ曰ク、余等ハ消費稅其他各種ノ稅目ヲ以テ政府ニ納ムル所少ナキニ非ラズ、然ルニ政府ハ尙ホ之ヲ以テ足レリトセズ、更ニ進ンデ保險稅ヲ徵收セリ、政府ノ誅求何ゾ是ノ如ク甚シキヤト。顧フニ此勞働者ハ社會黨ニ加盟セル者ナリ、從ツテ其思想ノ危激ニ失セルコト是ノ如キハ亦怪ムニ足ラズト雖モ、獨逸勞働者ノ強制保険ニ對スル感想ノ一斑ハ之ニ由ツテ推スコトヲ得ベシ。更ニ強制

保險ニ對スル資本家ノ態度ヲ見ルニ彼等ガ勞働保險ニ關シ多大ノ負擔ヲナセルハ彼等ノ好意ニ出ヅルニ非ズ、全ク強制ノ結果ナルガ爲メニ、彼等ノ抱ク所ノ感情モ亦勞働者ト同一ナルモノ、如シ。而シテ之ニ關スル勞働者ノ感情ハ殊ニ奇ナルモノアリ、彼等ハ資本家ガ此負擔ヲナスハ當然ノ義務ナリトシ、毫モ資本家ヲ德トスルノ念ナシ。是等ノ事情ハ強制保險ノ弊害トシテ認ムベキモノナリ。若シ夫レ任意保險ニ在テハ勞働者ノ保險ニ加入スルヤ其思想ハ全ク之ト其趣ヲ異ニスベク、又資本家ハ慈惠ノ念ニ動かサレテ之ニ加入スルヲ以テ勞働者ト資本家トノ調和ヲ保ツニ於テ其効大ナルベシ。去レバ強制保險ハ社會改良ノ實効ヲ收ムルニ就テ固ヨリ間然スル所ナキモ勞働保險ニ關スル道義的基礎ヲ頽敗セシムルノ恐ナシトセズ。是レ實ニ強制保險ノ缺點タリト云ハザルヲ得ズ。

勞働保險ニ關スル費用、即チ保險料其他經營ニ要スル費用ノ負擔ニ就テハ保險ノ組織及ビ保險ノ種類ニ依ツテ其趣ヲ異ニスベキコトハ言フ俟



タザルモ、之ヲ概言センカ、勞働者資本家及ビ國家ノ共同負擔トナスコトハ近時各國立法ノ趨勢ナリトス。顧フニ勞働保險ノ被保人トシテ保險ノ利益ヲ受クル所ノ者ハ勞働者ニ外ナラザルヲ以テ、夫ノ災厄保險ノ如キ特別ノ理由ニ依テ保險料ノ負擔ヲ資本家ニ歸スルノ場合ノ外、總テ勞働者ヲシテ之ヲ負擔セシムルハ當然ノ處置ナルカ如シ。去レド勞働者ノ僅少ナル所得ヲ割キテ保險料ヲ支出セシムルモ到底充分ナル救済ヲナス能ハザルノ憂アリ。殊ニ老癯保險ノ如キ鉅額ノ費用ヲ要スルモノニ在ツテハ勞働者ハ保險料負擔ノ資力ヲ缺ケルモノト云ハザルヲ得ズ。於是乎資本家ヲシテ之ヲ分擔セシメ、尙ホ進ンデハ國家ヲシテ相當ノ補助ヲナサシムルノ必要起レリ。或ハ曰ク資本家ヲシテ保險費用ノ幾分ヲ負擔セシムルトキハ保險ノ種類ニ依リ殊ニ相互保險ノ場合ニ於テハ必ズヤ保險ノ組織ニ參加セシメザル可ラズ。而シテ資本家ヲシテ保險ノ組織ニ參加セシムルハ勞働者ノ獨立心ヲ阻害シ、延イテ勞働者ガ資本家ニ對シテ

屈辱ヲ甘ンズルノ結果ヲ生ズベシト。此議ヤ英佛兩國ニ於テ盛ニ行ハレタリ。余ハ或程度ニ於テ此事實ヲ認ムル者タリト雖モ資本家ヲシテ費用ヲ分擔セシムルコトハ保險技術上至大ノ利益アリ、又社會ノ調和ニ資スル所少ナキニ非ラズトセバ、一方ニ於テ多少ノ弊害アルモ社會改良上之ヲ忍バザル可ラズ。若シ夫レ保險ノ組織ニ於ケル資本家ノ勢力ニ至ツテハ之ヲ防止スルニ就テ自ラ其途アルベシ。

工業主ヲシテ保險ノ費用ヲ分擔セシムルノ理由ハ右述ブル所ノ如シ、然リ而シテ此理由ハ一般ノ勞働保險ニ關スルモノタリ、若シ夫レ災厄保險ニ關シテハ各國ノ制度ニ於テ其費用ハ主トシテ工業主ノ負擔ニ歸スルヲ例トセリ。是レ災厄保險ノ目的タル業務災厄ノ特別ノ性質ニ基ケルモノタリ、此事ニ就テハ後ニ之ヲ説明スベシ。

勞働保險ノ費用ヲ國家ニ分擔セシムルコトハ最近ノ事例ナリ。抑モ政府ガ社會政策ノ必要ノ爲メニ相當ノ費用ヲ支出スルハ當然ノ事ニシテ殊



ニ勞働保險ノ如キ社會改良ノ爲メ最モ緊要ナル事業ニ對シテハ財力ノ許ス限リ之ヲ保護スルハ國家ノ義務ヲ果タスモノタリ。産業保護ノ名ノ下ニ資本家ガ多額ノ國費ヲ消耗セルハ各國常ニ見ル所タリ。政府ハ獨リ勞働者ニ對シテ吝ナルノ理アラシヤ。況ンヤ勞働保險ニ在テハ保險技術上政府ノ補助ヲ必要トスルニ於テヲヤ。

國家ヲシテ勞働保險ノ費用ヲ分擔セシムルハ當ニ社會政策ノ必要ニ基ケルノミナラズ、更ニ財政上ノ理由ニ依レリ。顧フニ勞働保險ナルモノハ勞働者ガ窮民ニ陥ルコトヲ豫防スルノ方法ナリ。此方法ニシテ不完全ナランカ、窮民ハ次第ニ増加シ殆ンド其底止スル所ヲ知ラザルベシ。歐洲各國ニ於テハ窮民救助ヲ以テ公共ノ義務トナシ、國費或ハ地方費ヲ以テ窮民救助ノ制ヲ設クルハ各國ノ恒例ナリ。而シテ之ガ爲メニ支出スル所ノ費用ハ歲ヲ追ウテ増加セルヲ以テ、各國ノ財政家ハ頻リニ之ニ苦心シ、成ルベク窮民ノ範圍ヲ制限シ其數ヲ減ゼンコトヲ圖リ、院外救助ヲ縮少シ

テ院內救助ヲ勵行シ、由ツテ以テ濫惠ノ弊ヲ矯ムル等種々ノ方法ヲ設クルモ、之ニ要スル費用ノ増加ハ滔々トシテ禦グ可ラザルモノアリ。之ヲ防止スルノ方法ニシテ充分其効ヲ奏シタルモノハ未ダ之ナキガ如シ。然ルニ獨逸ニテハ強制保險ヲ施行セシ以來、窮民救助費ハ比較的增加ノ趨勢ヲ見ズ、只此制度ノ實行ハ多ク年所ヲ經ザルガ爲メニ、果シテ此費用ガ漸次減少ノ緒ニ就キタルヤ否ヤハ容易ニ之ヲ斷言スルヲ得ザルノミ。然ラバ則チ獨逸政府ガ勞働保險ノ爲メニ鉅額ノ補助ヲナセルモ、之ガ爲メニ窮民救助費ノ増加ヲ防グコトヲ得タルヲ以テ、一方ニ失フ所アルモ一方ニ得ル所アリ、一國財政ノ上ニ於テ彼是損益スル所ナシト云ハザルヲ得ズ。若シ夫レ數十年ノ後、此保險制ノ爲メニ窮民ノ數著シク減少スルニ及ベバ、獨逸政府ハ財政上偉大ナル効績ヲ奏シタルモノト云フベシ。聞説、獨逸ニ於テ勞働保險法案ガ議會ノ議ニ上ルヤ、社會黨ハ頻リニ冷語ヲ放ツテ之ヲ傷ケタリ、或ハ之ヲ稱シテ「マンテル」法案ト云ヘリ、蓋シ窮民救助法



ノ實質ニ被ラシムルニ勞働保險ノ形式ヲ以テシ、由ツテ以テ窮民救助ノ費用ヲ節約セントスルノ意義ナラン。顧フニ鐵血宰相ガ此法律ヲ制定シタルハ、之ヲ以テ社會問題ノ解決方法ト認メタルニ依ル。彼ノ眼中ニ財政計畫ナキコトハ疑ヲ容レザル所ナルモ、之ガ結果ヲ見レバ社會黨ノ批評モ亦幾分ノ眞理ヲ含メルモノタリ。之ヲ要スルニ勞働保險ニ對シテ政府ノ補助ヲナスハ、財政上ヨリ之ヲ見ルモ、亦必要ノ處置ナリト云ハザルヲ得ズ。

### 第十六章 勞働保險ノ種類

余ハ前章ニ於テ勞働保險ノ性質ニ就キ一般ノ説明ヲナセリ、茲ニ勞働保險ノ種類ヲ分チ述ブル所アラシム。

#### 第一 災厄保險

災厄保險ハ業務災厄ニ對スル保險ナリ、抑モ業務災厄ハ勞働ト密接ノ關係ヲ有セル外部ノ事情ニ基キテ起ルモノニシテ、夫ノ疾病ノ如キ老廢ノ如キ、勞働者ノ内部ノ事情ニ基ケルモノト其性質ヲ異ニセリ。或ハ疾病老廢ニシテ勞働ノ種類ト多少ノ關係ヲ有セル場合ナキニ非ラズト雖モ、多クノ場合ニ於テ疾病老廢ハ勞働ニ關係ナク、只人生免ル可ラザル自然的狀態トシテ發生スルヲ常トセリ。然ルニ業務災厄ニ至ツテハ勞働ニ關係セル外部ノ事情ニ依ツテ起ルモノタリ、即チ工場設備ノ不完全ナルコト、器械ノ整理宜シキヲ得ザルコト等ノ事情ハ實ニ業務災厄ノ主要ナル原

災厄保險



因ナリトス。

業務災厄ト疾病老廢トハ其性質ヲ異ニスルコト是ノ如シ。之ガ結果トシテ業務災厄ニ對スル救済ノ責任ハ専ラ工業主ノ負擔ニ歸シ、疾病老廢ニ對スル救済ノ責任ハ労働者主トシテ之ヲ負フハ當然ノ事ナルベシ。是レ歐洲各國ノ労働保險制ニ於テ災厄保險ハ疾病老廢ノ保險ニ比シテ其主義原則ヲ異ニセル所以ナリ。

業務災厄ニ關スル責任ヲ工業主ニ歸シ而モ保險制ニ依テ労働者ヲ救済スルコトハ歐洲ニ於テ社會政策ノ最近ノ事實ナリトス。是ヨリ以前ニハ業務災厄ノ性質未ダ立法者ノ間ニ明ナラズ、之ニ關スル救済ハ只民法ノ規定ニ基キ、極メテ狹隘ナル範圍ニ於テ労働者ガ工業主ニ對シ損害賠償ヲ請求スルノ方法アルノミ。然リ而シテ此範圍タル各國民法ノ規定ニ依ツテ多少其趣ヲ異ニセルモ、之ヲ概言センカ工業主若シクハ其代理者ノ故意或ハ過失ニ基ケル災厄ニ就イテノミ労働者ハ損害賠償ノ請求ヲナ

スコトヲ得ルモノトシ、其他ノ場合ニ於テハ其原因ノ何タルヲ問ハズ、其結果ノ輕重ニ拘ラズ、總テ工業主ノ責任ヲ認メザルモノトス。此原則タル損害賠償ニ關スル一般ノ法理ヲ以テ業務災厄ノ救済ニ適用シ、工業ニ於ケル業務災厄ナルモノハ自ラ一種ノ特徴ヲ有セルコトヲ認メザルナリ。此民法ノ規定ニ依リテハ災厄ニ罹リタル労働者ノ救済ハ到底充分ナルコト能ハズ、社會改良家ハ頻リニ特別ノ法令ヲ制定シ、由ツテ以テ救済ノ範圍ヲ擴張スルニ汲々タリキ、乞フ其理由ヲ説明セン。

業務災厄ノ原因ハ其種類一ニシテ足ラズ、工業主若シクハ労働者ノ故意ニ基ケルモノハ之ヲ舉グルノ要ナシ、其他ノ場合ニ就キ之ヲ分類センカ大略左ノ如シ。

- (1) 工業主若シクハ代理者、監督者ノ過失
- (2) 第三者タル労働者ノ過失
- (3) 労働者自己ノ過失



## (4) 不可抗力

## (4) 原因ノ不明ナル場合

右列記セル各種ノ場合ニ就キ、單ニ民法ノ規定ニ依ランカ、労働者ガ工業主ニ對シテ救済ヲ求ムルヲ得ルハ只第一ノ場合ニノミ限リ、其他ノ場合ニ於テハ労働者自ラ其責任ヲ負ハザル可ラズ。第二ノ場合ニ於テハ被害者タル労働者ハ第三者タル労働者ニ對シテ損害賠償ヲ求ムルノ權利ヲ有セルモ、労働者ノ資力ハ到底之ニ應ズルコト能ハザルハ明瞭ナル事實ナリトス。第三ノ場合ニ於テハ労働者ハ自己ノ過失ノ爲ニ災害ニ罹リシモノナルガ故ニ自ラ其責任ヲ負フハ當然ナルガ如シト雖モ、此場合ニ於ケル自己ノ過失ニ就テハ自ラ程度ノ區別アリ、從ツテ一概ニ之ヲ斷定ス可ラズ、今若シ其過失ニシテ重大ナルモノタリ、苟モ常識ヲ具フル者ニシテ是ノ如キ過失ヲナサザルベシト推定シ得ルモノナラシメバ自ラ其責任ヲ負ハシムルハ強チ不當ニアラザルベシ。然レドモ其過失ヤ極メテ輕

微ニシテ何人ト雖モ之ニ陥リ易ク、之ヲ以テ労働者ヲ咎ムルコトヲ得ザル場合アリ、此場合ニ於テ獨リ労働者ヲシテ其責任ヲ負ハシムルハ苛酷ノ處置タルヲ免レザルベシ。第四及ビ第五ノ場合ハ各種ノ業務災厄中、最も多數ヲ占ムル所ノモノタルコトハ苟モ工場ノ實務ニ經驗アル者ノ否ム能ハザルノ事實ナリ。是等ノ場合ニ於テ工場ノ建築、器械ノ設備ヲ完全ニセバ、之ヲ避クルノ途ナキニ非ラズ、從ツテ之ヲ工業主ノ責任ニ歸スルハ至當ノ事タルニ拘ラズ、民法ノ規定ニ依ルトキハ之ヲ工業主若シクハ代理者等ノ過失ニ歸スルヲ得ズ、奈何トナレバ彼等ノ過失ガ直接ニ災厄ヲ起シタルモノト認ムルヲ得ザレバナリ。

由是觀之民法ノ規定ニ依ツテ労働者ガ工業主ニ對シ救済ヲ請求スルヲ得ル場合ハ各種ノ災厄中其一小部分ニ過ギズ。果シテ然ラバ單ニ民法ノ規定ヲ以テシテハ社會政策ノ目的ヲ達スルニ由ナシト斷言セザルヲ得ザルナリ。